

《聖典選讀》 *Dhammasammosasutta*

追隨諸佛古道—忘失正法等經

巴漢對照 佛曆 2566. 6. 4 菩提僧團 Ven. Devacitta 整理

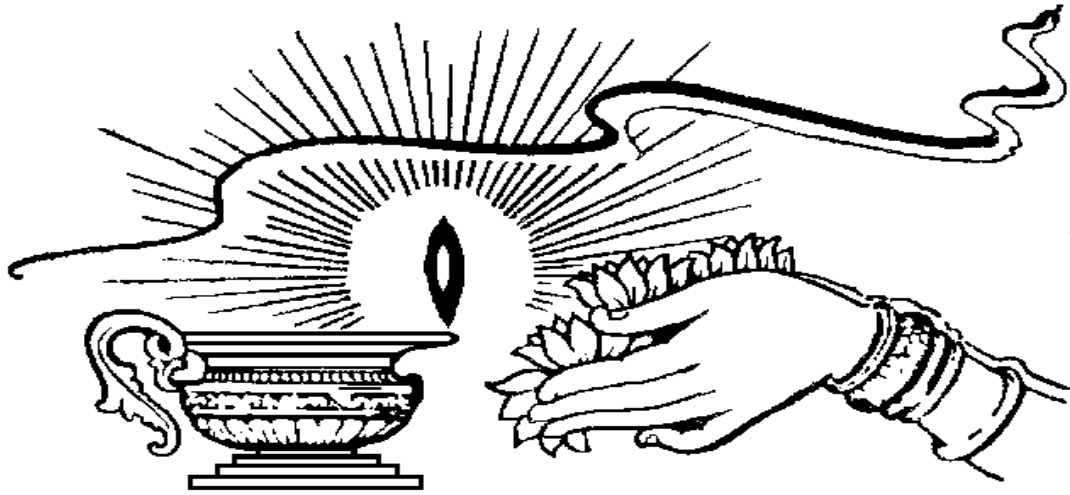
Namo Tassa Bhagavato Arahato Sammā Sambuddhassa.

皈命——於世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者

To Make Offerings to Supreme Buddha, Dhamma, Holy Scriptures.

供養——無上世尊、無上法身、無上舍利





忘失正法等經【大綱】(Outline)

♡ 惡人作惡業，愚者無明行；衆生感業苦，如火自焚身。(Dhp 10.6)


《聖典選讀》 Dhammasammosasutta.....	1
忘失正法等經【大綱】(Outline).....	2
忘失正法等經【目錄】(Contents).....	3
忘失正法等經【詳細目錄】(Inventory).....	5
啊！佛陀的智慧 What! Buddha's Wisdom.....	18
三皈依 Tisarāṇa / Three Refuges.....	19
☸ 追隨諸佛古道～忘失正法等經 Dhammapariyāya / Follow the Way from Buddhas.....	20
☸ 第一篇 相應部選讀 Saṃyuttanikāya / The Grouped Discourses.....	20
☸ 第二篇 增支部選讀 Aṅguttaranikāya / The Further-factored Discourses.....	43
☸ 第三篇 法句經選讀 Dhammapadapāli / The Path of Dhamma.....	251
聖典凡例 Text's Introduction.....	254
免費流通，歡迎助印！ Free circulation, welcomed posted!.....	257



忘失正法等經【目錄】(Contents)

♡ 惡人作惡業，愚者無明行；眾生感業苦，如火自焚身。(Dhp 10.6)

《聖典選讀》 Dhammasammosasutta.....	1
忘失正法等經【大綱】(Outline).....	2
忘失正法等經【目錄】(Contents).....	3
忘失正法等經【詳細目錄】(Inventory).....	5
啊！佛陀的智慧 What! Buddha's Wisdom.....	18
三皈依 Tisarāṇa / Three Refuges.....	19
☸ 追隨諸佛古道～忘失正法等經 Dhammapariyāya / Follow the Way from Buddhas.....	20
☸ 第一篇 相應部選讀 Saṃyuttanikāya / The Grouped Discourses.....	20
第一品 ☆ 乳樹經 Khīrarukkhopamasutta (SN 35.231).....	20
☸ 第二篇 增支部選讀 Aṅguttaranikāya / The Further-factored Discourses.....	43
第一品 ☆ 一壺之鹽經 Loṇakapallasutta (AN 3.101).....	43
第二品 ☆ 四大教法經 Mahāpadesasutta (AN 4.180).....	60

第三品 ☆ 有學退還之二經	<i>Dutiyasekhasutta (AN 5.90)</i>	77
第四品 ☆ 五法怪異經	<i>Ussāṅkitasutta (AN 5.102)</i>	86
第五品 ☆ 五支大賊經	<i>Mahācorasutta (AN 5.103)</i>	89
第六品 ☆ 忘失正法之一經	<i>Paṭhamasaddhammasammosasutta (AN 5.154)</i>	97
第七品 ☆ 忘失正法之二經	<i>Dutiyasaddhammasammosasutta (AN 5.155)</i>	100
第八品 ☆ 忘失正法之三經	<i>Tatīyasaddhammasammosasutta (AN 5.156)</i>	109
第九品 ☆ 沙門之莠經	<i>Kāraṇḍavasutta (AN 8.10)</i>	119
第十品 ☆ 有愛經	<i>Taṇhāsutta (AN 10.62)</i>	135
第十一品 ☆ 鴉十法經	<i>Kākasutta (AN 10.77)</i>	155
第十二品 ☆ 蛇行法門經	<i>Saṃsappanīyasutta (AN 10.216)</i>	157
第十三品 ☆ 故思業之一經	<i>Paṭhamasañcetanikasutta (AN 10.217)</i>	197
第十四品 ☆ 故思業之二經	<i>Dutiyasañcetanikasutta (AN 10.218)</i>	225
第十五品 ☆ 業所生身經	<i>Karajakāyasutta (AN 10.219)</i>	242
 第三篇 法句經選讀	<i>Dhammapadapāḷi / The Path of Dhamma</i>	251
第一品 ☆ 惡有惡報經	<i>Ajagarapetavatthu (Dhp 10.6, 136)</i>	251
聖典凡例	<i>Text's Introduction</i>	254
免費流通，歡迎助印！	<i>Free circulation, welcomed posted!</i>	257

忘失正法等經【詳細目錄】 (Inventory)

♡ 惡人作惡業，愚者無明行；眾生感業苦，如火自焚身。 (Dhp 10.6)

《聖典選讀》 Dhammasammosasutta.....	1
忘失正法等經【大綱】 (Outline).....	2
忘失正法等經【目錄】 (Contents).....	3
忘失正法等經【詳細目錄】 (Inventory).....	5
啊！佛陀的智慧 What! Buddha's Wisdom.....	18
三 皈 依 Tisarāṇa / Three Refuges.....	19
☸ 追隨諸佛古道～忘失正法等經 Dhammapariyāya / Follow the Way from Buddhas.....	20
☸ 第一篇 相應部選讀 Saṃyuttanikāya / The Grouped Discourses.....	20
第一品 ☆ 乳樹經 Khīrarukkhopamasutta (SN 35.231).....	20
第一章 ☆ 凡夫六根.....	20
第一節 ☸ 六根不淨.....	20
一、眼根不淨.....	20
二、耳根不淨.....	22
三、鼻根不淨.....	22
四、舌根不淨.....	23
五、身根不淨.....	23
六、意根不淨.....	24
第二節 ☸ 新乳樹喻.....	25
一、眼根不淨.....	26
二、耳根不淨.....	28
三、鼻根不淨.....	28
四、舌根不淨.....	29
五、身根不淨.....	29
六、意根不淨.....	30
第二章 ☆ 聖者六根.....	32
第一節 ☸ 六根清淨.....	32

一、眼根清淨.....	32
二、耳根清淨.....	33
三、鼻根清淨.....	34
四、舌根清淨.....	34
五、身根清淨.....	35
六、意根清淨.....	35
第二節 ☪ 枯乳樹.....	37
一、眼根清淨.....	37
二、耳根清淨.....	39
三、鼻根清淨.....	39
四、舌根清淨.....	40
五、身根清淨.....	40
六、意根清淨.....	41
㊦ 第二篇 增支部選讀 <i>Anguttaranikāya / The Further-factored Discourses</i>	43
第一品 ☆ 一壺之鹽經 <i>Lonakapallasutta (AN 3.101)</i>	43
第一章 ☆ 異熟果之概說	44
第一節 ☪ 宿命論者 ⇒ 隨業受報.....	44
第二節 ☪ 內觀緣起 ⇒ 隨緣受報.....	44
第二章 ☆ 異熟果之細說	46
第一節 ☪ 少業與多業之異熟.....	46
第二節 ☪ 無戒定慧之人.....	46
第三節 ☪ 修戒定慧之人.....	47
第三章 ☆ 異熟果之舉例	48
第一節 ☪ 舉例說明之一 ⇒ 碗水與河水.....	48
一、一壺鹽喻.....	48
1. 碗水之鹽.....	48
2. 河水之鹽.....	48
二、少量惡業.....	49
1. 無戒定慧之人.....	49
2. 修戒定慧之人.....	50
第二節 ☪ 舉例說明之二 ⇒ 窮人與富翁.....	51
一、貧富人喻.....	51

1. 貧人之財.....	51
2. 富人之財.....	51
二、少量惡業	52
1. 無戒定慧之人.....	52
2. 修戒定慧之人.....	53
第三節 舉例說明之三 ⇒ 賤民與貴族	54
一、犯罪人喻	54
1. 賤民之罪.....	54
2. 貴族之罪.....	55
二、少量惡業	56
1. 無戒定慧之人.....	56
2. 修戒定慧之人.....	57
第四章 ☆ 異熟果之結語	58
第一節 宿命論者 ⇒ 隨業受報	58
第二節 內觀緣起 ⇒ 隨緣受報	59
第二品 ☆ 四大教法經 Mahāpadesasutta (AN 4.180)	60
第一章 ☆ 前言	62
第二章 ☆ 何為「四大教法」?	63
第一節 檢驗「比丘所說」教法	64
一、比丘所說「非法、非律！」	64
二、比丘所說「如法、如律！」	65
第二節 檢驗「僧團所說」教法	67
一、僧團所說「非法、非律！」	67
二、僧團所說「如法、如律！」	68
第三節 檢驗「多數教派所說」教法	70
一、多數教派所說「非法、非律！」	70
二、多數教派所說「如法、如律！」	71
第四節 檢驗「非主流所說」教法	73
一、個別傳承所說「非法、非律！」	73
二、個別傳承所說「如法、如律！」	74
第三章 ☆ 結語	76
第三品 ☆ 有學退還之二經 Dutiyasekhasutta (AN 5.90)	77

第一章 ☆ 退還五法.....	77
第一節 ㊦ 經營事業.....	77
第二節 ㊦ 專心雜事.....	78
第三節 ㊦ 雜處交際.....	78
第四節 ㊦ 早出晚歸.....	79
第五節 ㊦ 散心雜話.....	79
第二章 ☆ 不退還五法.....	81
第一節 ㊦ 不營事業.....	81
第二節 ㊦ 專心禪修.....	81
第三節 ㊦ 獨處閒居.....	82
第四節 ㊦ 適時乞食.....	82
第五節 ㊦ 十全法談.....	83
第四品 ☆ 五法怪異經 <i>Ussāṅkitasutta (AN 5.102)</i>	86
第一章 ☆ 前言.....	86
第二章 ☆ 五法怪異.....	87
第三章 ☆ 總結.....	88
第五品 ☆ 五支大賊經 <i>Mahācorasutta (AN 5.103)</i>	89
第一章 ☆ 世間有大賊 <i>Mahācoro</i>	89
第一節 ㊦ 恃險難之大賊.....	90
第二節 ㊦ 恃淵叢之大賊.....	90
第三節 ㊦ 恃有力者之大賊.....	90
第四節 ㊦ 賄賂之大賊.....	91
第五節 ㊦ 獨行之大賊.....	92
第二章 ☆ 出世間有大賊 <i>Pāpabhikkhu</i>	93
第一節 ㊦ 賄賂之惡比丘.....	93
第二節 ㊦ 恃淵叢之惡比丘.....	94
第三節 ㊦ 恃有力者之惡比丘.....	94
第四節 ㊦ 賄賂之惡比丘.....	95
第五節 ㊦ 獨行之惡比丘.....	96
第六品 ☆ 忘失正法之一經 <i>Paṭhamasaddhammasammosasutta (AN 5.154)</i>	97

第一章 ☆ 退失正法.....	97
第二章 ☆ 圓滿正法.....	98
第七品 ☆ 忘失正法之二經 <i>Dutiyasaddhammasammosasutta (AN 5.155)</i>	100
第一章 ☆ 退失正法.....	101
第一節 🍷 不學聖典.....	101
第二節 🍷 不廣說法.....	102
第三節 🍷 不令說法.....	103
第四節 🍷 不廣學習.....	103
第五節 🍷 不觀法義.....	104
第二章 ☆ 圓滿正法.....	105
第一節 🍷 精通聖典.....	105
第二節 🍷 廣為說法.....	106
第三節 🍷 令人說法.....	107
第四節 🍷 推廣學習.....	107
第五節 🍷 內觀法義.....	108
第八品 ☆ 忘失正法之三經 <i>Tatīyasaddhammasammosasutta (AN 5.156)</i>	109
第一章 ☆ 退失正法.....	111
第一節 🍷 顛倒經文.....	111
第二節 🍷 難以調教.....	112
第三節 🍷 不敬傳承.....	112
第四節 🍷 豐富積蓄.....	113
第五節 🍷 破和合僧.....	114
第二章 ☆ 圓滿正法.....	115
第一節 🍷 理解經文.....	115
第二節 🍷 容易受教.....	115
第三節 🍷 恭敬傳承.....	116
第四節 🍷 不多積蓄.....	117
第五節 🍷 僧團和諧.....	118
第九品 ☆ 沙門之莠經 <i>Kāraṇḍavasutta (AN 8.10)</i>	119
第一章 ☆ 緣起.....	121

第二章 ☆ 沙門之污.....	122
第一節 ☞ 前言.....	122
一、世尊斥責.....	122
二、害群之馬.....	122
第二節 ☞ 汰偽沙門.....	124
一、良田譬喻.....	124
二、害群之馬.....	125
第三節 ☞ 汰相似法.....	127
一、穀堆譬喻.....	127
二、害群之馬.....	127
第四節 ☞ 汰假道場.....	129
一、取材譬喻.....	129
二、害群之馬.....	130
第三章 ☆ 總結.....	132
一、觀察良莠.....	132
二、僻處穢行.....	132
三、棄絕妄語.....	132
四、憍慢沙門.....	133
五、滅盡苦邊.....	133
第十品 ☆ 有愛經 <i>Tanhāsutta (AN 10.62)</i>	135
第一章 ☆ 輪迴本際.....	136
第二章 ☆ 近惡知識.....	137
第一節 ☞ 有愛之因.....	137
一、無明緣愛.....	137
二、五蓋緣痴.....	137
三、惡行緣蓋.....	138
四、不護緣惡.....	138
五、邪緣不護.....	138
六、非理緣邪.....	139
七、疑緣非理.....	139
八、邪見緣疑.....	140
九、師緣邪見.....	140

第二節 ☺ 邪師惡友.....	141
一、師緣邪見.....	141
二、邪見緣疑.....	141
三、疑緣非理.....	141
四、非理緣邪.....	141
五、邪緣不護.....	141
六、不護緣惡.....	142
七、惡行緣蓋.....	142
八、五蓋緣痴.....	142
九、無明緣愛.....	142
十、有愛因食.....	142
第三節 ☺ 惡貫滿盈.....	143
一、師緣邪見.....	144
二、邪見緣疑.....	144
三、疑緣非理.....	144
四、非理緣邪.....	144
五、邪緣不護.....	144
六、不護緣惡.....	145
七、惡行緣蓋.....	145
八、五蓋緣痴.....	145
九、無明緣愛.....	145
十、有愛因食.....	145
第三章 ☆ 近善知識.....	146
第一節 ☺ 有明之因.....	146
一、覺支緣悟.....	146
二、念住緣覺.....	146
三、善行緣念.....	147
四、護根緣善.....	147
五、正念緣護.....	148
六、理緣正念.....	148
七、信緣如理.....	149
八、正見緣信.....	149
九、師緣正見.....	150

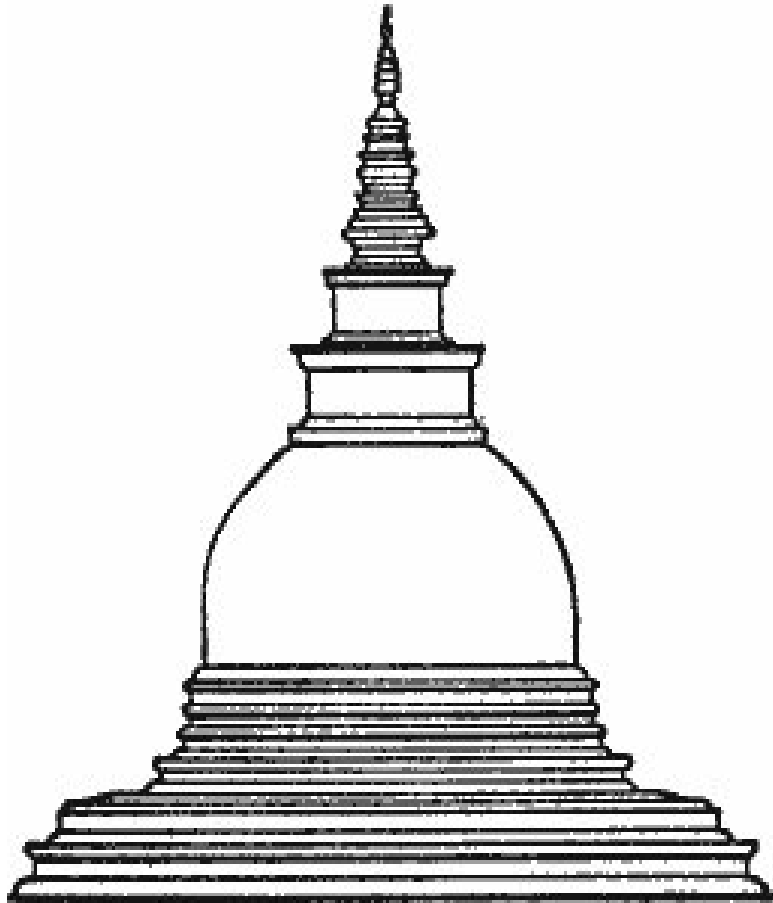
第二節 ㊦ 良師益友.....	150
一、師緣正見.....	150
二、正見緣信.....	150
三、信緣如理.....	151
四、理緣正念.....	151
五、正念緣護.....	151
六、護根緣善.....	151
七、善行緣念.....	151
八、念住緣覺.....	152
九、覺支緣悟.....	152
十、有明因食.....	152
第三節 ㊦ 滿功德海.....	152
一、師緣正見.....	153
二、正見緣信.....	153
三、信緣如理.....	153
四、理緣正念.....	153
五、正念緣護.....	153
六、護根緣善.....	154
七、善行緣念.....	154
八、念住緣覺.....	154
九、覺支緣悟.....	154
十、有明因食.....	154
第十一品 ☆ 鴉十法經 <i>Kākasutta (AN 10.77)</i>	155
第一章 ☆ 烏鴉十法.....	155
第二章 ☆ 惡比丘十法.....	156
第十二品 ☆ 蛇行法門經 <i>Samsappanīyasutta (AN 10.216)</i>	157
第一章 ☆ 前言.....	162
第二章 ☆ 蛇行十惡.....	163
第一節 ㊦ 犯殺生業.....	163
一、蛇行因緣.....	164
二、蛇行果報.....	165
三、往生法門.....	166

第二節	☹	犯偷盜業.....	166
第三節	☹	犯邪淫業.....	167
第四節	☹	犯妄語業.....	169
第五節	☹	犯兩舌業.....	170
第六節	☹	犯惡口業.....	171
第七節	☹	犯綺語業.....	172
第八節	☹	犯貪欲業.....	172
第九節	☹	犯瞋恚業.....	173
第十節	☹	犯邪見業.....	174
		一、蛇行因緣.....	175
		二、蛇行果報.....	176
		三、往生法門.....	177
第三章	☆	聖賢十善.....	178
第一節	☹	離殺生業.....	178
		一、善德因緣.....	179
		二、幸福果報.....	180
		三、往生法門.....	181
第二節	☹	離偷盜業.....	182
第三節	☹	離邪淫業.....	183
第四節	☹	離妄語業.....	185
第五節	☹	離兩舌業.....	187
第六節	☹	離惡口業.....	188
第七節	☹	離綺語業.....	189
第八節	☹	離貪欲業.....	190
第九節	☹	離瞋恚業.....	191
第十節	☹	離邪見業.....	192
		一、善德因緣.....	193
		二、幸福果報.....	194
		三、往生法門.....	195
第四章	☆	結語.....	196
第十三品	☆	故思業之一經 <i>Paṭhamasañcetanikasutta (AN 10.217)</i>	197

第一章 ☆ 思業前言.....	201
第二章 ☆ 十惡思業.....	202
第一節 ㊦ 惡業概說.....	202
第二節 ㊦ 身業三種.....	202
一、犯殺生業.....	202
二、犯偷盜業.....	203
三、犯邪淫業.....	203
第三節 ㊦ 語業四種.....	205
一、犯妄語業.....	205
二、犯兩舌業.....	206
三、犯惡口業.....	207
四、犯綺語業.....	207
第四節 ㊦ 意業三種.....	208
一、犯貪欲業.....	208
二、犯瞋恚業.....	208
三、犯邪見業.....	209
第五節 ㊦ 十惡果報.....	211
一、地獄譬喻.....	211
二、自食惡果.....	212
第三章 ☆ 十善思業.....	214
第一節 ㊦ 善業概說.....	214
第二節 ㊦ 身業三種.....	214
一、離殺生業.....	214
二、離偷盜業.....	215
三、離邪淫業.....	215
第三節 ㊦ 語業四種.....	217
一、離妄語業.....	217
二、離兩舌業.....	218
三、離惡口業.....	219
四、離綺語業.....	219
第四節 ㊦ 意業三種.....	220
一、離貪欲業.....	220

二、離瞋恚業.....	220
三、離邪見業.....	221
第五節 ❷ 十善果報.....	222
一、天堂譬喻.....	222
二、功不唐捐.....	223
第十四品 ☆ 故思業之二經 <i>Dutiyasañcetanikasutta (AN 10.218)</i>	225
第一章 ☆ 思業前言.....	226
第二章 ☆ 十惡思業.....	227
第一節 ❶ 惡業概說.....	227
第二節 ❷ 身業三種.....	227
一、犯殺生業.....	227
二、犯偷盜業.....	228
三、犯邪淫業.....	228
第三節 ❸ 語業四種.....	229
一、犯妄語業.....	229
二、犯兩舌業.....	230
三、犯惡口業.....	230
四、犯綺語業.....	230
第四節 ❹ 意業三種.....	231
一、犯貪欲業.....	231
二、犯瞋恚業.....	231
三、犯邪見業.....	232
第五節 ❺ 十惡果報.....	233
第三章 ☆ 十善思業.....	235
第一節 ❶ 善業概說.....	235
第二節 ❷ 身業三種.....	235
一、離殺生業.....	235
二、離偷盜業.....	236
三、離邪淫業.....	236
第三節 ❸ 語業四種.....	237
一、離妄語業.....	237
二、離兩舌業.....	238

三、離惡口業.....	238
四、離綺語業.....	238
第四節 ㊦ 意業三種.....	239
一、離貪欲業.....	239
二、離瞋恚業.....	239
三、離邪見業.....	240
第五節 ㊦ 十善果報.....	240
第十五品 ☆ 業所生身經 <i>Karajakāyasutta (AN 10.219)</i>	242
第一章 ☆ 業報總說.....	243
第二章 ☆ 解脫業報.....	244
第一節 ㊦ 慈心解脫.....	244
第二節 ㊦ 悲心解脫.....	247
第三節 ㊦ 喜心解脫.....	247
第四節 ㊦ 捨心解脫.....	247
㊦ 第三篇 法句經選讀 <i>Dhammapadapāḷi / The Path of Dhamma</i>	251
第一品 ☆ 惡有惡報經 <i>Ajagarapetavatthu (Dhp 10.6, 136)</i>	251
聖典凡例 <i>Text's Introduction</i>	254
免費流通，歡迎助印！ <i>Free circulation, welcomed posted!</i>	257



Namo Tassa Bhagavato Arahato Sammā Sambuddhassa.

皈命——於世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者。

Refuge in the Buddha, Arhat, Supreme Enlightenment.

☆ Vayadhammā saṅkhārā, appamādena sampādetha.

諸行皆是壞滅之法，
應自精進不放逸。

*Decay is inherent in all component things.
Work out your salvation with diligence!*

☆ 當勤精進，早求解脫；
以智慧明，滅諸痴暗。

*But do strive diligently, and quickly seek out freedom.
With the light of perfect wisdom, destroy the darkness of ignorance!*



啊^ㄚ！佛^{ㄈㄨㄛˊ}陀^{ㄊㄨㄛˊ}的^{ㄉㄜˊ}智^ㄓ慧^{ㄩㄟˋ}

What! Buddha's Wisdom

☆ 似乎，每個人——
都喜歡發表！

Seems, everyone... enjoy published!

都有，他自己，
高超的見解……。

Has, himself... super views.

似乎，每個人——
都有，勝過佛陀的智慧 !!

Seems everyone... have, better than Buddha's wisdom!

可是，對於原始的——
「佛 陀 教 法」是什麼？

However, what is... "the original teachings of Buddha?"

並不瞭解，
也不想瞭解，
更沒有時間去瞭解。

Do not know, not understand, and no time to understand.

因為，他們都在——

Because they are...

忙於，自己的：
『所知、所見……？』

Busy with their own... "I know, I see... ?"



三 皈 依 — Tisarāṇa / Three Refuges

Buddhaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

☆ 我 皈 依 ——— 於 佛 陀 ；
I refuge in the Buddha;

Abhabbo parihānāya nibbānasseva!

涅 槃 ， 無 衰 退 ！
Nibbana, no recession!

Dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

☆ 我 皈 依 ——— 正 法 律 ；
I refuge in the Dhamma;

Hiri ottappa sampanno!

具 足 ， 慚 與 愧 ！
Be ashamed and reflection!

Saṅghaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

☆ 我 皈 依 ——— 賢 聖 僧 ；
I refuge in the Sangha;

Sikkhāya tibba gāravo!

熱 心 ， 尊 敬 學 ！
Ardent to learning respectfully!



☸ 追隨諸佛古道一 忘失正法等經

Dhammapariyāya / Follow the Way from Buddhas

☸ 第一篇 相應部選讀

Samyuttanikāya / The Grouped Discourses

第一品 ☆ 乳樹經

Khīrarukkhopamasutta (SN 35.231)

【巴利佛經】

4. *Khīrarukkhopamasuttaṃ*

《乳樹經》

第一章 ☆ 凡夫六根

第一節 ☸ 六根不淨

一、 眼根不淨

231. "Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

(爾_ル時_ト， 世_ノ尊_ヲ說_ス：)

「無_ク論_カ是_レ誰_ニ， 諸_レ比_ク丘_ニ！ 任_ニ何_レ之_レ比_ク丘_ニ或_レ比_ク丘_ニ尼_ニ——

cakkhuvīññeyyesu rūpesu

對_ス於_テ能_ク被_ス眼_ノ根_ニ， 所_レ認_ル識_ノ之_レ色_ノ境_ニ：

yo rāgo so atthi,

(1) 彼_レ若_シ有_テ貪_ム染_ム；

yo doso so atthi,

(2) 彼_レ若_シ有_テ瞋_ム恚_ム；

yo moho so atthi,

(3) 彼_レ若_シ有_テ愚_ク痴_ク；

yo rāgo so appahīno,

(4) 彼_レ若_シ未_ダ斷_ズ貪_ム染_ム；

yo doso so appahīno,

(5) 彼_レ若_シ未_ダ斷_ズ瞋_ム恚_ム；

yo moho so appahīno

(6) 彼_レ若_シ未_ダ斷_ズ愚_ク痴_ク；

tassa parittā cepi cakkhuvīññeyyā rūpā cakkhussa āpāthaṃ āgacchanti pariyādiyantevassa cittaṃ;

又_レ若_シ， 彼_レ（ 之_レ所_レ緣_ム） 即_チ使_フ少_ク許_フ， 當_レ色_ノ境_ヲ將_レ被_レ眼_ノ根_ヲ所_レ認_ム識_ス， 令_レ其_レ接_シ近_ク視_テ覺_ス範_ヲ圍_ム之_レ時_ヲ；
則_チ（ 彼_レ之_レ所_レ緣_ム） 正_{トシ}完_ク全_ク控_ズ制_ス、 佔_ム據_シ其_レ心_ヲ；

ko pana vādo adhimattānaṃ!

更_レ何_レ況_テ云_フ： （ 彼_レ之_レ所_レ緣_ム） 為_レ極_ク多_ク耶_ニ？

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_テ故_シ耶_ニ？

Yo, bhikkhave, rāgo, so atthi,

(1) 諸_レ比_レ丘_ノ！ 因_テ彼_レ有_テ貪_ム染_ム之_レ故_シ！

yo doso so atthi,

(2) 因_テ彼_レ有_テ瞋_ム恚_ム之_レ故_シ！

yo moho so atthi,

(3) 因_テ彼_レ有_テ愚_ク痴_ク之_レ故_シ！

yo rāgo so appahīno,

(4) 因_レ彼_ハ未_ク斷_ズ貪_ヲ染_ム之_ニ故_シ！

yo doso so appahīno,

(5) 因_レ彼_ハ未_ク斷_ズ瞋_ヲ恚_ヲ之_ニ故_シ！

yo moho so appahīno...pe....

(6) 因_レ彼_ハ未_ク斷_ズ愚_ヲ痴_ヲ之_ニ故_シ！

二、耳根不淨

無_ク論_ハ是_レ誰_ニ， 諸_レ比_丘！ 任_レ何_レ之_ニ比_丘或_レ比_丘尼_ニ——

對_ス於_テ能_ク被_ス耳_ノ根_ヲ， 所_レ認_メ識_ス之_ニ聲_ノ境_ニ：

(1) 彼_ハ若_シ有_テ貪_ヲ染_ム；

(2) 彼_ハ若_シ有_テ瞋_ヲ恚_ヲ；

(3) 彼_ハ若_シ有_テ愚_ヲ痴_ヲ；

(4) 彼_ハ若_シ未_ク斷_ズ貪_ヲ染_ム；

(5) 彼_ハ若_シ未_ク斷_ズ瞋_ヲ恚_ヲ；

(6) 彼_ハ若_シ未_ク斷_ズ愚_ヲ痴_ヲ；

又_レ若_シ， 彼_ハ（之_ニ所_レ緣_ム）即_チ使_テ少_ク許_ス， 當_レ聲_ノ境_ニ將_テ被_ス耳_ノ根_ヲ所_レ認_メ識_ス， 令_テ其_レ接_シ近_ク聽_ク覺_ス範_ヲ圍_ム之_ニ時_ニ；

則_チ（彼_ハ之_ニ所_レ緣_ム）正_{トシ}完_ク全_ク控_ス制_ス、 佔_メ據_シ其_レ心_ヲ……！

三、鼻根不淨

無_ク論_ハ是_レ誰_ニ， 諸_レ比_丘！ 任_レ何_レ之_ニ比_丘或_レ比_丘尼_ニ——

對_ス於_テ能_ク被_ス鼻_ノ根_ヲ， 所_レ認_メ識_ス之_ニ香_ノ境_ニ：

(1) 彼_ハ若_シ有_テ貪_ヲ染_ム；

(2) 彼_ハ若_シ有_テ瞋_ヲ恚_ヲ；

(3) 彼_ハ若_シ有_テ愚_ヲ痴_ヲ；

(4) 彼_ハ若_シ未_ク斷_ズ貪_ヲ染_ム；

(5) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；

(6) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_レ若_レ， 彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ少_レ許_レ， 當_レ香_レ境_レ將_レ被_レ鼻_レ根_レ所_レ認_レ識_レ， 令_レ其_レ接_レ近_レ嗅_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）正_レ完_レ全_レ控_レ制_レ、 佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

四、 舌根不淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無_レ論_レ是_レ誰_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

jivhāviññeyyesu rasesu

對_レ於_レ能_レ被_レ舌_レ根_レ， 所_レ認_レ識_レ之_レ味_レ境_レ：

yo rāgo so atthi...pe....

(1) 彼_レ若_レ有_レ貪_レ染_レ；

(2) 彼_レ若_レ有_レ瞋_レ恚_レ；

(3) 彼_レ若_レ有_レ愚_レ痴_レ；

(4) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ貪_レ染_レ；

(5) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；

(6) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_レ若_レ， 彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ少_レ許_レ， 當_レ味_レ境_レ將_レ被_レ舌_レ根_レ所_レ認_レ識_レ， 令_レ其_レ接_レ近_レ味_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）正_レ完_レ全_レ控_レ制_レ、 佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

五、 身根不淨

無_レ論_レ是_レ誰_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

對_レ於_レ能_レ被_レ身_レ根_レ， 所_レ認_レ識_レ之_レ觸_レ境_レ：

(1) 彼_レ若_レ有_レ貪_レ染_レ；

(2) 彼_レ若_レ有_レ瞋_レ恚_レ；

(3) 彼_レ若_レ有_レ愚_レ痴_レ；

(4) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ貪^ガ染^ガ；

(5) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ瞋^イ恚^イ；

(6) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ愚^ウ痴^イ；

又^マ若^モ， 彼^ウ（ 之^ノ所^ノ緣^ノ） 即^シ使^ス少^ク許^ト， 當^ク觸^ル境^ヲ將^シ被^ル身^ヲ根^ヲ所^ノ認^ル識^ス， 令^テ其^レ接^シ近^ク觸^ル覺^ヲ範^ヲ圍^ム之^ノ時^ヲ； 則^チ（ 彼^ノ之^ノ所^ノ緣^ノ） 正^ト完^ク全^ク控^ス制^ス、 佔^ム據^ス其^ノ心^ヲ……！

六、 意根不淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無^ク論^ハ是^レ誰^ノ， 諸^レ比^丘！ 任^ハ何^レ之^ノ比^丘或^ハ比^丘尼^ニ——

manoviññeyyesu dhammesu

對^ス於^テ能^ク被^ル意^ノ根^ヲ， 所^ノ認^ル識^ス之^ノ法^ヲ境^ヲ：

yo rāgo so atthi,

(1) 彼^ウ若^モ有^ク貪^ガ染^ガ；

yo doso so atthi,

(2) 彼^ウ若^モ有^ク瞋^イ恚^イ；

yo moho so atthi,

(3) 彼^ウ若^モ有^ク愚^ウ痴^イ；

yo rāgo so appahīno,

(4) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ貪^ガ染^ガ；

yo doso so appahīno,

(5) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ瞋^イ恚^イ；

yo moho so appahīno,

(6) 彼^ウ若^モ未^ク斷^カ愚^ウ痴^イ；

tassa parittā cepi manoviññeyyā dhammā manassa āpāthaṃ āgacchanti pariyādiyantevassa cittaṃ；

又^マ若^モ， 彼^ウ（ 之^ノ所^ノ緣^ノ） 即^シ使^ス少^ク許^ト， 當^ク法^ヲ境^ヲ將^シ

被_レ意_一根_々所_レ認_レ識_ヲ， 令_レ其_レ接_レ近_レ知_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_ヲ；
 則_レ（ 彼_レ之_レ所_レ緣_レ） 正_レ完_レ全_レ控_レ制_レ、 佔_レ據_レ其_レ心_ヲ；

ko pana vādo adhimattānaṃ!

更_レ何_レ況_レ云_レ： （ 彼_レ之_レ所_レ緣_レ） 為_レ極_レ多_レ耶_ヲ？

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_レ故_レ耶_ヲ？

Yo, bhikkhave, rāgo, so atthi,

(1) 諸_レ比_レ丘_々！ 因_レ彼_レ有_レ貪_レ染_レ之_レ故_レ！

yo doso so atthi,

(2) 因_レ彼_レ有_レ瞋_レ恚_レ之_レ故_レ！

yo moho so atthi,

(3) 因_レ彼_レ有_レ愚_レ痴_レ之_レ故_レ！

yo rāgo so appahīno,

(4) 因_レ彼_レ未_レ斷_レ貪_レ染_レ之_レ故_レ！

yo doso so appahīno,

(5) 因_レ彼_レ未_レ斷_レ瞋_レ恚_レ之_レ故_レ！

yo moho so appahīno.

(6) 因_レ彼_レ未_レ斷_レ愚_レ痴_レ之_レ故_レ！

第二節 🌸 新乳樹喻

“Seyyathāpi, bhikkhave, khīrarukkho assattho vā nigrodho vā pilakkho vā udumbaro vā daharo taruṇo komārako.

諸_レ比_レ丘_々！ 恰_レ似_レ榕_レ乳_レ樹_ヲ（ 印_レ度_レ橡_レ膠_レ樹_ヲ） ， 或_レ如_レ菩_レ提_レ樹_ヲ（ 屬_レ無_レ花_レ果_レ樹_ヲ） 、 或_レ榕_レ樹_ヲ（ 尼_レ拘_レ律_レ樹_ヲ） 、 或_レ糙_レ葉_レ榕_レ（ 另_レ一_レ種_レ無_レ花_レ果_レ樹_ヲ） 、 或_レ優_レ曇_レ鉢_レ羅_レ（ 聚_レ果_レ榕_レ） 之_レ幼_レ小_レ、 嬌_レ嫩_レ、 新_レ鮮_レ者_ヲ。

Tamenam puriso tiṅhāya kuṭhāriyā yato yato ābhindeyya [bhindeyya (syā. kaṃ. sī. aṭṭha.), abhindeyya (katthaci)] āgaccheyya khīraṇ"ti?

有_二人_一持_レ利_レ斧_一， 想_レ要_レ到_レ處_一劈_レ開_レ、 切_レ斷_レ（樹_一枝_一）， 可_レ以_レ獲_レ得_レ乳_一狀_一液_一汁_一耶_一？ 」

“Evam, bhante”.

「 誠_レ然_レ， 大_レ德_レ！ 有_レ此_レ事_一。 」

“Taṃ kissa hetu”?

「 其_レ何_レ以_レ故_レ耶_一？ 」

“Yañhi, bhante, khīraṃ taṃ atthī”ti.

「 大_レ德_レ！ 確_レ實_一因_レ有_レ乳_一狀_一液_一汁_一， 以_レ致_レ於_レ此_一！ 」

一、 眼根不淨

“Evameva kho, bhikkhave, yassa kassaci bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

「 實_一如_レ譬_一喻_一， 諸_レ比_レ丘_一！ 無_レ論_レ是_レ誰_一！ 任_レ何_レ之_一比_レ丘_一或_レ比_レ丘_一尼_一——

cakkhuvīññeyyesu rūpesu

對_レ於_レ能_レ被_レ眼_一根_一， 所_レ認_レ識_一之_一色_一境_一：

yo rāgo so atthi,

(1) 彼_レ若_レ有_レ貪_一染_一；

yo doso so atthi,

(2) 彼_レ若_レ有_レ瞋_一恚_一；

yo moho so atthi,

(3) 彼_レ若_レ有_レ愚_一痴_一；

yo rāgo so appahīno,

(4) 彼_レ若_レ未_レ斷_レ貪_一染_一；

yo doso so appahīno,

(5) 彼^ひ若^も未^も斷^た瞋^い恚^い；

yo moho so appahīno,

(6) 彼^ひ若^も未^も斷^た愚^う痴^い；

tassa parittā cepi cakkhuviññeyyā rūpā cakkhussa āpāthaṃ āgacchanti pariyādiyantevassa cittaṃ;

又^{また}若^も， 彼^ひ（之^の所^の緣^の）即^す使^し少^く許^す， 當^た色^の境^を將^た被^は眼^の根^を所^の認^り識^す， 令^し其^の接^し近^し視^し覺^す範^を圍^む之^の時^に；
則^す（彼^ひ之^の所^の緣^の）正^{しく}完^全控^制、 佔^し據^す其^の心^を；

ko pana vādo adhimattānaṃ!

更^も何^ん況^ん云^ん： （彼^ひ之^の所^の緣^の）為^す極^く多^く耶^や？

Taṃ kissa hetu?

其^の何^ん以^て故^ん耶^や？

Yo, bhikkhave, rāgo so atthi,

(1) 諸^の比^の丘^を！ 因^り彼^ひ有^す貪^を染^を之^の故^ん！

yo doso so atthi,

(2) 因^り彼^ひ有^す瞋^を恚^を之^の故^ん！

yo moho so atthi,

(3) 因^り彼^ひ有^す愚^を痴^を之^の故^ん！

yo rāgo so appahīno,

(4) 因^り彼^ひ未^も斷^た貪^を染^を之^の故^ん！

yo doso so appahīno,

(5) 因^り彼^ひ未^も斷^た瞋^を恚^を之^の故^ん！

yo moho so appahīno...pe....

(6) 因^り彼^ひ未^も斷^た愚^を痴^を之^の故^ん！

二、耳根不淨

無^ク論^カ是^ハ誰^ニ， 諸^レ比^ヒ丘^ク！ 任^モ何^レ之^ニ比^ヒ丘^ク或^シ比^ヒ丘^ク尼^ニ——

對^ス於^テ能^ク被^ス耳^ノ根^ヲ， 所^レ認^ル識^ス之^ニ聲^ノ境^ヲ：

- (1) 彼^レ若^シ有^テ貪^ヲ染^ス；
- (2) 彼^レ若^シ有^テ瞋^ヲ恚^ス；
- (3) 彼^レ若^シ有^テ愚^ヲ痴^ス；
- (4) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ貪^ヲ染^ス；
- (5) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ瞋^ヲ恚^ス；
- (6) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ愚^ヲ痴^ス；

又^シ若^シ， 彼^レ（之^ノ所^レ緣^ヲ）即^チ使^テ少^ク許^ス， 當^テ聲^ノ境^ヲ將^テ被^ス耳^ノ根^ヲ所^レ認^ル識^ス， 令^テ其^レ接^シ近^ク聽^ク覺^ス範^ヲ圍^ム之^ニ時^ヲ；
則^チ（彼^レ之^ノ所^レ緣^ヲ）正^シ完^ク全^ク控^ス制^ス、 佔^ム據^ス其^レ心^ヲ……！

三、鼻根不淨

無^ク論^カ是^ハ誰^ニ， 諸^レ比^ヒ丘^ク！ 任^モ何^レ之^ニ比^ヒ丘^ク或^シ比^ヒ丘^ク尼^ニ——

對^ス於^テ能^ク被^ス鼻^ノ根^ヲ， 所^レ認^ル識^ス之^ニ香^ノ境^ヲ：

- (1) 彼^レ若^シ有^テ貪^ヲ染^ス；
- (2) 彼^レ若^シ有^テ瞋^ヲ恚^ス；
- (3) 彼^レ若^シ有^テ愚^ヲ痴^ス；
- (4) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ貪^ヲ染^ス；
- (5) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ瞋^ヲ恚^ス；
- (6) 彼^レ若^シ未^ダ斷^テ愚^ヲ痴^ス；

又^シ若^シ， 彼^レ（之^ノ所^レ緣^ヲ）即^チ使^テ少^ク許^ス， 當^テ香^ノ境^ヲ將^テ被^ス鼻^ノ根^ヲ所^レ認^ル識^ス， 令^テ其^レ接^シ近^ク嗅^ク覺^ス範^ヲ圍^ム之^ニ時^ヲ；
則^チ（彼^レ之^ノ所^レ緣^ヲ）正^シ完^ク全^ク控^ス制^ス、 佔^ム據^ス其^レ心^ヲ……！

四、舌根不淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無[×]論^カ是^ア誰^ニ， 諸^ク比^ヒ丘^ノ！ 任^モ何^レ之^ニ比^ヒ丘^ノ或^ハ比^ヒ丘^ノ尼^ニ——

jivhāviññeyyesu rasesu

對^ス於^テ能^ク被^テ舌^ノ根^ヲ， 所^ク認^ム識^ブ之^ニ味^ノ境^ニ：

yo rāgo so atthi...pe...

(1) 彼^ノ若^シ有^テ貪^ヲ染^ム；

(2) 彼^ノ若^シ有^テ瞋^ヲ恚^ム；

(3) 彼^ノ若^シ有^テ愚^ヲ痴^ム；

(4) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ貪^ヲ染^ム；

(5) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ瞋^ヲ恚^ム；

(6) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ愚^ヲ痴^ム；

又^シ若^シ， 彼^ノ（之^ノ所^ク緣^ト）即^チ使^フ少^ク許^ス， 當^テ味^ノ境^ニ將^テ被^テ舌^ノ根^ヲ所^ク認^ム識^ブ， 令^テ其^ノ接^シ近^ク味^ノ覺^ノ範^ト圍^ト之^ニ時^ヲ； 則^チ（彼^ノ之^ノ所^ク緣^ト）正^ト完^ク全^ク控^ス制^ス、 佔^ム據^ス其^ノ心^ヲ……！

五、身根不淨

無[×]論^カ是^ア誰^ニ， 諸^ク比^ヒ丘^ノ！ 任^モ何^レ之^ニ比^ヒ丘^ノ或^ハ比^ヒ丘^ノ尼^ニ——

對^ス於^テ能^ク被^テ身^ノ根^ヲ， 所^ク認^ム識^ブ之^ニ觸^ノ境^ニ：

(1) 彼^ノ若^シ有^テ貪^ヲ染^ム；

(2) 彼^ノ若^シ有^テ瞋^ヲ恚^ム；

(3) 彼^ノ若^シ有^テ愚^ヲ痴^ム；

(4) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ貪^ヲ染^ム；

(5) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ瞋^ヲ恚^ム；

(6) 彼^ノ若^シ未^ダ斷^ズ愚^ヲ痴^ム；

又^シ若^シ， 彼^ノ（之^ノ所^ク緣^ト）即^チ使^フ少^ク許^ス， 當^テ觸^ノ境^ニ將^テ被^テ身^ノ根^ヲ所^ク認^ム識^ブ， 令^テ其^ノ接^シ近^ク觸^ノ覺^ノ範^ト圍^ト之^ニ時^ヲ；

則_レ（彼_ノ之_レ所_レ緣_ト）正_ニ完_ク全_ク控_ス制_ス、佔_ム據_ル其_ノ心_ヲ……！

六、 意根不淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無_ク論_テ是_レ誰_ノ，諸_レ比_丘！任_レ何_レ之_レ比_丘或_レ比_丘尼_ニ——

manoviññeyyesu dhammesu

對_ス於_テ能_ク被_ス意_ノ根_ヲ，所_レ認_ル識_ノ之_レ法_ノ境_ヲ：

yo rāgo so atthi,

(1) 彼_ノ若_シ有_テ貪_ヲ染_ム；

yo doso so atthi,

(2) 彼_ノ若_シ有_テ瞋_ヲ恚_ム；

yo moho so atthi,

(3) 彼_ノ若_シ有_テ愚_ヲ痴_ム；

yo rāgo so appahīno,

(4) 彼_ノ若_シ未_ク斷_テ貪_ヲ染_ム；

yo doso so appahīno,

(5) 彼_ノ若_シ未_ク斷_テ瞋_ヲ恚_ム；

yo moho so appahīno,

(6) 彼_ノ若_シ未_ク斷_テ愚_ヲ痴_ム；

tassa parittā cepi manoviññeyyā dhammā manassa āpāthaṃ āgacchanti pariyādiyantevassa cittaṃ;

又_レ若_シ，彼_ノ（之_レ所_レ緣_ト）即_レ使_テ少_ク許_ス，當_レ法_ノ境_ヲ將_レ被_ス意_ノ根_ヲ所_レ認_ル識_ノ，令_レ其_ノ接_シ近_ク知_ル覺_ノ範_ヲ圍_ム之_レ時_ヲ；
則_レ（彼_ノ之_レ所_レ緣_ト）正_ニ完_ク全_ク控_ス制_ス、佔_ム據_ル其_ノ心_ヲ；

ko pana vādo adhimattānaṃ!

更_レ何_レ況_テ云_フ：（彼_ノ之_レ所_レ緣_ト）為_ス極_ク多_ク耶_ニ？

Taṃ kissa hetu?

其^レ何^レ以^テ故^ク耶^ニ？

Yo, bhikkhave, rāgo so atthi,

(1) 諸^レ比^ク丘^ク！ 因^テ彼^ク有^テ貪^ム染^ム之^レ故^ク！

yo doso so atthi,

(2) 因^テ彼^ク有^テ瞋^ム恚^ム之^レ故^ク！

yo moho so atthi,

(3) 因^テ彼^ク有^テ愚^ク痴^ク之^レ故^ク！

yo rāgo so appahīno,

(4) 因^テ彼^ク未^ク斷^ク貪^ム染^ム之^レ故^ク！

yo doso so appahīno,

(5) 因^テ彼^ク未^ク斷^ク瞋^ム恚^ム之^レ故^ク！

yo moho so appahīno.

(6) 因^テ彼^ク未^ク斷^ク愚^ク痴^ク之^レ故^ク！

卍 卍 卍

第二章 ☆ 聖者六根

第一節 🍀 六根清淨

一、 眼根清淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無×論_ら是_ア誰_ニ， 諸_レ比_ハ丘_ニ！ 任_ハ何_レ之_レ比_ハ丘_ニ或_レ比_ハ丘_ニ尼_ニ——

cakkhuvīññeyyesu rūpesu

對_ス於_ニ能_ク被_ル眼_ノ根_ヲ， 所_レ認_ル識_ハ之_レ色_ノ境_ニ：

yo rāgo so natthi,

(1) 彼_ハ若_シ無_ク貪_ヲ染_ル；

yo doso so natthi,

(2) 彼_ハ若_シ無_ク瞋_ヲ恚_ル；

yo moho so natthi,

(3) 彼_ハ若_シ無_ク愚_ヲ痴_ル；

yo rāgo so pahīno,

(4) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ル貪_ヲ染_ル；

yo doso so pahīno,

(5) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ル瞋_ヲ恚_ル；

yo moho so pahīno,

(6) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ル愚_ヲ痴_ル；

tassa adhimattā cepi cakkhuvīññeyyā rūpā cakkhussa āpātham āgacchanti nevassa cittam pariyaḍiyanti;

又_レ若_シ， 彼_ハ（之_レ所_レ緣_ル）即_レ使_ハ極_ク多_ク， 當_レ色_ノ境_ニ將_レ被_ル眼_ノ根_ヲ所_レ認_ル識_ハ， 令_レ其_レ接_シ近_ク視_ハ覺_ノ範_ヲ圍_ム之_レ時_ニ；
則_レ（彼_ハ之_レ所_レ緣_ル）實_ハ不_レ能_ク控_ル制_ス、 佔_ル據_ル其_レ心_ヲ；

ko pana vādo parittānaṃ!

更_レ何_レ況_レ云_レ： (彼_レ之_レ所_レ緣_レ) 為_レ少_レ許_レ耶_レ？

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_レ故_レ耶_レ？

Yo, bhikkhave, rāgo so natthi,

(1) 諸_レ比_レ丘_レ！ 因_レ彼_レ無_レ貪_レ染_レ之_レ故_レ！

yo doso so natthi,

(2) 因_レ彼_レ無_レ瞋_レ恚_レ之_レ故_レ！

yo moho so natthi,

(3) 因_レ彼_レ無_レ愚_レ痴_レ之_レ故_レ！

yo rāgo so pahīno,

(4) 因_レ彼_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ之_レ故_レ！

yo doso so pahīno,

(5) 因_レ彼_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ之_レ故_レ！

yo moho so pahīno...pe....

(6) 因_レ彼_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ之_レ故_レ！

二、 耳根清淨

無_レ論_レ是_レ誰_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

對_レ於_レ能_レ被_レ耳_レ根_レ， 所_レ認_レ識_レ之_レ聲_レ境_レ：

(1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；

(2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；

(3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；

(4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；

(5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；

(6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ聲_レ境_レ將_レ被_レ耳_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ聽_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

三、鼻根清淨

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——
對_レ於_レ能_レ被_レ鼻_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ香_レ境_レ：

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；
- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；
- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；
- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；
- (5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；
- (6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ香_レ境_レ將_レ被_レ鼻_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ嗅_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

四、舌根清淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

jivhāviññeyyesu rasesu

對_レ於_レ能_レ被_レ舌_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ味_レ境_レ：

...pe...

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；
- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；
- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；
- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；
- (5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；
- (6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ味_レ境_レ將_レ被_レ舌_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ味_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

五、身根清淨

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——
對_レ於_レ能_レ被_レ身_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ觸_レ境_レ：

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；
- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；
- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；
- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；
- (5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；
- (6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ觸_レ境_レ將_レ被_レ身_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ觸_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

六、意根清淨

manoviññeyyesu dhammesu

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——
對_レ於_レ能_レ被_レ意_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ法_レ境_レ：

yo rāgo so natthi,

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；

yo doso so natthi,

- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；

yo moho so natthi,

- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；

yo rāgo so pahīno,

- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；

yo doso so pahīno,

(5) 彼_ウ若_モ已_ハ斷_カ瞋_イ恚_ヒ；

yo moho so pahīno,

(6) 彼_ウ若_モ已_ハ斷_カ愚_ウ痴_イ；

tassa adhimattā cepi manoviññeyyā dhammā manassa āpāthaṃ āgacchanti nevassa cittaṃ pariyādiyanti;

又_マ若_モ， 彼_ウ（ 之_ノ所_レ緣_ノ） 即_ハ使_ハ極_ク多_ク， 當_カ法_ノ境_ノ將_レ被_ル意_ノ根_ヲ所_レ認_ル識_ス， 令_カ其_ノ接_シ近_ク知_ル覺_ス範_ノ圍_ノ之_ノ時_ヲ； 則_レ（ 彼_ウ之_ノ所_レ緣_ノ） 實_ハ不_レ能_ク控_ス制_ス、 佔_ム據_シ其_ノ心_ヲ；

ko pana vādo parittānaṃ!

更_モ何_レ況_モ云_ハ： （ 彼_ウ之_ノ所_レ緣_ノ） 為_シ少_ク許_ハ耶_ニ？

Taṃ kissa hetu?

其_ノ何_レ以_テ故_ニ耶_ニ？

Yo, bhikkhave, rāgo so natthi,

(1) 諸_ノ比_レ丘_ノ！ 因_テ彼_ウ無_ク貪_ム染_ム之_ノ故_ニ！

yo doso so natthi,

(2) 因_テ彼_ウ無_ク瞋_ム恚_ム之_ノ故_ニ！

yo moho so natthi,

(3) 因_テ彼_ウ無_ク愚_ム痴_ム之_ノ故_ニ！

yo rāgo so pahīno,

(4) 因_テ彼_ウ已_ハ斷_カ貪_ム染_ム之_ノ故_ニ！

yo doso so pahīno,

(5) 因_テ彼_ウ已_ハ斷_カ瞋_ム恚_ム之_ノ故_ニ！

yo moho so pahīno.

(6) 因_テ彼_ウ已_ハ斷_カ愚_ム痴_ム之_ノ故_ニ！

第二節 ㊦ 枯乳樹

Seyyathāpi, bhikkhave, khīrarukkho assatto vā nigrodho vā pilakkho vā udumbaro vā sukkho kolāpo terovassiko.

諸比丘！恰似榕乳樹（印度橡膠樹），或如菩提樹（屬無花果樹）、或榕樹（尼拘律樹）、或糙葉榕（另一種無花果樹）、或優曇鉢羅（聚果榕）之乾燥、枯萎、年久者。

Tamenam puriso tiṅhāya kuṭhāriyā yato yato ābhindeyya āgaccheyya khīran"ti?

有人持利斧，想要到處劈開、切斷（樹枝），可以獲得乳狀液汁耶？」

"No hetam, bhante".

「不然，大德！無此事。」

"Taṃ kissa hetu"?

「其何以故耶？」

"Yañhi, bhante, khīraṃ taṃ natthī"ti.

「大德！確實因無乳狀液汁，以致於此！」

一、眼根清淨

"Evameva kho, bhikkhave, yassa kassaci bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

「實如譬喻，諸比丘！無論是誰！任何之比丘或比丘尼——

cakkhuviññeyyesu rūpesu

對於能被眼根，所認識之色境：

yo rāgo so natthi,

(1) 彼若無貪染；

yo doso so natthi,

(2) 彼^ウ若^モ無^ク瞋^イ恚^ス；

yo moho so natthi,

(3) 彼^ウ若^モ無^ク愚^ウ痴^イ；

yo rāgo so pahīno,

(4) 彼^ウ若^モ已^ニ斷^ツ貪^ウ染^ウ；

yo doso so pahīno,

(5) 彼^ウ若^モ已^ニ斷^ツ瞋^イ恚^ス；

yo moho so pahīno,

(6) 彼^ウ若^モ已^ニ斷^ツ愚^ウ痴^イ；

tassa adhimattā cepi cakkhuvīññeyyā rūpā cakkhussa āpāthaṃ āgacchanti nevassa cittaṃ pariyādiyanti;

又^マ若^モ， 彼^ウ（ 之^ノ所^カ緣^ユ） 即^シ使^フ極^ク多^ク， 當^カ色^セ境^{キョウ}將^シ被^レ眼^{ガン}根^{コン}所^カ認^ニ識^ス， 令^カ其^ノ接^シ近^シ視^ス覺^ス範^ハ圍^ヒ之^ノ時^ト； 則^シ（ 彼^ウ之^ノ所^カ緣^ユ） 實^ニ不^レ能^ク控^ス制^ス、 佔^ム據^ス其^ノ心^{シン}；

ko pana vādo parittānaṃ!

更^モ何^ニ況^シ云^フ： （ 彼^ウ之^ノ所^カ緣^ユ） 為^ス少^ク許^シ耶^ヤ？

Taṃ kissa hetu?

其^ノ何^ニ以^テ故^シ耶^ヤ？

Yo, bhikkhave, rāgo so natthi,

(1) 諸^レ比^シ丘^ノ！ 因^テ彼^ウ無^ク貪^ウ染^ウ之^ノ故^シ！

yo doso so natthi,

(2) 因^テ彼^ウ無^ク瞋^イ恚^ス之^ノ故^シ！

yo moho so natthi,

(3) 因^テ彼^ウ無^ク愚^ウ痴^イ之^ノ故^シ！

yo rāgo so pahīno,

(4) 因^テ彼^ウ已^ニ斷^ツ貪^ウ染^ウ之^ノ故^シ！

yo doso so pahīno,

(5) 因_レ彼_ハ已_ニ斷_ス瞋_ヲ恚_ヲ之_ニ故_ニ！

yo moho so pahīno...pe....

(6) 因_レ彼_ハ已_ニ斷_ス愚_ヲ痴_ヲ之_ニ故_ニ！

二、耳根清淨

無_ク論_ハ是_ハ誰_ニ， 諸_レ比_丘！ 任_ハ何_レ之_ニ比_丘或_レ比_丘尼_ニ——
對_ス於_テ能_ク被_ス耳_ノ根_ヲ， 所_レ認_ル識_ハ之_ニ聲_ノ境_ヲ：

(1) 彼_ハ若_シ無_ク貪_ヲ染_ヲ；

(2) 彼_ハ若_シ無_ク瞋_ヲ恚_ヲ；

(3) 彼_ハ若_シ無_ク愚_ヲ痴_ヲ；

(4) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス貪_ヲ染_ヲ；

(5) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス瞋_ヲ恚_ヲ；

(6) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス愚_ヲ痴_ヲ；

又_レ若_シ， 彼_ハ（之_ニ所_レ緣_ル）即_チ使_フ極_ニ多_ク， 當_レ聲_ノ境_ヲ將_テ
被_ス耳_ノ根_ヲ所_レ認_ル識_ハ， 令_テ其_レ接_シ近_ク聽_ク覺_ス範_ヲ圍_ム之_ニ時_ヲ；
則_チ（彼_ハ之_ニ所_レ緣_ル）實_ニ不_レ能_ク控_ス制_ス、 佔_ム據_ス其_レ心_ヲ……！

三、鼻根清淨

無_ク論_ハ是_ハ誰_ニ， 諸_レ比_丘！ 任_ハ何_レ之_ニ比_丘或_レ比_丘尼_ニ——
對_ス於_テ能_ク被_ス鼻_ノ根_ヲ， 所_レ認_ル識_ハ之_ニ香_ノ境_ヲ：

(1) 彼_ハ若_シ無_ク貪_ヲ染_ヲ；

(2) 彼_ハ若_シ無_ク瞋_ヲ恚_ヲ；

(3) 彼_ハ若_シ無_ク愚_ヲ痴_ヲ；

(4) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス貪_ヲ染_ヲ；

(5) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス瞋_ヲ恚_ヲ；

(6) 彼_ハ若_シ已_ニ斷_ス愚_ヲ痴_ヲ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ香_レ境_レ將_レ被_レ鼻_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ嗅_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

四、舌根清淨

"Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā jivhāvīññeyyesu rasesu

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

...pe....

對_レ於_レ能_レ被_レ舌_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ味_レ境_レ：

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；
- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；
- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；
- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；
- (5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；
- (6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_二若_一，彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ味_レ境_レ將_レ被_レ舌_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ味_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

五、身根清淨

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

對_レ於_レ能_レ被_レ身_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ觸_レ境_レ：

- (1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；
- (2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；
- (3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；
- (4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；
- (5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；
- (6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

又_レ若_レ彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ觸_レ境_レ將_レ被_レ身_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ觸_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ……！

六、 意根清淨

“Yassa kassaci, bhikkhave, bhikkhussa vā bhikkhuniyā vā

無_レ論_レ是_レ誰_レ，諸_レ比_レ丘_レ！任_レ何_レ之_レ比_レ丘_レ或_レ比_レ丘_レ尼_レ——

manoviññeyyesu dhammesu

對_レ於_レ能_レ被_レ意_レ根_レ，所_レ認_レ識_レ之_レ法_レ境_レ：

yo rāgo so natthi,

(1) 彼_レ若_レ無_レ貪_レ染_レ；

yo doso so natthi,

(2) 彼_レ若_レ無_レ瞋_レ恚_レ；

yo moho so natthi,

(3) 彼_レ若_レ無_レ愚_レ痴_レ；

yo rāgo so pahīno,

(4) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ貪_レ染_レ；

yo doso so pahīno,

(5) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ瞋_レ恚_レ；

yo moho so pahīno,

(6) 彼_レ若_レ已_レ斷_レ愚_レ痴_レ；

tassa adhimattā cepi manoviññeyyā dhammā manassa āpātham āgacchanti, nevassa cittaṃ pariyādiyanti;

又_レ若_レ彼_レ（之_レ所_レ緣_レ）即_レ使_レ極_レ多_レ，當_レ法_レ境_レ將_レ被_レ意_レ根_レ所_レ認_レ識_レ，令_レ其_レ接_レ近_レ知_レ覺_レ範_レ圍_レ之_レ時_レ；
則_レ（彼_レ之_レ所_レ緣_レ）實_レ不_レ能_レ控_レ制_レ、佔_レ據_レ其_レ心_レ；

ko pana vādo parittānaṃ!

更_レ何_レ況_ス云_ハ： (彼_ノ之_ノ所_レ緣_ノ) 為_ス少_ク許_ト耶_セ ？

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_テ故_シ耶_セ ？

Yo, bhikkhave, rāgo so natthi,

(1) 諸_レ比_ニ丘_ク！ 因_テ彼_ノ無_ク貪_ム染_ム之_ノ故_シ！

yo doso so natthi,

(2) 因_テ彼_ノ無_ク瞋_ム恚_ム之_ノ故_シ！

yo moho so natthi,

(3) 因_テ彼_ノ無_ク愚_ク痴_ク之_ノ故_シ！

yo rāgo so pahīno,

(4) 因_テ彼_ノ已_テ斷_ツ貪_ム染_ム之_ノ故_シ！

yo doso so pahīno,

(5) 因_テ彼_ノ已_テ斷_ツ瞋_ム恚_ム之_ノ故_シ！

yo moho so pahīno”ti.

(6) 因_テ彼_ノ已_テ斷_ツ愚_ク痴_ク之_ノ故_シ！ 」

Catuttham.

乳樹經 ～海品・第四經終

～ 《六處相應・海品・*Khīrarukkhopamasutta* 乳樹經》 (SN 35.231)



㊦ 第二篇 增支部選讀

Āṅuttaranikāya / The Further-factored Discourses

第一品 ☆ 一壺之鹽經

Lonakapallasutta (AN 3.101)

【巴利佛經】

9. *Lonakapallasuttam*

《一壺之鹽經》

☆ 因果的關係 ⇒

「因」不是「果」、「果」不等於「因」，因果關係有兩種：

- ① 成熟才發生，如：有「種子」不必然會「開花、結果」（相對而無常！）
- ② 必然會發生，如：有「生」必有「死」（絕對性，亦是無常！）。

☆ 緣起的觀念 ⇒

- ① 因果關係，皆屬遷流生滅，後來的「果」已經不是原來的「因」了！
全因的聚合，叫做「緣」。

「果」（果報）是由「因」和「緣」所結出的，所以才叫做「異熟果」！

- ② 世俗的人，習慣上稱「緣」為：因力、緣力或業力。

不管，因力（*Atthavasam* 正確譯為：理由）、緣力（*Paccayasatti*）或業力（*Kammabala*）等這些名相，其實在《巴利佛經》中並沒有記載，也沒有類似的說法。

「業」不是「業力」而是「業行」，或把「緣」（緣起、緣生）也說成是「力」，代表著世俗人對「因果」不正確的認知；因為，不論「因」、「緣」或「業」都是無常的！所傳遞信息的「載體」，必然也是生滅無常的！

- ③ 如果把「因、緣、果」三者，劃成等號「依照善惡業的大小隨業受報，而不是隨緣受報」；那麼，人在完成梵行以前，早就受報而死，不可能有解脫輪迴、脫離苦海的一天了！

第一章 ☆ 異熟果之概說

第一節 ☺ 宿命論者 ⇒ 隨業受報

101. "Yo [yo kho (syā. kaṃ.), yo ca kho (ka.)], bhikkhave, evaṃ vadeyya –

「比丘們！若有某人這樣說：

'yathā yathāyaṃ puriso kammaṃ karoti

『依照一個人所造各各之業行；

tathā tathā taṃ paṭisaṃvediyatī'ti,

則對其自身回報各各（之異熟業果），而將能被體驗。』

evaṃ santamaṃ, bhikkhave, brahmacariyavāso na hoti, okāso na paññāyati sammā dukkhassa antakiriyāya.

比丘們！若這樣，表示他尚未住於梵行，也不被他清楚認知：有究竟苦邊之機會？

第二節 ☺ 內觀緣起 ⇒ 隨緣受報

Yo ca kho, bhikkhave, evaṃ vadeyya –

又，比丘們！若有某人這樣說：

'yathā yathā vedanīyaṃ ayaṃ puriso kammaṃ karoti

『依照一個人所造各各之業行（成熟），能被感知；

tathā tathāssa vipākaṃ paṭisaṃvediyatī'ti,

則對其自身回報各各之異熟（業果），而將能被體驗。』

evaṃ santaṃ, bhikkhave, brahmacariyavāso hoti, okāso paññāyati sammā dukkhassa antakiriya.

比丘們！若這樣，表示他正在住於梵行，
也被他清楚認知：有究竟苦邊之機會！

卍 卍 卍

第二章 ☆ 異熟果之細說

第一節 ☺ 少業與多業之異熟

Idha, bhikkhave, ekaccassa puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ [pāpaṃ kammaṃ (sī. pī.)] kataṃ tamenamṃ nirayaṃ upaneti.

比丘丘們！世上有一種人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

Idha pana, bhikkhave, ekaccassa puggalassa tādisaṃyeva appamattakamṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nā'ñupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘丘們！另外，世上有一種人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

第二節 ☺ 無戒定慧之人

"Kathaṃrūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenamṃ nirayaṃ upaneti?"

比丘丘們！如何之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄呢？

Idha pana, bhikkhave, ekacco puggalo abhāvitakāyo hoti abhāvitasīlo abhāvitacitto abhāvitapañño paritto appātumo appadukkhavihārī.

比丘丘們！世上有一種人，不修身、不修戒、不修心、不修慧、狹小、自體賤劣、而住於苦。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenamṃ nirayaṃ upaneti.

比丘丘們！如此之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

第三節 修戒定慧之人

“Kathamrūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva?”

比丘們！如何之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已呢？

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo bhāvitakāyo hoti bhāvitasilo bhāvitacitto bhāvitapañño aparitto mahatto [mahattā (sī. syā. kaṃ. pī.)] appamāṇavihārī.

比丘們！世上有一種人，修身、修戒、修心、修慧、不狹小、自體偉大、住於無量。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！如此之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

卍 卍 卍

第三章 ☆ 異熟果之舉例

第一節 🍀 舉例說明之一 ⇒ 碗水與河水

一、 一壺鹽喻

1. 碗水之鹽

“Seyyathāpi, bhikkhave, puriso loṇakapallaṃ [loṇaphalaṃ (sī. syā. kaṃ. pī.)] paritte udakamallake [udakakapallake (ka.)] pakkhipeyya.

比丘們！譬如有人，把一壺鹽，投小碗水中。

Taṃ kiṃ maññaṭṭha, bhikkhave, api nu taṃ parittaṃ udakaṃ [udakamallake udakaṃ (sī. syā. kaṃ. pī.)] amunā loṇakapallena loṇaṃ assa apeyyan”ti?

比丘們！你們如何思惟呢？小碗水會因為一壺鹽，而鹹至難以下飲嗎？」

“Evaṃ, bhante”.

「大德！確實會！。」

“Taṃ kissa hetu”?

「為什麼呢？」

“Aduñhi, bhante, parittaṃ udakakapallake udakaṃ, taṃ amunā loṇakapallena loṇaṃ assa apeyyan”ti.

「大德！碗中水少，小碗水會因為一壺鹽，而鹹至難以下飲。」

2. 河水之鹽

“Seyyathāpi, bhikkhave, puriso loṇakapallakaṃ gaṅgāya nadiyā pakkhipeyya.

「比丘們！譬如有人，把一壺鹽，投恆河中。

Taṃ kiṃ maññatha, bhikkhave, api nu sā gaṅgā nadī amunā loṇakapallena loṇaṃ assa apeyyā"ti?

比丘們！你們如何思惟呢？恆河會因為一壺鹽，而鹹至難以一下飲嗎？」

"No hetam, bhante".

「大德！這樣不會！」

"Taṃ kissa hetu"?

「為什麼呢？」

"Asu hi, bhante, gaṅgāya nadiyā mahā udakakkhandho so amunā loṇakapallena loṇo na assa apeyyo"ti [loṇaṃ nevassa apeyyanti (sī.), na loṇo assa apeyyoti (pī.)].

「大德！恆河水聚眾多，河水不會因為一壺鹽，而鹹至難以一下飲。」

二、少量惡業

"Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti.

「比丘們！正好如此，世上有一種人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。」

Idha, bhikkhave, ekaccassa puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！另外，世上有一種人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

1. 無戒定慧之人

"Kathaṃrūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti?

比丘們！如何之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄呢？」

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo abhāvitakāyo hoti abhāvitasīlo abhāvitacitto abhāvitapañño paritto appātumo appadukkhavihārī.

比丘們！世上有一種人，不修身、不修戒、不修心、不修慧、狹小、自體賤劣、而住於苦。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti.

比丘們！如以此之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

2. 修戒定慧之人

"Kathamrūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ ditṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva?"

比丘們！如何之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已呢？

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo bhāvitakāyo hoti bhāvitasīlo bhāvitacitto bhāvitapañño aparitto mahatto appamānavihārī.

比丘們！世上有一種人，修身、修戒、修心、修慧、不狹小、自體偉大、住於無量。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ ditṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！如以此之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

卍 卍 卍

第二節 舉例說明之二 ⇒ 窮人與富翁

一、 貧富人喻

“Idha, bhikkhave, ekacco aḍḍhakahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇasatenapi bandhanam nigacchati.

比丘們！世上有一種人，或為半錢被縛、或為一錢被縛、或為百錢被縛。

Idha, bhikkhave, ekacco aḍḍhakahāpaṇenapi na bandhanam nigacchati, kahāpaṇenapi na bandhanam nigacchati, kahāpaṇasatenapi na bandhanam nigacchati.

比丘們！另外，世上有一種人，不為半錢被縛、不為一錢被縛、不為百錢被縛。

1. 貧人之財

“Kathamūpo, bhikkhave, aḍḍhakahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇasatenapi bandhanam nigacchati?”

比丘們！如何之人，或為半錢被縛、或為一錢被縛、或為百錢被縛呢？

Idha, bhikkhave, ekacco daliddo hoti appassako appabhogo.

比丘們！世上有一種人，是貧、無所有物、窮乏。

Evarūpo, bhikkhave, aḍḍhakahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇenapi bandhanam nigacchati, kahāpaṇasatenapi bandhanam nigacchati.

比丘們！如此之人，或為半錢被縛、或為一錢被縛、或為百錢被縛。

2. 富人之財

“Kathamūpo, bhikkhave, aḍḍhakahāpaṇenapi na bandhanam nigacchati, kahāpaṇenapi na bandhanam nigacchati, kahāpaṇasatenapi na bandhanam nigacchati?”

比丘們！如何之人，不為半錢被縛、不為一錢被縛、不為百錢被縛呢？

Idha, bhikkhave, ekacco aḍḍho hoti mahaddhano mahābhogo.

比丘們！世上有一種人，有大財富、財寶豐裕。

Evarūpo, bhikkhave, aḍḍhakahāpaṇenapi na bandhanaṃ nigacchati, kahāpaṇenapi na bandhanaṃ nigacchati, kahāpaṇasatenapi na bandhanaṃ nigacchati.

比丘們！如此之人，不為半錢被捕、不為一錢被捕、不為百錢被捕。

二、少量惡業

Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ. Tamevaṃ nirayaṃ upaneti.

比丘們！正好如此，世上有一種人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

Idha, bhikkhave, ekaccassa puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ ditṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！另外，世上有一種人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

1. 無戒定慧之人

“Kathamrūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ, tamevaṃ nirayaṃ upaneti?”

比丘們！如何之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄呢？

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo abhāvitakāyo hoti abhāvitasīlo abhāvitacitto abhāvitapañño paritto appātumo appadukkhavihārī.

比丘們！世上有一種人，不修身、不修戒、不修心、不修慧、狹小、自體賤劣、而住於苦。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ tamenāṃ nirayaṃ upaneti.

比丘們！如此之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

2. 修戒定慧之人

“Kathaṃrūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva?”

比丘們！如何之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已呢？

“Idha, bhikkhave, ekacco puggalo bhāvitakāyo hoti bhāvitasīlo bhāvitacitto bhāvitapañño aparitto mahatto appamāṇavihārī.

比丘們！世上有一種人，修身、修戒、修心、修慧、不狹小、自體偉大、住於無量。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！如此之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

卍 卍 卍

第三節 舉例說明之三 ⇒ 賤民與貴族

一、 犯罪人喻

Seyyathāpi, bhikkhave, orabbhiko vā urabbhaghātako vā appekaccaṃ urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ pahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ,

比丘們！譬如，羊之飼主、屠殺者，對某些人，當偷盜其羊時，將他——或殺害、或捕縛、或沒收財產後放逐、或是隨意處置！

appekaccaṃ urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ nappahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ.

另外，對某些人，當偷盜其羊時，不得將他——或殺害、或捕縛、或沒收財產後放逐、或是隨意處置！

1. 賤民之罪

“Kathaṃrūpaṃ, bhikkhave, orabbhiko vā urabbhaghātako vā urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ pahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ?

比丘們！如何之人，當偷盜其羊時，將他——或殺害、或捕縛、或沒收財產後放逐、或是隨意處置呢？

Idha, bhikkhave, ekacco daliddo hoti appassako appabhogo.

比丘們！世上有一種人，是貧、無所有物、窮乏。

Evarūpaṃ, bhikkhave, orabbhiko vā urabbhaghātako vā urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ pahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ.

比丘們！如此之人，當偷盜其羊時，將他——或殺害、或捕縛、或沒收財產後放逐、或是隨意處置！

2. 貴族之罪

“Kathamrūpaṃ, bhikkhave, orabbhiko vā urabbhaghātako vā urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ nappahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ.

比丘們！如^何之^人，當^偷盜^其羊^時，不^得將^他——或^殺害[、]或^捕縛[、]或^沒收^財產^後放^逐、或^是隨^意處^置呢？

Idha, bhikkhave, ekacco aḍḍho hoti mahaddhano mahābhogo rājā vā rājamahāmatto vā.

比丘們！世^上有^一種^人，有^大財^富、財^寶豐^裕，而^為王^或宰^相。

Evarūpaṃ, bhikkhave, orabbhiko vā urabbhaghātako vā urabbhaṃ adinnaṃ ādiyamānaṃ nappahoti hantuṃ vā bandhituṃ vā jāpetuṃ vā yathāpaccayaṃ vā kātuṃ. Aññadatthu pañjalikova [pañjaliko (ka.)] naṃ [paraṃ (ka.)] yācati – ‘dehi me, mārisa, urabbhaṃ vā urabbhadhanaṃ vā’ti.

比丘們！如^此之^人，當^偷盜^其羊^時，不^得將^他——或^殺害[、]或^捕縛[、]或^沒收^財產^後放^逐、或^是隨^意處^置！唯^有合^掌而^乞，無^外於^云：『閣^下！請^與我^羊，或^與羊^之代^價！』

二、少量惡業

Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa tādisaṃyeva appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti.

比丘們！正好如此，世上有一種人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

Idha pana, bhikkhave, ekaccassa puggalassa tādisaṃyeva appamattakam pāpakammaṃ kataṃ ditthadhammavedaniyam hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！另外，世上有一種人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

1. 無戒定慧之人

“Kathamrūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti?”

比丘們！如何之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄呢？

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo abhāvitakāyo hoti abhāvitasīlo abhāvitacitto abhāvitapañño paritto appātumo appadukkhavihārī.

比丘們！世上有一種人，不修身、不修戒、不修心、不修慧、狹小、自體賤劣、而住於苦。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa appamattakampi pāpakammaṃ kataṃ tamenam nirayaṃ upaneti.

比丘們！如此之人，雖造少量惡業，仍可令他墮於地獄。

2. 修戒定慧之人

“Kathamrūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva?”

比丘們！如何之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已呢？

Idha, bhikkhave, ekacco puggalo bhāvitakāyo hoti bhāvitasīlo bhāvitacitto bhāvitapañño aparitto mahatto appamānavihārī.

比丘們！世上有一種人，修身、修戒、修心、修慧、不狹小、自體偉大、住於無量。

Evarūpassa, bhikkhave, puggalassa tādisaṃyeva appamattakaṃ pāpakammaṃ kataṃ diṭṭhadhammavedaniyaṃ hoti, nāṇupi khāyati, kiṃ bahudeva.

比丘們！如此之人，雖造完全同樣之少量惡業，唯於現法受異熟，於未來，連少量之異熟亦不現，但生起多業異熟而已。

卍 卍 卍

第四章 ☆ 異熟果之結語

第一節 ☸ 宿命論者 ⇒ 隨業受報

“Yo, bhikkhave, evaṃ vadeyya –

比丘們！若有人這樣說：

‘yathā yathāyaṃ puriso kammaṃ karoti

『依照一個人所造各各之業行；

tathā tathā taṃ paṭisaṃvedetī’ti,

則對其自身回報各各（之異熟業果），而（將）能被體驗。』

evaṃ santam, bhikkhave, brahmacariyavāso na hoti, okāso na paññāyati sammā dukkhassa antakiriya.

比丘們！若這樣，表示他尚未住於梵行，也不被他清楚認知：有究竟苦邊之機會？

第二節 ☸ 內觀緣起 ⇒ 隨緣受報

Yo ca kho, bhikkhave, evaṃ vadeyya –

又_又， 比_丘丘_們！ 若_若有_有人_人這_樣樣_說說_：

‘yathā yathā vedaniyaṃ ayaṃ puriso kammaṃ karoti

『 依_依照_照個_個人_人所_所造_造各_各各_各之_之業_業行_行（ 成_成熟_熟） ， 能_能被_被感_感知_知；

tathā tathā tassa vipākaṃ paṭisaṃvedetī’ti,

則_則對_對其_其自_自身_身回_回報_報各_各各_各之_之異_異熟_熟（ 業_業果_果） ， 而_而（ 將_將） 能_能被_被體_體驗_驗。 』

evaṃ santaṃ, bhikkhave, brahmacariyavāso hoti, okāso paññāyati sammā dukkhassa antakiriyaā’ti.

比_丘丘_們！ 若_若這_樣樣_， 表_表示_示他_他正_正在_在住_住於_於梵_梵行_行， 也_也被_被他_他清_清楚_楚認_認知_知： 有_有究_究竟_竟苦_苦邊_邊之_之機_機會_會！ 』

Navamaṃ.

一壺之鹽經 ～壺鹽品・第九經終

～ 《增支部經典・三集・五十經篇之二・壺鹽品・Loṇakapallasutta 一壺之鹽經》 (AN 3.101)



第二品 ☆ 四大教法經

Mahāpadesasutta (AN 4.180)

【巴利佛經】

10. *Mahāpadesasuttaṃ*

《四大教法經》

☆ 本經大意 ⇒

《巴利聖典》裡的原始佛法，從未教導人們要用「比對」的方式，來瞭解原始佛法，或閱讀佛經。

《卡拉瑪經》依據四聖諦明確開示：「比對」就是魔說！

必須通過實踐「四聖諦」——「苦和能導致無益與苦的原因、樂和能帶來利益快樂的原因」才能瞭解正法；而不是所謂「比對」。

《卡拉瑪經》與《四大教法》的忠告 ☞ 「如是我聞」不能代表佛說！

以下列出，所謂「比對」有十種錯誤的情況，是佛所摒棄的：

佛說：「**❶** 汝等勿信風俗；**❷** 勿輕信傳統；**❸** 勿輕信聽聞；**❹** 勿信因與經教相合；**❺** 勿信基於推理；**❻** 勿信基於學術研究；**❼** 勿信情況考慮周詳；**❽** 勿信見解卓越；**❾** 勿信形象權威；**❿** 勿信因此沙門，是我等祖師。

卡拉瑪眾！若汝等發現——『**❶** 此法是不善，**❷** 此法是有罪，**❸** 此法是智者所訶毀，**❹** 如果實踐此法，能導致無益與苦！』卡拉瑪眾！其時，則汝等應捨棄（此法）……。

卡拉瑪眾！若汝等發現——『**❺** 此法是善，**❻** 此法是無罪，**❼** 此法是智者所稱讚，**❽** 如果實踐此法，能帶來利益快樂！』卡拉瑪眾！其時，則汝等應圓滿受持！」

～ 《增支部經典·三集·*Kesamuttisutta* 卡拉瑪經》(AN 3.66)

☆ 什麼叫做：檢驗「四大教法」（四種墨印、四種廣說）呢？

檢驗「四大教法」是要依據正法（巴利經藏）與聖律（巴利律藏）——不是依據〈偽〉論藏（阿毗達摩）佛陀在本經「四大教法」裡已經教示。

☆ 檢驗「四大教法」 ⇒

- ❶ 檢驗「比丘所說」教法；
- ❷ 檢驗「僧團所說」教法；
- ❸ 檢驗「多數教派所說」教法；
- ❹ 檢驗「非主流所說」教法。

卍 卍 卍

第一章 ☆ 前言

180. Ekaṃ samayaṃ bhagavā bhoganagare viharati ānandacetiye [ānande cetiye (dī. ni. 2.186) mahāva. 303 pana aññathā āgataṃ].

一時^ア， 世^ア尊^パ住^セ菩^タ伽^カ城^シ（亦^ハ名^ズ： 負^ミ彌^ミ城^シ） 阿^ヤ難^ニ陀^タ支^シ提^チ（亦^ハ名^ズ： 阿^ヤ難^ニ廟^{ミヤ}）。

Tatra kho bhagavā bhikkhū āmantesi –

於^ケ其^ノ處^ニ， 世^ア尊^パ告^ク諸^ク比^ク丘^ク曰^ク：

“bhikkhavo”ti.

「諸^ク比^ク丘^ク！」

“Bhadante”ti te bhikkhū bhagavato paccassosum.

諸^ク比^ク丘^ク奉^ク答^ク世^ア尊^パ： 「大^ク德^ク！」

卍 卍 卍

第二章 ☆ 何為「四大教法」？

Bhagavā etadavoca –

世尊曰：

“cattārome, bhikkhave, mahāpadese desessāmi, taṃ suṇātha, sādhukaṃ manasi karotha; bhāsissāmi”ti.

「諸比丘！我當說此等『四大教法』（之檢驗），聞者善作意，我將說！」

“Evaṃ, bhante”ti kho te bhikkhū bhagavato paccassosum.

諸比丘答稱：「唯然，大德！」

Bhagavā etadavoca –

世尊宣說：

“Katame, bhikkhave, cattāro mahāpadesā?

「諸比丘！何為『四大教法』（之檢驗）耶？」

第一節 檢驗「比丘所說」教法

一、比丘所說「非法、非律！」

Idha, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

‘sammukhā metāṃ, āvuso, bhagavato sutāṃ sammukhā paṭiggahitaṃ –

『賢友！我從世尊面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanā’ti.

此是正法、此是聖律、此是師尊聖教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸比丘！對於彼比丘所說，既不可歡喜、也

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni [osāretabbāni], vinaye sandassetabbāni.

既不可歡喜、也，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni [osāriyamānāni] vinaye sandassiyamānāni na ceva sutte otaranti [osaranti (dī. ni. 2.188)] na vinaye sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明既不被收錄於（巴利）經藏中，教導亦不被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知：

`addhā, idaṃ na ceva tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此_チ確_ク實_ニ非_ズ世_ノ尊_ヲ、應_ニ供_ク阿_ヲ羅_ヲ漢_ヲ、獨_ク覺_シ自_ラ現_ニ證_ス、平_ク等_ク正_ニ覺_シ者_ノ之_レ法_ヲ語_ル；

imassa ca bhikkhuno duggahitaṅti.

而_レ且_ク，這_レ是_レ（聖_ノ教_ハ已_ニ被_ク）此_チ比_ク丘_ノ所_レ誤_ル解_ス。』

Iti hetamaṃ [iti hidaṃ (sī. syā. kaṃ. ka.)], bhikkhave, chaḍḍeyyātha.

諸_レ比_ク丘_ノ！因_リ此_チ汝_ノ等_ノ應_ニ捨_テ棄_ル於_レ此_チ錯_ニ誤_ル（比_ク丘_ノ所_レ說_ク之_レ傳_ハ承_テ）。

二、比丘所說「如法、如律！」

[ettako pāṭho dīghanikāye na dissati, peyyālamukhena dassito bhaveyya] “Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復_シ次_チ，諸_レ比_ク丘_ノ！世_ノ間_ニ有_ル比_ク丘_ノ，作_レ如_ク是_レ語_ル，聞_ク說_ス：

`sammukhā metamaṃ, āvuso, bhagavato sutamaṃ sammukhā paṭiggahitaṃ –

『賢_ト友_ト！我_レ從_テ世_ノ尊_ノ面_ヲ前_ニ親_ク聞_ク於_レ此_チ，現_ニ已_ニ受_テ持_テ——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanantaṃti.

此_チ是_レ正_ニ法_ヲ、此_チ是_レ聖_ノ律_ヲ、此_チ是_レ師_ノ尊_ノ聖_ノ教_ヲ。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸_レ比_ク丘_ノ！對_テ於_レ彼_ノ比_ク丘_ノ所_レ說_ク，既_レ不_レ可_ク以_テ歡_ク喜_ス、也_レ不_レ可_ク以_テ拒_ク絕_ス。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni [ettako pāṭho dīghanikāye na dissati, peyyālamukhena dassito bhaveyya].

既_レ不_レ歡_ク喜_ス、也_レ不_レ拒_ク絕_ス，應_ニ妥_ク善_ク了_ク解_シ其_ノ文_ノ句_ヲ，並_ク深_ク入_リ（巴_ヲ利_ヲ）經_ノ藏_ニ中_ニ尋_テ求_ク完_ク整_ク無_ク誤_ル之_レ詳_ヲ。

細^一說^二明^三、且^四於^五（巴^六利^七）律^八藏^九中^十尋^{十一}求^{十二}完^{十三}整^{十四}無^{十五}誤^{十六}地^{十七}教^{十八}導^{十九}開^{二十}示^{二十一}。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni sutte ceva otaranti vinaye ca sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若^一其^二（文^三句^四）在^五用^六心^七進^八入^九經^十藏^{十一}中^{十二}瞭^{十三}解^{十四}說^{十五}明^{十六}、用^{十七}心^{十八}在^{十九}律^{二十}藏^{二十一}中^{二十二}尋^{二十三}求^{二十四}教^{二十五}導^{二十六}以^{二十七}後^{二十八}；說^{二十九}明^{三十}不^{三十一}但^{三十二}被^{三十三}收^{三十四}錄^{三十五}於^{三十六}（巴^{三十七}利^{三十八}）經^{三十九}藏^{四十}中^{四十一}，而^{四十二}且^{四十三}教^{四十四}導^{四十五}被^{四十六}發^{四十七}現^{四十八}於^{四十九}（巴^{五十}利^{五十一}）律^{五十二}藏^{五十三}中^{五十四}，有^{五十五}此^{五十六}依^{五十七}據^{五十八}，可^{五十九}以^{六十}去^{六十一}下^{六十二}結^{六十三}論^{六十四}，告^{六十五}知^{六十六}：

‘addhā, idaṃ tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此^一確^二實^三是^四世^五尊^六、應^七供^八阿^九羅^十漢^{十一}、獨^{十二}覺^{十三}自^{十四}現^{十五}證^{十六}、平^{十七}等^{十八}正^{十九}覺^{二十}者^{二十一}之^{二十二}法^{二十三}語^{二十四}；

imassa ca bhikkhuno suggahitaṃ’ti.

而^一且^二，這^三是^四（聖^五教^六已^七被^八）此^九比^十丘^{十一}所^{十二}正^{十三}解^{十四}。』

Idaṃ, bhikkhave, paṭhamaṃ mahāpadesaṃ dhāreyyātha.

諸^一比^二丘^三！此^四為^五第^六一^七大^八教^九法^十（比^{十一}丘^{十二}所^{十三}說^{十四}教^{十五}法^{十六}之^{十七}檢^{十八}驗^{十九}），應^{二十}憶^{二十一}念^{二十二}不^{二十三}忘^{二十四}——永^{二十五}久^{二十六}受^{二十七}持^{二十八}。

第二節 檢驗「僧團所說」教法

一、僧團所說「非法、非律！」

“Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復次，諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

‘asukasmiṃ nāma āvāse saṅgho viharati sathero sapāṃokkho.

『賢友！於知名某者住處，有僧團共住、有長老、有上首（領袖），

Tassa me saṅghassa sammukhā sutam sammukhā paṭiggahitam –

我從彼僧團面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsananti.

此是正法、此是聖律、此是師尊聖教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸比丘！對於彼比丘所說，既不可以歡喜、也不可以拒絕。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni.

既不歡喜、也不拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni na ceva sutte otaranti na vinaye sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明既不被收錄於（巴利）經藏中，教導亦不被發現

於_レ（巴_リ利_カ）律_カ藏_カ中_ニ，有_リ此_ガ依_テ據_ル，可_シ以_テ去_ル下_ニ結_セ論_カ，告_ス知_セ：

'addhā, idaṃ na ceva tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此_ガ確_ク實_ク非_ス世_ノ尊_ヲ、應_ニ供_ス阿_ラ漢_ヲ、獨_ク覺_シ自_ラ現_ニ證_ス、平_ク等_ク正_ク覺_シ者_ノ之_レ法_ヲ語_ル；

tassa ca saṅghassa duggahitaṃti.

而_ル且_セ，這_レ是_ル（聖_ノ教_ハ已_ニ被_ル）彼_ノ僧_ノ團_ヲ所_レ誤_ス解_ス。』

Iti hetam, bhikkhave, chaḍḍeyyātha.

諸_ノ比_丘！因_リ此_ガ汝_ノ等_ハ應_ニ捨_テ棄_ル於_レ此_ガ錯_ト誤_ト（僧_ノ團_ヲ所_レ說_ク之_レ傳_ヘ承_ル）。

二、 僧團所說「如法、如律！」

"Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復_ス次_ニ，諸_ノ比_丘！世_ノ間_ニ有_リ比_丘，作_ル如_ク是_レ語_ル，聞_ク說_ス：

'asukasmiṃ nāma āvāse saṅgho viharati sathero sapāmokkho.

『賢_ノ友_ト！於_レ知_ル名_ニ某_ノ者_ハ住_ス處_ニ，有_リ僧_ノ團_ヲ共_ク住_ス、有_リ長_シ老_カ、有_リ上_ニ首_ヲ（領_ク袖_ト），

Tassa me saṅghassa sammukhā sutam sammukhā paṭiggahitam –

我_ハ從_テ彼_ノ僧_ノ團_ヲ面_ニ前_ニ親_ク聞_ク於_レ此_ガ，現_ニ已_ニ受_テ持_ル——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanāṃti.

此_ガ是_ル正_ク法_ヲ、此_ガ是_ル聖_ノ律_カ、此_ガ是_ル師_ノ尊_ヲ聖_ノ教_ヲ。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbam nappaṭikkositabbam.

諸_ノ比_丘！對_シ於_レ彼_ノ比_丘所_レ說_ク，既_ニ不_ク可_シ以_テ歡_シ喜_ス、也_ハ不_ク可_シ以_テ拒_ル絕_ス。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni,

vinaye sandassetabbāni.

既不歡喜、也不拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni, vinaye sandassiyamānāni sutte ceva otaranti vinaye ca sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明不但被收錄於（巴利）經藏中，而且教導被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知：

‘addhā, idaṃ tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此確實是世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者之法語；

tassa ca saṅghassa suggahitaṃ’ti.

而且，這是（聖教已被）彼僧團所正解。』

Idaṃ, bhikkhave, dutiyaṃ mahāpadesaṃ dhāreyyātha.

諸比丘！此為第二大教法（僧團所說教法之檢驗），應憶念不忘——永久受持。

第三節 檢驗「多數教派所說」教法

一、多數教派所說「非法、非律！」

“Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復次，諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

‘asukasmiṃ nāma āvāse sambahulā therā bhikkhū viharanti bahussutā āgatāgamā dhammadharā vinayadharā mātikādhārā.

『賢友！於知名某者住處，有眾多長老比丘共住，多聞而傳承阿含（聖教）、憶持正法（經藏）、憶持聖律（律藏）、憶持論母（論藏），

Tesaṃ me therānaṃ sammukhā suttaṃ sammukhā paṭiggahitaṃ –

我從彼等長老面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanānti.

此是正法、此是聖律、此是師尊聖教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸比丘！對於彼比丘所說，既不歡喜、也無可以拒絕。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni.

既不歡喜、也無拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni na ceva sutte otaranti na vinaye sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明既不被收錄於（巴利）經藏中，教導亦不被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知：

‘addhā, idaṃ na ceva tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此確實非世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者之法語；

tesaṅca therānaṃ duggahitaṅti.

而且，這是（聖教已被）彼等（多數教派之）長老所誤解。』

Iti hetamaṃ, bhikkhave, chaḍḍeyyātha.

諸比丘！因此汝等應捨棄於此錯誤（多數教派所說之傳承）。

二、多數教派所說「如法、如律！」

“Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復次，諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

‘asukasmiṃ nāma āvāse sambahulā therā bhikkhū viharanti bahussutā āgatāgamā dhammadharā vinayadharā mātikādhārā.

『賢友！於知名某者住處，有眾多長老比丘共住，多聞而傳承阿含（聖教）、憶持正法（經藏）、憶持聖律（律藏）、憶持論母（論藏），

Tesaṃ me therānaṃ sammukhā sutamaṃ sammukhā paṭiggahitaṃ –

我從彼等長老面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanānti.

此是正法、此是聖律、此是師尊聖教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸比丘！對於彼比丘所說，既不歡喜、也拒絕。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni.

既不歡喜、也拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni sutte ceva otaranti vinaye ca sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明不但被收錄於（巴利）經藏中，而且教導被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知：

‘addhā, idaṃ tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此確實是世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者之法語；

tesaṃca therānaṃ sugghaṭṭānti.

而且，這是（聖教已被）彼等（多數教派之）長老所正解。』

Idaṃ, bhikkhave, tatiyaṃ mahāpadesaṃ dhāreyyātha.

諸比丘！此為第三大教法（多數教派所說教法之檢驗），應憶念不忘——永久受持。

第四節 檢驗「非主流所說」教法

一、 個別傳承所說「非法、非律！」

“Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復次，諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

‘asukasmiṃ nāma āvāse eko therō bhikkhu viharati bahussuto āgatāgamo dhammadharo vinayadharo mātikādharo.

『賢友！於知名某者住處，有某——長老比丘居住，多聞而傳承阿含（聖教）、憶持正法（經藏）、憶持聖律（律藏）、憶持論母（論藏），

Tassa me therassa sammukhā sutam sammukhā paṭiggahitam –

我從彼長老面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsananti.

此是正法、此是聖律、此是師尊聖教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸比丘！對於彼比丘所說，既不歡喜，也無可以拒絕。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni.

既不歡喜、也無拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明，且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni na ceva sutte otaranti na vinaye sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若其（文句）在用心中進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明既不被收錄於（巴利）經藏中，教導亦不被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知：

'addhā, idaṃ na ceva tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此確實非世尊、應供阿羅漢、獨覺自現證、平等正覺者之法語；』

tassa ca therassa duggahitaṅti.

而且，這是（聖教已被）彼（個別傳承之）長老所誤解。』

Iti hetamaṃ, bhikkhave, chaḍḍeyyātha.

諸比丘！因此汝等應捨棄於此錯誤（個別傳承所說之傳承）。

二、個別傳承所說「如法、如律！」

"Idha pana, bhikkhave, bhikkhu evaṃ vadeyya –

復次，諸比丘！世間有比丘，作如是語，聞說：

'asukasmiṃ nāma āvāse eko thero bhikkhu viharati bahussuto āgatāgamo dhammadharo vinayadharo mātikādharo.

『賢友！於知名某者住處，有某——長老比丘居住，多聞而傳承阿含（聖教）、憶持正法（經藏）、憶持聖律（律藏）、憶持論母（論藏），』

Tassa me therassa sammukhā sutamaṃ sammukhā paṭiggahitaṃ –

我從彼長老面前親聞於此，現已受持——

ayaṃ dhammo, ayaṃ vinayo, idaṃ satthusāsanantaṃti.

此_チ是_ス正_正法_法、 此_チ是_ス聖_聖律_律、 此_チ是_ス師_師尊_尊聖_聖教_教。』

Tassa, bhikkhave, bhikkhuno bhāsitaṃ neva abhinanditabbaṃ nappaṭikkositabbaṃ.

諸_レ比_丘！ 對_於彼_{比丘}所_說， 既_不可_以歡_喜、 也_不可_以拒_絕。

Anabhinanditvā appaṭikkositvā tāni padabyañjanāni sādhukaṃ uggahetvā sutte otāretabbāni, vinaye sandassetabbāni.

既_不歡_喜、 也_不拒_絕， 應_妥善_了解_其文_句， 並_深入_{（巴利）}經_藏中_尋求_完整_無誤_之詳_細說_明、 且_於（巴利）律_藏中_尋求_完整_無誤_地教_導開_示。

Tāni ce sutte otāriyamānāni vinaye sandassiyamānāni sutte ceva otaranti vinaye ca sandissanti, niṭṭhamettha gantabbaṃ –

若_其（文_句）在_用心_進入_經藏_中瞭_解說_明、 用_心在_律藏_中尋_求教_導以_後； 說_明不_但被_收錄_於（巴利）經_藏中_， 而_且教_導被_發現_於（巴利）律_藏中_， 有_此依_據， 可_以去_下結_論， 告_知：

‘addhā, idaṃ tassa bhagavato vacanaṃ arahato sammāsambuddhassa;

『此_確實_是世_尊、 應_供阿_羅漢_、 獨_覺自_現證_、 平_等正_覺者_之法_語；

tassa ca therassa suggahitaṃ’ti.

而_且， 這_是（聖_教已_被）彼_{（個}別_傳承_之）長_老所_正解_。』

Idaṃ, bhikkhave, catutthaṃ mahāpadesaṃ dhāreyyātha.

諸_レ比_丘！ 此_為第_四大_教法_{（個}別_傳承_所說_之檢_驗）， 應_憶念_不忘_{——}永_久受_持。

卍 卍 卍

第三章 ☆ 結語

Ime kho, bhikkhave, cattāro mahāpadesā"ti.

諸_支比_丘！此_等是_{『四大教法』}（之_檢驗_之）。

Dasamaṃ.

四大教法經 ～故思品・第十經終

～《增支部經典・四集・五十經篇之四・故思品・*Mahāpadesasutta* 四大教法經》(AN 4.180)

Sañcetaniyavaggo tatiyo.

故思品 ～五十經篇之四・第三品終

～《增支部經典・四集・五十經篇之四・*Sañcetaniyavagga* 故思品》(AN 4.171-180)

Tassuddānaṃ –

此品（十經）攝頌曰：

Cetanā vibhatti koṭṭhiko,

（一）四種有我、（二）四無礙解、（三）大拘絺羅，

ānando upavāṇapañcamāṃ;

（四）阿難、（五）優波摩那經；

Āyācana-rāhula-jambālī,

（六）四正希求、（七）羅睺羅、（八）污池之破壞，

nibbānaṃ mahāpadesenaṃti.

（九）涅槃、（十）四大教法。



第三品 ☆ 有學退還之二經

Dutiyasekhasutta (AN 5.90)

【巴利佛經】

10. *Dutiyasekhasuttam*

《有學退還之二經》

☆ 能令有學（比丘）退還之五法 ⇒

- ① 經營事業；② 專心雜事；③ 交際雜處；
- ④ 非時入村（不適當的時間，進入村莊裡托鉢）；
- ⑤ 不親近法（不親近善知識、聖正厭離的善法）。

☆ 十全法談 ⇒

- (1) 少欲法；(2) 喜足法；(3) 獨居遠離法；(4) 不交際雜處法；(5) 發勤精進法；
- (6) 戒法；(7) 定法；(8) 慧法；(9) （正）解脫法；(10) 解脫智見法。

第一章 ☆ 退還五法

90. "Pañcime, bhikkhave, dhammā sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattanti.

「諸比丘！此等之五法，能令有學比丘退還。」

Katame pañca?

何等為五？

第一節 ♡ 經營事業

Idha, bhikkhave, sekho bhikkhu bahukicco hoti bahukaraṇīyo viyatto kimkaraṇīyesu;

諸比丘！世間有有學比丘，經營眾多之事業，多作所作，且一切（事業）所作皆善巧；

riñcati paṭisallānaṃ, nānuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼_レ廢_レ除_レ禪_ヲ思_ム， 不_レ勤_ク於_レ內_ニ心_ヲ之_ニ寂_ト止_ト。

Ayaṃ, bhikkhave, paṭhama dhammo sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattati.

諸_レ比_丘！ 此_レ是_レ能_ク令_ク有_レ學_ニ比_丘， 退_ス還_ス之_ニ第_一法_ト。

第二節 專心雜事

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu appamattakena kammaṇa divasaṃ atināmeti;

復_レ次_カ， 諸_レ比_丘！ 有_レ有_レ學_ニ比_丘， 因_テ專_ニ心_ヲ於_レ雜_ニ事_ニ， 而_レ虛_ト度_ク時_ヲ日_ト；

riñcati paṭisallānaṃ, nānuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼_レ廢_レ除_レ禪_ヲ思_ム， 不_レ勤_ク於_レ內_ニ心_ヲ之_ニ寂_ト止_ト。

Ayaṃ, bhikkhave, dutiyo dhammo sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattati.

諸_レ比_丘！ 此_レ是_レ能_ク令_ク有_レ學_ニ比_丘， 退_ス還_ス之_ニ第_二法_ト。

第三節 雜處交際

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu saṃsaṭṭho viharati gahaṭṭhapabbajitehi ananulomikena gihisaṃsaggena;

復_レ次_カ， 諸_レ比_丘！ 有_レ有_レ學_ニ比_丘， 與_レ在_レ家_ニ、 出_レ家_ニ等_ク， 交_ニ際_ニ接_レ觸_ク、 混_レ雜_ニ居_ニ住_ク， 因_テ與_レ在_レ家_ニ結_レ交_ニ雜_ニ處_ニ而_レ不_レ隨_ク順_ク [聖_ノ教_ト] ；

riñcati paṭisallānaṃ, nānuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼_レ廢_レ除_レ禪_ヲ思_ム， 不_レ勤_ク於_レ內_ニ心_ヲ之_ニ寂_ト止_ト。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattati.

諸_レ比_丘！ 此_レ是_レ能_ク令_ク有_レ學_ニ比_丘， 退_ス還_ス之_ニ第_三法_ト。

第四節 ㊦ 早出晚歸

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu akālena gāmaṃ pavisati, atidivā paṭikkamati;

復次，諸比丘！有有學之比丘，甚早入村，過正午始還；

riñcati paṭisallānaṃ, nānuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼廢除禪思，不勤於內心之寂止。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattati.

諸比丘！此是能令有學比丘，退還之第四法。

第五節 ㊦ 散心雜話

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu yāyaṃ kathā ābhisallekhikā cetovivaraṇasappāyā,

復次，諸比丘！有有學比丘，（不親近）凡是能損減（貪欲）、讓心趣向捨離五蓋之（說法）談話，

seyyathidaṃ –

譬如（十全法談）——

appicchakathā

(1) 少欲法；

santutṭhikathā

(2) 喜足法；

pavivekakathā

(3) 獨居遠離法；

asamsaggakathā

(4) 不交際雜處法；

vīriyārambhakathā

(5) 發_フ勤_ク精_シ進_シ法_フ；

sīlakathā

(6) 戒_セ法_フ；

samādhikathā

(7) 定_カ法_フ；

paññākathā

(8) 慧_チ法_フ；

vimuttikathā

(9) (正_シ) 解_ケ脫_セ法_フ；

vimuttiñāṇadassanakathā,

(10) 解_ケ脫_セ智_チ見_シ法_フ。

evarūpiyā kathāya na nikāmalābhī hoti na akicchalābhī na akasiralābhī [kicchalābhī kasiralābhī (sī. syā. kam. pī)];

像_ト這_キ樣_ニ (說_フ法_フ) 談_ク話_ス, 如_ク欲_ク得_ケ (其_ノ中_ニ之_ノ法_フ義_一) 而_ル不_ク得_ケ, 於_テ彼_ノ為_ス得_ケ之_ノ艱_ク難_ク、得_ケ之_ノ梗_ク澀_ク；

riñcati paṭisallānaṃ, nānuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼_ノ廢_ス除_ク禪_ヲ思_ム, 不_ク勤_ク於_テ內_ニ心_ヲ之_ノ寂_ト止_ト。

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattati.

諸_ノ比_ク丘_ノ！此_ノ是_レ能_ク令_ク有_ス學_ト比_ク丘_ノ, 退_ス還_ス之_ノ第_ニ五_ノ法_フ。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā sekhasa bhikkhuno parihānāya saṃvattanti.

諸_ノ比_ク丘_ノ！此_ノ等_ク之_ノ五_ノ法_フ, 能_ク令_ク有_ス學_ト比_ク丘_ノ退_ス還_ス。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 不退還五法

“Pañcime, bhikkhave, dhammā sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattanti.

諸比丘！此等之五法，能令有學比丘不退還。

Katame pañca?

何等為五？

第一節 不營事業

Idha, bhikkhave, sekho bhikkhu na bahukicco hoti na bahukaraṇīyo viyatto kiṃkaraṇīyesu;

諸比丘！世間有有學比丘，不營眾多之事業，不多作所作，且一切（事業）所作不善巧；

na riñcati paṭisallānaṃ, anuyuñjati ajjhataṃ cetosamathaṃ.

彼不廢除禪思，勤於內心之寂止。

Ayaṃ, bhikkhave, paṭhamo dhammo sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattati.

諸比丘！此是能令有學比丘，不退還之第一法。

第二節 專心禪修

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu na appamattakena kammaṇa divasaṃ atināmeti;

復次，諸比丘！有有學比丘，不專心於雜事，不虛度時日；

na riñcati paṭisallānaṃ, anuyuñjati ajjhataṃ cetosamathaṃ.

彼不廢除禪思，勤於內心之寂止。

Ayaṃ, bhikkhave, dutiyo dhammo sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattati.

諸比丘！此是能令有學比丘，不退還之第二法。

第三節 獨處閒居

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu asaṃsaṭṭho viharati gahaṭṭhapabbajitehi ananulomikena gihisaṃsaggena;

復次，諸比丘！有有學比丘，不與在家、出家等，交際接觸、混雜居住，不與在家結交雜處而無不隨順 [聖教] ；

na riñcati paṭisallānaṃ, anuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼不廢除禪思，勤於內心之寂止。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattati.

諸比丘！此是能令有學比丘，不退還之第三法。

第四節 適時乞食

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu na atikālena gāmaṃ pavisati, nātidivā paṭikkamati;

復次，諸比丘！有有學比丘，不甚早入村，不過正午而還；

na riñcati paṭisallānaṃ, anuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼不廢除禪思，勤於內心之寂止。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattati.

諸比丘！此是能令有學比丘，不退還之第四法。

第五節 ❷ 十全法談

“Puna caparaṃ, bhikkhave, sekho bhikkhu yāyaṃ kathā ābhisallekhikā cetovivaraṇasappāyā,
 復次，諸比丘！有有學比丘，（親近）凡是能損減（貪欲）、讓心趣向捨離五蓋之（說法）談話，

seyyathidaṃ –

譬如（十全法談）——

appicchakathā

(1) 少欲法；

santuṭṭhikathā

(2) 喜足法；

pavivekakathā

(3) 獨居遠離法；

asaṃsaggakathā

(4) 不交際雜處法；

vīriyārambhakathā

(5) 發勤精進法；

sīlakathā

(6) 戒法；

samādhikathā

(7) 定法；

paññākathā

(8) 慧法；

vimuttikathā

(9) (正_正) 解_解脫_脫法_法；

vimuttiñāṇadassanakathā,

(10) 解_解脫_脫智_智見_見法_法。

evarūpiyā kathāya nikāmalābhī hoti akicchalābhī akasiralābhī;

像_無這_此樣_一 (說_法法_法) 談_話話_話， 如_思欲_得得_得 (其_中中_之之_法法_義) 則_得得_得， 得_之之_不不_艱艱_難難_， 得_之之_不不_梗梗_澀澀_；

na riñcati paṭisallānaṃ, anuyuñjati ajjhattaṃ cetosamathaṃ.

彼_不不_廢廢_除除_禪禪_思思_， 勤_於於_內內_心心_之之_寂寂_止止_。

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattati.

諸_比比_丘丘_！ 此_是是_能能_令令_有有_學學_比比_丘丘_， 不_退退_還還_之之_第第_五五_法法_。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā sekhasa bhikkhuno aparihānāya saṃvattanti^{ti}.

諸_比比_丘丘_！ 此_等等_之之_五五_法法_， 能_令令_有有_學學_比比_丘丘_不不_退退_還還_。 」

Dasamaṃ.

有學退還之二經 ～長老品・第十經終

— 《增支部經典・五集・五十經篇之二・長老品・Dutiyasekhasutta 有學退還之二經》 (AN 5.90)

Theravaggo catuttho.

長老品 ～五十經篇之二・第四品終

Tassuddānaṃ –

此品（十經）攝頌曰：

Rajaniyo vītarāgo,

（一）貪等五法、（二）離貪等五、

kuhakāssaddhaakkhamā;

（三）詭詐等五、（四）不信等五、（五）五不堪忍、

Paṭisambhidā ca sīlena,

（六）五無礙解、（七）戒等五法、

thero sekhā pare duveti.

（八）邪見長老、（九）有學退還之一、（十）有學退還之二。



第四品 ☆ 五法怪異經

Ussāṅkitasutta (AN 5.102)

【巴利佛經】

2. *Ussāṅkitasuttam*

《五法怪異經》

第一章 ☆ 前言

102. "Pañcahi, bhikkhave, dhammehi samannāgato bhikkhu

「諸比丘！具備五法之比丘，

ussāṅkitapariśāṅkito hoti

大概是可疑、奇怪、令人詫異者，

pāpabhikkhūti api

有可惡之惡比丘，

akuppadhammopi [api akuppadhammo (sī. syā. kaṃ.)].

即使他證得（不動心解脫阿羅漢之）不動法者。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 五法怪異

Katamehi pañcahi?

何_レ等_カ為_ス五_ノ？

Idha, bhikkhave, bhikkhu

諸_レ比_丘！ 世_間有_ニ比_丘——

vesiyāgocaro vā hoti,

① 或_レ親_ク近_ク於_ニ娼_婦；

vidhavāgocaro vā hoti,

② 或_レ親_ク近_ク於_ニ寡_婦；

thullakumārikāgocaro vā hoti,

③ 或_レ親_ク近_ク於_ニ年_邁之_レ處_女；

pañcakagocaro vā hoti,

④ 或_レ親_ク近_ク於_ニ同_性戀_者（亦_一名_不男_勢：含_被去_勢或_レ變_性者_勢）；

bhikkhunīgocaro vā hoti.

⑤ 或_レ親_ク近_ク於_ニ比_丘尼_ノ。

卍 卍 卍

第三章 ☆ 總結

“Imehi kho, bhikkhave, pañcahi dhammehi samannāgato bhikkhu

諸比丘！具備此等五法之比丘，

ussāṅkitaparisaṅkito hoti

大概是可疑、奇怪、令人詫異者，

pāpabhikkhūti api

有可能惡比丘，

akuppadhammopīti.

即使他證得（不動心解脫阿羅漢之）不動法者。」

Dutiyam.

五法怪異經 ～安穩住品・第二經終

— 《增支部經典・五集・五十經篇之三・安穩住品・Ussāṅkitasutta 五法怪異經》 (AN 5.102)



第五品 ☆ 五支大賊經

Mahācorasutta (AN 5.103)

【巴利佛經】

3. *Mahācorasuttam*

《五支大賊經》

☆ 五種惡比丘：行賄賂等惡行的假出家人，有如世間的五大盜賊。

第一章 ☆ 世間有大賊 *Mahācoro*

103. "Pañcahi, bhikkhave, aṅgehi samannāgato mahācoro

「諸比丘！成就五支之大賊，

sandhimpī chindati, nillopampī harati, ekāgārikampī karoti, paripanthevī tiṭṭhati.

侵入家宅，為掠奪、劫掠全家，或埋伏路邊而為刺盜。

Katamehi pañcahi?

何等為五？

Idha, bhikkhave, mahācoro

諸比丘！世間有大賊——

visamanissito ca hoti, gahananissito ca, balavanissito ca, bhogacāgī ca, ekacārī ca.

① 恃險難、② 恃淵叢、③ 恃有力者、④ 賄賂、⑤ 獨行。

第一節 侍險難之大賊

“Kathañca, bhikkhave, mahācoro visamanissito hoti?

又云，諸比丘！云何而大賊恃險難耶？

Idha, bhikkhave, mahācoro nadīviduggaṃ vā nissito hoti pabbatavisamaṃ vā.

諸比丘！世間有大賊，或恃難涉之河、或恃高山嶮岨。

Evaṃ kho, bhikkhave, mahācoro visamanissito hoti.

諸比丘！如是之大賊恃險難。

第二節 侍淵叢之大賊

“Kathañca, bhikkhave, mahācoro gahananissito hoti?

又云，諸比丘！云何而大賊恃淵叢耶？

Idha, bhikkhave, mahācoro tiṇagahaṇaṃ vā nissito hoti rukkhagahaṇaṃ vā rodhaṃ [gedhaṃ (sī.) a. ni. 3.51] vā mahāvanasaṇḍaṃ vā.

諸比丘！世間有大賊，或恃草叢、或恃森林、或恃峻坡、或恃大密林。

Evaṃ kho, bhikkhave, mahācoro gahananissito hoti.

諸比丘！如是之大賊恃淵叢。

第三節 侍有力者之大賊

“Kathañca, bhikkhave, mahācoro balavanissito hoti?

又云，諸比丘！云何而大賊恃有力者耶？

Idha, bhikkhave, mahācoro rājānaṃ vā rājamahāmattānaṃ vā nissito hoti.

諸比丘！世間有大賊，或恃王、或恃輔相，

Tassa evaṃ hoti – `sace maṃ koci kiñci vakkhati,

彼_ク謂_ク： 『 若_ク有_ク人_ト， 對_ク我_ニ發_ク疑_一問_ク，

ime me rājāno vā rājamahāmattā vā pariyodhāya atthaṃ bhaṇissanti'ti.

是_レ等_ク之_レ王_ト或_ク輔_ト相_ト者_ト， 當_ク隱_ク護_ク而_ク語_ク。 』

Sace naṃ koci kiñci āha, tyassa rājāno vā rājamahāmattā vā pariyodhāya atthaṃ bhaṇanti.

若_ク有_ク人_ト， 真_ク對_ク彼_ニ發_ク疑_一問_ク， 此_レ等_ク王_ト或_ク輔_ト相_ト者_ト，
為_ク彼_ニ隱_ク護_ク而_ク語_ク。

Evaṃ kho, bhikkhave, mahācoro balavanissito hoti.

諸_レ比_ク丘_ト！ 如_ク是_レ之_レ大_ク賊_ト恃_ク有_ク力_ト者_ト。

第四節 ❷ 賄賂之大賊

“Kathañca, bhikkhave, mahācoro bhogacāgī hoti?

又_レ， 云_ク何_ニ而_ク大_ク賊_ト賄_ク賂_ク耶_ト？

Idha, bhikkhave, mahācoro aḍḍho hoti mahaddhano mahābhogo.

諸_レ比_ク丘_ト！ 世_レ間_ニ有_ク大_ク賊_ト， 有_ク富_ト貴_ト、 大_ク財_ト， 有_ク
大_ク受_ク用_ク物_ト。

Tassa evaṃ hoti – `sace maṃ koci kiñci vakkhati,

彼_ク謂_ク： 『 若_ク有_ク人_ト， 對_ク我_ニ發_ク疑_一問_ク，

ito bhogena paṭisantharissāmi'ti.

則_レ以_ク此_レ中_ニ之_レ財_ト寶_ト而_ク歡_ク迎_ク。 』

Sace naṃ koci kiñci āha, tato bhogena paṭisantharati.

若_ク有_ク人_ト， 對_ク彼_ニ發_ク疑_一問_ク， 則_レ以_ク其_レ中_ニ之_レ財_ト寶_ト而_ク
歡_ク迎_ク。

Evaṃ kho, bhikkhave, mahācoro bhogacāgī hoti.

諸_レ比_ク丘_ト！ 如_ク是_レ之_レ大_ク賊_ト賄_ク賂_ク。

第五節 獨行之大賊

“Kathañca, bhikkhave, mahācoro ekacārī hoti?

又，諸比丘！云何而大賊獨行耶？

Idha, bhikkhave, mahācoro ekakova gahaṇāni [niggahaṇāni (sī. syā. kaṃ. pī.)] kattā hoti.

諸比丘！世間有大賊，單獨而奪財物，

Taṃ kissa hetu?

何故爾耶？

‘Mā me guyhamantā bahiddhā sambhedam agamaṃsū’ti.

〔思：〕 『我秘密之處當勿顯露。』

Evaṃ kho, bhikkhave, mahācoro ekacārī hoti.

諸比丘！如是之大賊獨行。

‘Imehi kho, bhikkhave, pañcahaṅgehi samannāgato mahācoro

諸比丘！成就此等五支之大賊，

sandhimpī chindati nillopampī harati ekāgārikampī karoti paripanthepī tiṭṭhati.

侵入家宅，為掠奪、劫掠全家，或埋伏路邊而為剽盜。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 出世間有大賊 Pāpabhikkhu

“Evamevaṃ kho, bhikkhave, pañcahi dhammehi samannāgato pāpabhikkhu

諸比丘！正如是，成就五法之惡比丘，

khatam upahatam attānam pariharati, sāvajjo ca hoti sānuvajjo viññūnam, bahuñca apuññaṃ pasavati.

負傷、損毀自己、有罪、呵毀於智者、又多生非福。

Katamehi pañcahi?

何等為五？

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu

諸比丘！世間有惡比丘——

visamanissito ca hoti, gahananissito ca, balavanissito ca, bhogacāgī ca, ekacārī ca.

① 恃險難、② 恃淵叢、③ 恃有力者、④ 賄賂、⑤ 獨行。

第一節 賄賂之惡比丘

“Kathañca, bhikkhave, pāpabhikkhu visamanissito hoti?

又，諸比丘！云何惡比丘恃險難耶？

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu

諸比丘！世間有惡比丘——

visamena kāyakammena samannāgato hoti,

(1) 成就險難之『身業』；

visamena vacīkammena samannāgato hoti,

(2) 成就險難之『語業』；

visamena manokammena samannāgato hoti.

(3) 成_レ就_レ險_ニ難_ニ之_ニ 『 意_ハ業_セ』 。

Evam kho, bhikkhave, pāpabhikkhu visamanissito hoti.

諸_ニ比_レ丘_ニ ! 如_レ是_ハ之_ニ惡_ニ比_レ丘_ニ恃_ハ險_ニ難_ニ。

第二節 ㊦ 恃淵叢之惡比丘

“Kathañca, bhikkhave, pāpabhikkhu gahananissito hoti?

又_レ, 諸_ニ比_レ丘_ニ ! 云_レ何_レ惡_ニ比_レ丘_ニ恃_ハ淵_ニ叢_ニ耶_セ ?

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu micchādītṭhiko hoti antaggāhikāya dītṭhiyā samannāgato.

諸_ニ比_レ丘_ニ ! 世_ハ間_ニ有_レ惡_ニ比_レ丘_ニ, 是_ハ邪_ニ具_ニ者_ニ, 成_レ就_レ邊_ニ執_レ見_ニ。

Evam kho, bhikkhave, pāpabhikkhu gahananissito hoti.

諸_ニ比_レ丘_ニ ! 如_レ是_ハ之_ニ惡_ニ比_レ丘_ニ恃_ハ淵_ニ叢_ニ。

第三節 ㊦ 恃有力者之惡比丘

“Kathañca, bhikkhave, pāpabhikkhu balavanissito hoti?

又_レ, 云_レ何_レ惡_ニ比_レ丘_ニ恃_ハ有_レ力_カ者_ニ耶_セ ?

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu rājānaṃ vā rājamahāmattānaṃ vā nissito hoti.

諸_ニ比_レ丘_ニ ! 世_ハ間_ニ有_レ惡_ニ比_レ丘_ニ, 或_レ恃_ハ王_ニ, 或_レ恃_ハ輔_ニ相_ニ,
相_ニ。

Tassa evaṃ hoti – ‘sace maṃ koci kiñci vakkhati,

彼_ハ謂_ク : 『 若_レ有_レ人_ニ, 對_シ我_ニ發_シ疑_ハ問_ク,

ime me rājāno vā rājamahāmattā vā pariyodhāya atthaṃ bhaṇissantīti.

此_ハ等_ハ王_ニ成_シ輔_ニ相_ニ者_ニ, 當_レ隱_ニ護_ニ而_レ語_ク。』

Sace maṃ koci kiñci āha, tyassa rājāno vā rājamahāmattā vā pariyoḍhāya atthaṃ bhaṇanti.

若^レ有^ク人^ヲ， 對^シ彼^ニ發^ス疑^ヲ問^フ， 此^ガ等^ノ之^ニ王^ニ或^シ輔^ト相^ト者^キ，
為^シ彼^ニ隱^シ護^シ而^シ語^ス。

Evam kho, bhikkhave, pāpabhikkhu balavanissito hoti.

諸^レ比^ク丘^ノ！ 如^ク是^ノ惡^ム比^ク丘^ノ恃^テ有^ク力^カ者^キ。

第四節 ❷ 賄賂之惡比丘

“Kathañca, bhikkhave, pāpabhikkhu bhogacāgī hoti?

又^レ， 諸^レ比^ク丘^ノ！ 云^ハ何^ニ而^シ惡^ム比^ク丘^ノ賄^シ賂^カ耶^ニ？

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu lābhī hoti

cīvarapiṇḍapātasenāsanagilānappaccayabhesajjaparikkhārānaṃ.

諸^レ比^ク丘^ノ！ 世^ノ間^ニ有^ク惡^ム比^ク丘^ノ， 得^シ衣^ヲ、 食^ヲ、 床^ヲ座^ヲ、
治^シ病^ヲ藥^ヲ及^シ資^ヲ具^ヲ，

Tassa evaṃ hoti – ‘sace maṃ koci kiñci vakkhati,

彼^ノ謂^ク： 『 若^レ有^ク人^ヲ， 對^シ我^ニ發^ス疑^ヲ問^フ，

ito lābhena paṭisantharissāmī’ti.

當^ケ以^テ此^ノ中^ノ之^ニ利^ヲ養^テ而^シ歡^シ迎^ス。 』

Sace maṃ koci kiñci āha, tato lābhena paṭisantharati.

若^レ有^ク人^ヲ， 對^シ彼^ニ發^ス疑^ヲ問^フ， 以^テ其^ノ中^ノ之^ニ利^ヲ養^テ而^シ歡^シ迎^ス。

Evam kho, bhikkhave, pāpabhikkhu bhogacāgī hoti.

諸^レ比^ク丘^ノ！ 如^ク是^ノ惡^ム比^ク丘^ノ賄^シ賂^カ。

第五節 獨行之惡比丘

“Kathañca, bhikkhave, pāpabhikkhu ekacārī hoti?

又云，諸比丘！云何而惡比丘獨行耶？

Idha, bhikkhave, pāpabhikkhu ekakova paccantimesu janapadesu nivāsaṃ kappeti.

諸比丘！世間惡比丘，單獨而住（不如法之）偏遠地方，

So tattha kulāni upasaṅkamanto lābhaṃ labhati.

彼於彼處，入富家而得利。

Evam kho, bhikkhave, pāpabhikkhu ekacārī hoti.

諸比丘！如是比丘獨行。

“Imehi kho, bhikkhave, pañcahi dhammehi samannāgato pāpabhikkhu

諸比丘！成就如是五法之惡比丘，

khatam upahatam attānam pariharati, sāvajjo ca hoti sānuvajjo viññūnam, bahuñca apuññaṃ pasavatī”ti.

負傷、損毀自己、有罪、訶毀於智者、又多生非福。」

Tatiyaṃ.

五支大賊經 ～安穩住品・第三經終

— 《增支部經典・五集・五十經篇之三・安穩住品・Mahācorasutta 五支大賊經》 (AN 5.103)



第六品 ☆ 忘失正法之一經

Paṭhamasaddhammasammosasutta (AN 5.154)

【巴利佛經】

4. *Paṭhamasaddhammasammosasuttaṃ*

《忘失正法之一經》

☆ 正法久住的五個因緣 ⇒

- ① 佛弟子恭敬地來聽聞佛法；
- ② 佛弟子恭敬地來學習佛法；
- ③ 佛弟子恭敬地來回憶佛法；
- ④ 佛弟子恭敬地來觀察所回憶的法義；
- ⑤ 佛弟子恭敬地知解法義以後，而來修習法隨法行的佛法。

☆ 法隨法行 (*Dhammānudhammaṃ paṭipajjanti*) ⇒

白話意譯：皈依自己當下身心所呈現的法義、依法實修、漸次增上。

第一章 ☆ 退失正法

154. "Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

「諸比丘！此等五法，能對正法造成破壞，
(正法) 由此混亂、由此消失。」

Katame pañca?

何等為五？

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸比丘！世間有比丘——

na sakkaccaṃ dhammaṃ suṇanti,

① 彼_レ不_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ聽_レ聞_レ法_ヲ；

na sakkaccaṃ dhammaṃ pariyāpuṇanti,

② 彼_レ不_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ學_レ習_レ法_ヲ；

na sakkaccaṃ dhammaṃ dhārenti,

③ 彼_レ不_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ回_レ憶_レ法_ヲ；

na sakkaccaṃ dhātānaṃ [dhatānaṃ (sī. syā. kaṃ. pī.)] dhammānaṃ atthaṃ upaparikkhanti,

④ 彼_レ不_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ觀_レ察_レ所_レ回_レ憶_レ之_ノ法_ヲ義_ヲ；

na sakkaccaṃ atthamaññāya dhammamaññāya dhammānudhammaṃ paṭipajjanti.

⑤ 彼_レ不_レ恭_レ敬_レ而_レ知_レ法_ヲ、 解_レ義_ヲ已_レ， 來_レ（ 修_レ習_レ）
法_ヲ隨_レ法_ヲ行_レ。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

如_レ是_ノ， 諸_レ比_レ丘_ノ！ 此_レ等_カ五_ノ法_ヲ， 能_レ對_レ正_ノ法_ヲ造_レ成_レ，
破_レ壞_レ， （ 正_ノ法_ヲ） 由_レ此_レ混_レ亂_レ、 由_レ此_レ消_レ失_レ。

第二章 ☆ 圓滿正法

“Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattanti.

諸_レ比_レ丘_ノ！ 此_レ等_カ五_ノ法_ヲ， 能_レ令_レ正_ノ法_ヲ久_ク住_ス（ 世_ノ間_ノ） ， 因_レ而_レ不_レ混_レ亂_レ、 因_レ而_レ不_レ消_レ失_レ。

Katame pañca?

何_レ等_カ為_ス五_ノ？

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸_レ比_レ丘_ノ！ 世_ノ間_ノ有_ス比_レ丘_ノ——

sakkaccaṃ dhammaṃ suṇanti,

① 彼_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ聽_レ聞_レ法_ヲ；

sakkaccaṃ dhammaṃ pariyāpuṇanti,

② 彼^フ恭^ク敬^ク而^ル來^カ學^ブ習^ス法^ヲ；

sakkaccaṃ dhammaṃ dhārenti,

③ 彼^フ恭^ク敬^ク而^ル來^カ回^シ憶^ス法^ヲ；

sakkaccaṃ dhātānaṃ dhammānaṃ atthaṃ upaparikkhanti,

④ 彼^フ恭^ク敬^ク而^ル來^カ觀^ス察^ス所^ニ回^シ憶^ス之^ノ法^ノ義^ヲ；

sakkaccaṃ atthamaññāya dhammamaññāya dhammānudhammaṃ paṭipajjanti.

⑤ 彼^フ恭^ク敬^ク而^ル知^ス法^ヲ、解^ス義^ヲ已^シ、來^カ（修^ブ習^ス）法^ヲ隨^ヒ法^ヲ行^フ。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattantī”ti.

如^ク是^ノ、諸^レ比^丘！此^レ等^ノ五^ノ法^ヲ、能^ク令^ク正^ノ法^ヲ久^ク住^ス（世^ノ間）^ニ、因^テ而^テ不^ク混^ズ亂^ス、因^テ而^テ不^ク消^ズ失^ス。」

Catuttham.

忘失正法之一經 ～正法品・第四經終

～《增支部經典・五集・五十經篇之四・正法品・Pathamasaddhammasammosasutta 忘失正法之一經》(AN 5.154)



第七品 ☆ 忘失正法之二經

Dutiyasaddhammasammosasutta (AN 5.155)

【 巴 利 佛 經 】

5. *Dutiyasaddhammasammosasuttam*

《 忘 失 正 法 之 二 經 》

☆ 忘失五法的五個因緣 ⇒

- (1) 不通達巴利聖典；
- (2) 不詳細為人說法；
- (3) 不教導他人說法；
- (4) 不詳細解讀法義；
- (5) 不修習內觀法義。

☆ 九部經（九分教） ⇒

- (1) 契經（巴利聖典：比丘波羅提木叉、比丘尼波羅提木叉、相應部經典、長部經典、中部經典、增支部經典）；
- (2) 應頌（應該背誦：小誦經、法句經、經集）；
- (3) 記說（契經解說：聖津、大義釋、小義釋）；
- (4) 偈經（偈頌詩句：長老偈、長老尼偈）；
- (5) 自說經（佛自開示）；
- (6) 如是語（聞佛開示）；
- (7) 本生譚（佛教故事：天宮事、餓鬼事）；
- (8) 未曾有法（解說教義：無礙解道）；
- (9) 智解（教理問答：導論、三藏知津）。

卍 卍 卍

第一章 ☆ 退失正法

155. "Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

「諸比丘！此等五法，能對正法造成破壞，
(正法) 由此混亂、由此消失。

Katame pañca?

何等為五？

第一節 ♡ 不學聖典

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸比丘！世間有比丘——

dhammaṃ na pariyāpuṇanti –

當彼對(佛)法不通達之時(例如)：

suttaṃ,

(1) 契經(巴利聖典)；

geyyaṃ,

(2) 應頌(應該背誦)；

veyyākaraṇaṃ,

(3) 記別(契經解說)；

gāthaṃ,

(4) 偈經(偈頌詩句)；

udānaṃ,

(5) 自說經(佛自開示)；

itivuttakaṃ,

(6) 如是語(聞佛開示)；

jātakam,

(7) 本^ク生^ル譚^カ (佛^ニ教^ス故^ニ事^ナ) ;

abbhutadhammam,

(8) 未^ダ曾^シ有^リ法^ヲ (解^キ說^ク教^ノ義^ヲ) ;

vedallam.

(9) 智^ク解^キ (教^ノ理^ヲ問^ヒ答^フ) 。

Ayam, bhikkhave, paṭhamo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此^ノ者^ニ, 諸^ノ比^ク丘^ニ ! 能^ク對^ス正^ノ法^ヲ造^ル成^シ破^ク壞^ス, (正^ノ法^ヲ) 由^テ此^ノ混^ル亂^ス、由^テ此^ノ消^ス失^ル之^ニ第^ニ一^ノ項^ノ原^ノ因^ト。

第二節 不廣說法

“Puna caparam, bhikkhave, bhikkhū

復^シ次^ニ, 諸^ノ比^ク丘^ニ ! 又^テ有^リ比^ク丘^ニ——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ na vitthārena paresaṃ desenti.

雖^シ依^テ此^ノ聽^ク聞^ク、又^テ依^テ此^ノ通^ク達^ス、但^シ不^ク以^テ詳^ク細^ク方^ノ式^ヲ來^リ敘^ス述^ス、不^ク為^シ他^ノ人^ニ說^ク法^ヲ之^ニ時^ナ。

Ayam, bhikkhave, dutiyo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此^ノ者^ニ, 諸^ノ比^ク丘^ニ ! 能^ク對^ス正^ノ法^ヲ造^ル成^シ破^ク壞^ス, (正^ノ法^ヲ) 由^テ此^ノ混^ル亂^ス、由^テ此^ノ消^ス失^ル之^ニ第^ニ二^ノ項^ノ原^ノ因^ト。

第三節 不令說法

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ na vitthārena paraṃ [paresaṃ (sī. syā. kaṃ. pī.),
pare (?)] vācenti.

雖依此聽聞、又依此通達，但不以詳細方式來敘述，不教導他人說法之時。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第三項原因。

第四節 不廣學習

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ na vitthārena sajjhāyaṃ karonti.

雖依此聽聞、又依此通達，但不以詳細方式來敘述，不為他人解讀法義之時。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第四項原因。

第五節 不觀法義

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ na cetasā anuvitakkenti anuvicārenti manasānupekkhanti.

雖依此聽聞、又依此通達，但不以心隨尋
（隨時省思）、隨伺（隨時內觀），不以
意念隨時（保持）觀察法義之時。

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，
（正法）由此混亂、由此消失之第五項原因。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

如是，諸比丘！此等五法，能對正法造成
破壞，（正法）由此混亂、由此消失。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 圓滿正法

“Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattanti.

諸比丘！此等五法，能令正法久住（世間），因而不能混亂、因而不能消失。

Katame pañca?

何等為五？

第一節 ♡ 精通聖典

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸比丘！世間有比丘——

dhammaṃ pariyāpuṇanti –

當彼對（佛）法通達之時（例如如）：

suttaṃ,

(1) 契經（巴利聖典）；

geyyaṃ,

(2) 應頌（應該背誦）；

veyyākaraṇaṃ,

(3) 記別（契經解說）；

gāthaṃ,

(4) 偈經（偈頌詩句）；

udānaṃ,

(5) 自說經（佛自開示）；

itivuttakaṃ,

(6) 如是語（聞佛開示）；

jātakam,

(7) 本^カ生^ル譚^カ (佛^ト教^ト故^ク事^ナ) ;

abbhutadhammam,

(8) 未^ク曾^シ有^リ法^ヲ (解^キ說^ク教^ト義^ヲ) ;

vedallam.

(9) 智^ク解^キ (教^ト理^カ問^カ答^カ) 。

Ayaṃ, bhikkhave, paṭhamo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此^カ者^キ， 諸^ク比^ク丘^ノ！ 能^ク令^カ正^ト法^ヲ久^ク住^ス (世^ノ間^ノ) ，
因^リ而^ル不^ク混^ル亂^ス、 因^リ而^ル不^ク消^ス失^ス之^ノ第^ニ一^ノ項^ノ原^ノ因^ナ。

第二節 廣為說法

“Puna caparam, bhikkhave, bhikkhū

復^シ次^ニ， 諸^ク比^ク丘^ノ！ 又^テ有^リ比^ク丘^ノ——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ vitthārena paresaṃ desenti.

既^シ依^テ此^カ聽^ク聞^ク、 又^テ依^テ此^カ通^ク達^ク、 並^ニ且^ニ以^テ詳^ク細^ク方^ノ式^ヲ來^リ敘^ス述^ス、 能^ク為^ス他^ノ人^ト說^ク法^ヲ之^ノ時^ナ。

Ayaṃ, bhikkhave, dutiyo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此^カ者^キ， 諸^ク比^ク丘^ノ！ 能^ク令^カ正^ト法^ヲ久^ク住^ス (世^ノ間^ノ) ，
因^リ而^ル不^ク混^ル亂^ス、 因^リ而^ル不^ク消^ス失^ス之^ノ第^ニ二^ノ項^ノ原^ノ因^ナ。

第三節 令人說法

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ vitthārena paraṃ vācenti.

既依此聽聞、又依此通達，並且以詳細方式來敘述，能教導他人說法之時。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不会混亂、因而不会消失之第三項原因。

第四節 推廣學習

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ vitthārena sajjhāyaṃ karonti.

既依此聽聞、又依此通達，並且以詳細方式來敘述，能為他人解讀法義之時。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不会混亂、因而不会消失之第四項原因。

第五節 內觀法義

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

yathāsutaṃ yathāpariyattaṃ dhammaṃ cetasā anuvitakkenti anuvicārenti manasānupekkanti.

既依此聽聞、又依此通達，並且以心隨尋（隨時省思）、隨伺（隨時內觀），能以意念隨時（保持）觀察法義之時。

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不可混亂、因而不可消失之第五項原因。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattanti”ti.

如是，諸比丘！此等五法，能令正法久住（世間），因而不可混亂、因而不可消失。」

Pañcamaṃ.

忘失正法之二經 ～正法品・第五經終

～《增支部經典・五集・正法品・Dutiyasaddhammasammosasutta 忘失正法之二經》(AN 5.155)



第八品 ☆ 忘失正法之三經

Tatīyasaddhammasammosasutta (AN 5.156)

【巴利佛經】

6. *Tatīyasaddhammasammosasuttam*

《忘失正法之三經》

☆ 破壞正法的五個因緣 ⇒

- ① 顛倒經文；
- ② 難以調教；
- ③ 不敬傳承；
- ④ 豐富積蓄；
- ⑤ 破和合僧。

☆ 阿含 (*Āgamā*) ⇒

佛世以後，阿含是所有聖教傳承的簡稱。

原來意思：這佛法是從別人那裡聽來的！

是否正確？不敢保證——

要自己從經律當中去核對。

如《四大教法經》中所說。

《增支部經典·四集·五十經篇之四·故思品·四大教法經》說示（檢驗四大教法）：

☆ 四大教法 (*Cattāro mahāpadesā*) ⇒

字義叫做：根據四種主要傳播佛法的途徑；

檢驗是否：為真正佛法和聖律的簡便方式。

又或譯為：四種墨印、四種廣說。

❶ 檢驗「比丘所說」教法；

〔 ⊖ 比丘所說「非法、非律！」 𑖦 〕

〔 ⊕ 比丘所說「如法、如律！」 𑖦 〕

② 檢驗「僧團所說」教法；

〔㊦ 僧團所說「非法、非律！」 〔書〕〕

〔㊧ 僧團所說「如法、如律！」 〔書〕〕

③ 檢驗「多數教派所說」教法；

〔㊨ 多數教派所說「非法、非律！」 〔書〕〕

〔㊩ 多數教派所說「如法、如律！」 〔書〕〕

④ 檢驗「非主流所說」教法。

〔㊪ 個別傳承所說「非法、非律！」 〔書〕〕

「既不歡喜、也不拒絕，應妥善了解其文句，並深入（巴利）經藏中尋求完整無誤之詳細說明、且於（巴利）律藏中尋求完整無誤地教導開示。

若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明既不被收錄於（巴利）經藏中，教導亦不被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知……」

〔㊫ 個別傳承所說「如法、如律！」 〔書〕〕

「若其（文句）在用心進入經藏中瞭解說明、用心在律藏中尋求教導以後；說明不但被收錄於（巴利）經藏中，而且教導被發現於（巴利）律藏中，有此依據，可以去下結論，告知……。」

☆ 法（*Dhamma*） ⇒

佛世時代，法是屬於《九部經》的《應頌》部份；

《應頌》是指佛法當中「應該背誦」的法句偈語。

其中包含：《小誦經》、《法句經》、《經集》。

佛世以後二百年間，仍然傳承正法律的原始僧團——

為解釋小誦經、法句經、經集，故結集了《經藏》。

☆ 律（*Vinaya*） ⇒

佛世時代，律是「生活規範」，

後世才引申為「解釋戒的經」；

佛世以後二百年間，仍然傳承正法律的原始僧團——

為了解釋兩部律的《戒本》，所以結集了《律藏》。

☆ 論母（*Mātikā*） ⇒

字義叫做：法義大綱，現今論藏的原始雛型。

論藏：不代表佛說，是早期部派論師的觀點。

佛陀時代只有法（Dhamma）和律（Vinaya）；

並沒有〈偽〉論（即阿毗達摩 Abhidhamma）——

但是在指導學生背誦法義時，可能會需要大綱；

類似考試作弊的小抄，這就是「論母」的來源。

第一章 ☆ 退失正法

156. [a. ni. 4.160] "Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

「諸比丘！此等五法，能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失。」

Katame pañca?

何等為五？

第一節 🌀 顛倒經文

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸比丘！世間有比丘——

duggahitaṃ suttantaṃ pariyaṇanti dunnikkhittehi padabyañjanehi.

在學習（經典）時，由於將（前後之）文句錯誤地放置，於是對經文產生誤解。

Dunnikkhittassa, bhikkhave, padabyañjanassa atthopi dunnayo hoti.

諸比丘！由於（經典）文句錯誤地放置，所以讓法義難以理解。

Ayaṃ, bhikkhave, paṭhamo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第一原因。

第二節 ❷ 難以調教

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

dubbacā honti, dovacassakaraṇehi dhammehi samannāgatā, akkhamā appadakkhiṇaggāhino anusāsanīṃ.

由於具備難以調教之性格，當彼成就惡語暴戾之性時，則不堪忍、不（恭敬）右繞而虛心接受（日常）反覆叮嚀之教誡。

Ayaṃ, bhikkhave, dutiyo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya samvattati.

此者，諸比丘！能對正法造破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第二項原因。

第三節 ❷ 不敬傳承

“Puna caparaṃ, bhikkhave, ye te bhikkhū

復次，諸比丘！又有眾多比丘——

bahussutā āgatāgamā dhammadharā vinayadharā mātikādhārā,

多聞而傳承阿含（聖教）、憶持正法（經藏）、憶持聖律（律藏）、憶持論母（法義大綱），

te na sakkaccaṃ suttantaṃ paraṃ vācenti;

當彼等不恭敬而來教授其他人背誦經文之時；

tesaṃ accayena chinnaṃulako suttanto hoti appaṭisaraṇo.

（由於彼等之過失：）當彼等去世後，使經典失去保護所依，（傳承之）根本已被切斷。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第三項原因。

第四節 豐富積蓄

“Puna caparaṃ, bhikkhave, therā bhikkhū

復次，諸比丘！又有長老比丘——

bāhulikā honti sāthalikā okkamane pubbaṅgamā paviveke nikkhattadhurā,

當彼豐富積蓄時，由於墮落：放棄帶頭遠離之責任，荒廢戒行（而出現驕奢淫逸、虛偽、欺詐）；

na vīriyaṃ ārabhanti appattassa pattiyā anadhigatassa adhigamāya asacchikatassa sacchikiriya.

彼不為未獲得而應獲得（之道果）、為未到達而應到達（之聖道）、為未證得而應證得（之聖果），而發勤精進。

Tesaṃ pacchimā janatā diṭṭhānugatiṃ āpajjati.

彼等之追隨徒眾，亦依止所見而進入（仿效之先例）。

Sāpi hoti bāhulikā sāthalikā okkamane pubbaṅgamā paviveke nikkhattadhurā,

彼亦成為豐富積蓄，由於墮落：放棄帶頭遠離之責任，荒廢戒行（而出現驕奢淫逸、虛偽、欺詐）；

na vīriyaṃ ārabhati appattassa pattiyā anadhigatassa adhigamāya asacchikatassa sacchikiriya.

彼不為未獲得而應獲得（之道果）、為未到達而應到達（之聖道）、為未證得而應證得（之聖果），而發勤精進。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第四項原因。

第五節 破和合僧

“Puna caparaṃ, bhikkhave, saṅgho bhinno hoti.

復次，諸比丘！又有破壞僧團（和諧）。

Saṅhe kho pana, bhikkhave, bhinne aññamaññaṃ akkosā ca honti, aññamaññaṃ paribhāsā ca honti, aññamaññaṃ parikkhepā ca honti, aññamaññaṃ pariccajanā [pariccajā (syā. kaṃ.)] ca honti.

而且，諸比丘！因為於僧團（和諧）已被破壞，當既互相謾罵、又互相譏笑、又互相爭奪、又互相拋棄之時——

Tattha appasannā ceva nappasīdanti, pasannānañca ekaccānaṃ aññathattaṃ hoti.

則於彼處，不但令尚未淨信者，無法生起淨信；甚至令某些已喜悅淨信者變成誤會，轉向其他地方而去！

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失之第五項原因。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa sammosāya antaradhānāya saṃvattanti.

如是，諸比丘！此等五法，能對正法造成破壞，（正法）由此混亂、由此消失。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 圓滿正法

“Pañcime, bhikkhave, dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattanti.

諸比丘！此等五法，能令正法久住（世間），因而不得混亂、因而不得消失。

Katame pañca?

何等為五？

第一節 理解經文

Idha, bhikkhave, bhikkhū

諸比丘！世間有比丘——

suggahitaṃ suttantaṃ pariyāpuṇanti sunikkhittehi padabyañjanehi.

在學習（經典）時，由於將（前後之）文句正確地放置，於是對經文正確掌握。

Sunikkhittassa, bhikkhave, padabyañjanassa atthopi sunayo hoti.

諸比丘！由於（經典）文句正確地放置，所以讓法義易於理解。

Ayaṃ, bhikkhave, paṭhamo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不得混亂、因而不得消失之第一項原因。

第二節 容易受教

“Puna caparaṃ, bhikkhave, bhikkhū

復次，諸比丘！又有比丘——

suvacā honti sovacassakaraṇehi dhammehi samannāgatā, khamā padakkhiṇaggāhino anusāsaniṃ.

由_レ於_レ具_レ備_レ容_レ易_レ受_レ教_レ之_レ性_レ格_レ， 當_レ彼_レ成_レ就_レ善_レ語_レ，
柔_レ順_レ之_レ性_レ時_レ， 則_レ能_レ忍_レ耐_レ， （恭_レ敬_レ） 右_レ繞_レ而_レ，
虛_レ心_レ接_レ受_レ（日_レ常_レ） 反_レ覆_レ叮_レ嚀_レ之_レ教_レ誠_レ。

Ayaṃ, bhikkhave, dutiyo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此_レ者_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 能_レ令_レ正_レ法_レ久_レ住_レ（世_レ間_レ），
因_レ而_レ不_レ混_レ亂_レ， 因_レ而_レ不_レ消_レ失_レ之_レ第_レ二_レ項_レ原_レ因_レ。

第三節 𑖀 恭敬傳承

“Puna caparaṃ, bhikkhave, ye te bhikkhū

復_レ次_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 又_レ有_レ眾_レ多_レ比_レ丘_レ——

bahussutā āgatāgamā dhammadharā vinayadharā mātikādharā,

多_レ聞_レ而_レ傳_レ承_レ阿_レ含_レ（聖_レ教_レ）、 憶_レ持_レ正_レ法_レ（經_レ藏_レ）、
憶_レ持_レ聖_レ律_レ（律_レ藏_レ）、 憶_レ持_レ論_レ母_レ（法_レ義_レ大_レ綱_レ），

te sakkaccaṃ suttantaṃ paraṃ vācenti;

當_レ彼_レ等_レ恭_レ敬_レ而_レ來_レ教_レ授_レ其_レ他_レ人_レ背_レ誦_レ經_レ文_レ之_レ時_レ；

tesaṃ accayena na chinnamūlako [acchinnamūlako (ka.) a. ni. 4.160] suttanto hoti sappaṭisaraṇo.

（由_レ於_レ彼_レ等_レ之_レ無_レ過_レ失_レ：） 當_レ彼_レ等_レ去_レ世_レ後_レ，
使_レ經_レ典_レ存_レ在_レ保_レ護_レ所_レ依_レ， （傳_レ承_レ之_レ） 根_レ本_レ不_レ被_レ切_レ斷_レ。

Ayaṃ, bhikkhave, tatiyo dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此_レ者_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 能_レ令_レ正_レ法_レ久_レ住_レ（世_レ間_レ），
因_レ而_レ不_レ混_レ亂_レ， 因_レ而_レ不_レ消_レ失_レ之_レ第_レ三_レ項_レ原_レ因_レ。

第四節 不多積蓄

“Puna caparaṃ, bhikkhave, therā bhikkhū

復次，諸比丘！又有長老比丘——

na bāhulikā honti na sāthalikā, okkamane nikkhittadhurā paviveke pubbaṅgamā;

當彼不多多積蓄時，不會由於墮落：放棄帶頭遠離之責任，荒廢戒行（而出現驕奢淫逸、虛偽、欺詐）；

vīriyaṃ ārabhanti appattassa pattiyaṃ anadhigatassa adhigamāya asacchikatassa sacchikiriyaṃ.

彼為未獲得而應獲得（之道果）、為未到達而應到達（之聖道）、為未證得而應證得（之聖果），而發勤精進。

Tesaṃ pacchimā janatā diṭṭhānugatiṃ āpajjati.

彼等之追隨徒眾，亦依止所見而進入（仿效之先例）。

Sāpi hoti na bāhulikā na sāthalikā, okkamane nikkhittadhurā paviveke pubbaṅgamā,

彼亦成為不多多積蓄，不會由於墮落：放棄帶頭遠離之責任，荒廢戒行（而出現驕奢淫逸、虛偽、欺詐）；

vīriyaṃ ārabhati appattassa pattiyaṃ anadhigatassa adhigamāya asacchikatassa sacchikiriyaṃ.

彼為未獲得而應獲得（之道果）、為未到達而應到達（之聖道）、為未證得而應證得（之聖果），而發勤精進。

Ayaṃ, bhikkhave, catuttho dhammo saddhammassa ṭhitiyā asamosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不会混亂、因而不会消失之第四項原因。

第五節 僧團和諧

“Puna caparaṃ, bhikkhave, saṅgho samaggo sammodamāno avivadamāno ekuddeso phāsuṃ viharati.

復次，諸比丘！又有和合僧團，當（僧眾間）彼此歡喜、無紛爭、一起說戒之時，則容易安住（於修行）。

Saṅhe kho pana, bhikkhave, samagge na ceva aññamaññaṃ akkosā honti, na ca aññamaññaṃ paribhāsā honti, na ca aññamaññaṃ parikkhepā honti, na ca aññamaññaṃ pariccajanā honti.

而且，諸比丘！因為於和諧之僧團，當既無互相謾罵、又無互相譏笑、又無互相爭奪、又無互相拋棄之時——

Tattha appasannā ceva pasīdanti, pasannānañca bhīyobhāvo hoti.

則於彼處，不但令尚未淨信者，能夠生起淨信；並且令已喜悅淨信者，更加幸福增長！

Ayaṃ, bhikkhave, pañcama dhammo saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattati.

此者，諸比丘！能令正法久住（世間），因而不可混亂、因而不可消失之第五項原因。

Ime kho, bhikkhave, pañca dhammā saddhammassa ṭhitiyā asammosāya anantaradhānāya saṃvattanti”ti.

如是，諸比丘！此等五法，能令正法久住（世間），因而不可混亂、因而不可消失。」

Chaṭṭham.

忘失正法之三經 ～正法品・第六經終

～《增支部經典・五集・五十經篇之四・正法品・Tatīyasaddhammasammosasutta 忘失正法之三經》(AN 5.156)



第九品 ☆ 沙門之莠經

Kāraṇḍavasutta (AN 8.10)

【巴利佛經】

10. *Kāraṇḍavasuttam*

《沙門之莠經》

☆ 淘汰沙門的污染 ⇒

- ① 剔除假和尚（栽培良田譬喻）；
- ② 剔除假佛教（簸揚糠粃譬喻）；
- ③ 剔除假道場（水管取材譬喻）。

☆ 正法（*Saddhamma*）⇒

純正、妙善、勝妙、真實、如實的佛教法。

☆ 相似法（*Saddhammappatirūpaka*）⇒

亦作：像法、偽善的法、覆蔽的法、惡法。

假扮成正法、看起來像正法、相似於正法。

☆ 正法久住的五個條件 ⇒

- ① 尊重師（親近善士）；
- ② 尊重法（聽聞正法）；
- ③ 尊重僧（如理作意）；
- ④ 尊重學（法隨法行）；
- ⑤ 尊重定（精勤止觀）。

《相應部經典·迦葉相應·迦葉品·像法經》說示（正法久住）：

「世尊說：『迦葉！只要正法（純正、善妙、如實之法）之未滅；
像法（假扮成正法）之世則不生……

迦葉！有此等五法存在，將導致正法久住、不混亂、不滅沒！

五者何耶？

迦葉！於此，有比丘、比丘尼、信士、信女等：

- ① 尊重師、住隨順；
- ② 尊重法、住隨順；
- ③ 尊重僧、住隨順；
- ④ 尊重學、住隨順；
- ⑤ 尊重定、住隨順。』』

卍 卍 卍

第一章 ☆ 緣起

10. Ekaṃ samayaṃ bhagavā campāyaṃ viharati gagarāya pokkharāṇiyā tīre.

一時，世尊住瞻波恆伽池邊。

Tena kho pana samayena bhikkhū bhikkhuṃ āpattiyā codenti.

某時，由於當其比丘責備另一比丘之罪過時。

So bhikkhu bhikkhūhi āpattiyā codiyamāno aññenāññaṃ paṭicarati,

彼比丘因為其他比丘所責備之罪過，假設種種遁辭——答非所問、避開話題，

bahiddhā kathaṃ apanāmeti,

貌似疑惑、避而不談，

kopañca dosañca appaccayañca pātukaroti.

既憤怒、瞋恚、又顯示不悅。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 沙門之污

第一節 前言

Atha kho bhagavā bhikkhū āmantesi –

於_レ是_レア、世_レ尊_ラ告_ク訴_ク比_ク丘_ク曰_セ：

一、世尊斥責

“niddhamathetaṃ, bhikkhave, puggalaṃ;

「諸_ク比_ク丘_ク！應_レ當_ク擯_ク出_ク此_ガ人_ノ！」

niddhamathetaṃ, bhikkhave, puggalaṃ.

諸_ク比_ク丘_ク！應_レ當_ク擯_ク出_ク此_ガ人_ノ！」

Apaneyyeso [apaneyyo so (sī.), apaneyyo (syā.)], bhikkhave, puggalo.

諸_ク比_ク丘_ク！應_レ當_ク驅_ク逐_ク此_ガ人_ノ！」

Kiṃ vo tena paraputtēna visodhitena [kiṃ voparaputto viheṭṭhiyati (sī.), kiṃ paraputto viheṭṭheti (syā.), kiṃ vo paraputtā viheṭṭheti (pī.), kiṃ so paraputto visodheti (ka.)]!

因_レ為_ス、何_レ必_ク被_ク異_レ類_ク之_レ (非_レ佛_ト) 子_レ侵_ク害_ク汝_ノ等_ク耶_セ？

二、害群之馬

Idha, bhikkhave, ekaccassa puggalassa

諸_ク比_ク丘_ク！此_ガ處_ニ有_ク一_レ類_ク之_レ人_ノ,

tādisaṃyeva hoti

正_ク當_ク (害_ク群_ク之_レ馬_ト) 如_ク此_ガ抑_レ制_ク之_レ時_ア,

abhikkantaṃ paṭikkantaṃ

已_レ前_ニ進_ク、已_レ返_ク回_ク,

ālokitaṃ vilokitaṃ

已_レ前_ニ視_ク、已_レ後_ニ視_ク,

samiñjitaṃ pasāritaṃ

已^レ彎^ク曲^ク、 已^レ伸^ク直^ク、

saṅghātipattacīvaradhāraṇaṃ,

著^キ僧^ノ伽^ノ梨^ノ及^ヒ鉢^ノ衣^ヲ；

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ bhikkhūnaṃ –

亦^レ類^カ似^ム其^ノ他^ヲ真^ク好^ム之^ヲ比^ユ丘^ノ。

yāvassa bhikkhū āpattiṃ na passanti.

直^ク到^ク（其^ノ他^ヲ）比^ユ丘^ノ未^ク曾^テ發^シ現^ス其^ノ罪^ヲ過^シ之^ヲ前^ニ。

Yato ca khvassa bhikkhū āpattiṃ passanti,

以^テ後^ニ， 若^シ（其^ノ他^ヲ）比^ユ丘^ノ確^ク實^ニ曾^テ發^シ現^ス其^ノ罪^ヲ過^シ之^ヲ時^ニ，

tamenaṃ evaṃ jānanti –

立^テ刻^シ！ 當^テ眾^ノ人^ノ如^ク此^ヲ知^ス道^ノ時^ニ——

‘samaṇadūsivāyaṃ [samaṇarūpī (ka.)] samaṇapalāpo samaṇakāraṇḍavo’ti [samaṇakaraṇḍavoti (ka.)].

（說^ク此^ヲ類^カ人^ノ） 『如^ク同^ク——沙^レ門^ノ之^ヲ汚^ク染^ム敗^ク壞^ク、沙^レ門^ノ之^ヲ無^ク益^ニ穀^ノ殼^ヲ、沙^レ門^ノ之^ヲ穀^ノ皮^ヲ渣^ヲ滓^ヲ。』

Tamenaṃ iti viditvā bahiddhā nāsenti.

當^テ（眾^ノ人^ノ）如^ク此^ヲ知^ス道^ノ之^ヲ時^ニ， 則^チ使^テ驅^ク擯^ク於^ク（僧^ノ團^ノ）之^ヲ外^ニ。

Taṃ kissa hetu?

其^ノ何^ニ以^テ故^ニ耶^ニ？

Mā aññe bhaddake bhikkhū dūsesī’ti!

勿^ク令^テ汚^ク染^ム其^ノ他^ヲ真^ク好^ム比^ユ丘^ノ之^ヲ故^ニ也^ニ！

第二節 𣵵 汰偽沙門

一、 良田譬喻

“Seyyathāpi, bhikkhave, sampanne yavakaraṇe yavadūsi [yavarūpi (ka.)] jāyetha yavapalāpo yavakāraṇḍavoti.

正_レ如_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 於_レ已_レ完_レ善_レ（ 栽_レ培_レ） 之_レ麥_レ田_レ中_レ， 能_レ生_レ大_レ麥_レ之_レ污_レ染_レ敗_レ壞_レ， 大_レ麥_レ之_レ無_レ益_レ穀_レ殼_レ、 大_レ麥_レ之_レ穀_レ皮_レ渣_レ滓_レ。

Tassa tādisaṃyeva mūlaṃ hoti,

正_レ當_レ其_レ根_レ如_レ此_レ抑_レ制_レ（ 無_レ穗_レ） 之_レ時_レ，

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ yavānaṃ;

亦_レ類_レ似_レ其_レ他_レ真_レ好_レ之_レ大_レ麥_レ；

tādisaṃyeva nālaṃ hoti,

正_レ當_レ葦_レ莖_レ如_レ此_レ抑_レ制_レ（ 無_レ穗_レ） 之_レ時_レ，

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ yavānaṃ;

亦_レ類_レ似_レ其_レ他_レ真_レ好_レ之_レ大_レ麥_レ；

tādisaṃyeva pattāṃ hoti,

正_レ當_レ葉_レ片_レ如_レ此_レ抑_レ制_レ（ 無_レ穗_レ） 之_レ時_レ，

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ yavānaṃ –

亦_レ類_レ似_レ其_レ他_レ真_レ好_レ之_レ大_レ麥_レ——

yāvassa sīsaṃ na nibbattati.

直_レ到_レ頂_レ端_レ麥_レ穗_レ尚_レ未_レ生_レ出_レ之_レ前_レ。

Yato ca khvassa sīsaṃ nibbattati,

以_レ後_レ， 若_レ其_レ頂_レ穗_レ確_レ實_レ出_レ現_レ之_レ時_レ，

tameṇaṃ evaṃ jānanti –

立_レ刻_レ！ 當_レ眾_レ人_レ如_レ此_レ知_レ道_レ時_レ——

'yavadūsivāyaṃ yavapalāpo yavakāraṇḍavo'ti.

(說此穀類：) 『 如同——大麥之汚染敗壞、大麥之無益穀殼、大麥之穀皮渣滓。 』

Tameṇaṃ iti viditvā samūlaṃ uppāṭetvā bahiddhā yavakaraṇassa chaḍḍenti.

當 (眾人) 如此知道之時， 直接地連根拔起已， 棄擲於麥田之外。

Taṃ kissa hetu?

其何以故耶？

Mā aññe bhaddake yave dūsesīti!

勿令汚染其他真好大麥之故也！

二、 害群之馬

"Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa

諸如此類， 諸比丘！ 此處有一類之人，

tādisaṃyeva hoti

正當 (害群之馬) 如此抑制之時，

abhikkantaṃ paṭikkantaṃ

已前進、 已返回，

ālokitaṃ vilokitaṃ

已前視、 已後視，

samiñjitaṃ pasāritaṃ

已彎曲、 已伸直，

saṅghāṭipattacīvaradhāraṇaṃ,

著僧伽梨及鉢衣；

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ bhikkhūnaṃ –

亦類似其_レ他_レ真_レ好_レ之_レ比_レ丘_レ。

yāvassa bhikkhū āpattiṃ na passanti.

直_レ到_レ（其_レ他_レ）比_レ丘_レ未_レ曾_レ發_レ現_レ其_レ罪_レ過_レ之_レ前_レ。

Yato ca khvassa bhikkhū āpattiṃ passanti,

以_レ後_レ，若_レ（其_レ他_レ）比_レ丘_レ確_レ實_レ曾_レ發_レ現_レ其_レ罪_レ過_レ之_レ時_レ，

tameṇaṃ evaṃ jānanti –

立_レ刻_レ！當_レ眾_レ人_レ如_レ此_レ知_レ道_レ時_レ——

‘samaṇadūsivāyaṃ samaṇapālāpo samaṇakāraṇḍavo’ti.

（說_レ此_レ類_レ人_レ）『如_レ同_レ——沙_レ門_レ之_レ污_レ染_レ敗_レ壞_レ、沙_レ門_レ之_レ無_レ益_レ穀_レ殼_レ、沙_レ門_レ之_レ穀_レ皮_レ渣_レ滓_レ。』

Tameṇaṃ iti viditvā bahiddhā nāsenti.

當_レ（眾_レ人_レ）如_レ此_レ知_レ道_レ之_レ時_レ，則_レ使_レ驅_レ擯_レ於_レ（僧_レ團_レ）之_レ外_レ。

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_レ故_レ耶_レ？

Mā aññe bhaddake bhikkhū dūsesīti.

勿_レ令_レ污_レ染_レ其_レ他_レ真_レ好_レ比_レ丘_レ之_レ故_レ也_レ！

第三節 𣵵 汰相似法

一、 穀堆譬喻

“Seyyathāpi, bhikkhave, mahato dhaññarāsissa phuṇamānassa [vuyhamānassa (sī. pī.), phusayamānassa (syā.), punamānassa (?)]

正_レ如_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 當_レ大_レ穀_レ堆_レ簸_レ揚_レ糠_レ秕_レ之_レ時_レ，

tattha yāni tāni dhaññāni dalhāni sāravantāni tāni ekamantaṃ puñjaṃ hoti,

於_レ彼_レ處_レ， 凡_レ是_レ穀_レ物_レ中_レ堅_レ固_レ之_レ結_レ實_レ者_レ， 將_レ其_レ堆_レ成_レ一_レ堆_レ；

yāni pana tāni dhaññāni dubbalāni palāpāni tāni vāto ekamantaṃ apavahati [apakassati (sī.)].

又_レ， 凡_レ穀_レ物_レ中_レ薄_レ弱_レ之_レ秕_レ糠_レ者_レ， 被_レ風_レ吹_レ拂_レ至_レ另_レ外_レ一_レ邊_レ。

Tamenaṃ sāmikā sammajjaṇiṃ gahetvā bhīyyosomattāya apasammajjanti.

立_レ刻_レ！ 主_レ人_レ持_レ掃_レ帚_レ更_レ儘_レ量_レ地_レ： 將_レ其_レ脫_レ離_レ、 徹_レ底_レ掃_レ除_レ。

Taṃ kissa hetu?

其_レ何_レ以_レ故_レ耶_レ？

Mā aññe bhaddake dhaññe dūsesīti!

勿_レ令_レ污_レ染_レ其_レ他_レ真_レ好_レ穀_レ物_レ之_レ故_レ也_レ！

二、 害群之馬

Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa

諸_レ如_レ此_レ類_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 此_レ處_レ有_レ一_レ類_レ之_レ人_レ，

tādisaṃyeva hoti

正_レ當_レ（ 害_レ群_レ之_レ馬_レ） 如_レ此_レ抑_レ制_レ之_レ時_レ，

abhikkantaṃ paṭikkantaṃ

已_レ前_レ進_レ、 已_レ返_レ回_レ，

ālokitaṃ vilokitaṃ

已^レ前^ク視^テ、 已^レ後^ク視^テ、

samiñjitaṃ pasāritaṃ

已^レ彎^ク曲^ク、 已^レ伸^ク直^ク、

saṅghāṭipattacīvaradhāraṇaṃ,

著^キ僧^ム伽^ム梨^カ及^ヒ鉢^ケ衣^ニ；

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ bhikkhūnaṃ –

亦^レ類^カ似^ム其^ノ他^キ真^ク好^ク之^ニ比^ブ丘^ノ。

yāvassa bhikkhū āpattiṃ na passanti.

直^ク到^ク（其^ノ他^キ）比^ブ丘^ノ未^ク曾^テ發^シ現^ス其^ノ罪^ヲ過^シ之^ニ前^ク。

Yato ca khvassa bhikkhū āpattiṃ passanti,

以^レ後^ク、 若^ク（其^ノ他^キ）比^ブ丘^ノ確^ク實^ク曾^テ發^シ現^ス其^ノ罪^ヲ過^シ之^ニ時^ニ、

tameṇaṃ evaṃ jānanti –

立^カ刻^マ！ 當^ケ眾^ノ人^ノ如^ク此^キ知^ス道^ノ時^ニ——

‘samaṇadūsivāyaṃ samaṇapālāpo samaṇakāraṇḍavo’ti.

（說^セ此^キ類^カ人^ノ）『如^ク同^ク——沙^レ門^ノ之^ニ污^ク染^ム敗^レ壞^ス、沙^レ門^ノ之^ニ無^ク益^ク穀^ノ殼^ヲ、沙^レ門^ノ之^ニ穀^ノ皮^ヲ渣^ヲ滓^ヲ。』

Tameṇaṃ iti viditvā bahiddhā nāsenti.

當^ケ（眾^ノ人^ノ）如^ク此^キ知^ス道^ノ之^ニ時^ニ、 則^チ使^テ驅^ク擯^ラ於^ニ（僧^ム團^ム）之^ニ外^ニ。

Taṃ kissa hetu?

其^ノ何^ニ以^テ故^ク耶^ニ？

Mā aññe bhaddake bhikkhū dūsesīti.

勿^ク令^カ污^ク染^ム其^ノ他^キ真^ク好^ク比^ブ丘^ノ之^ニ故^ク也^ニ！

第四節 ❷ 汰假道場

一、取材譬喻

“Seyyathāpi, bhikkhave, puriso udapānapanāḷiyatthiko tiṅhaṃ kuṭhāriṃ [kudhāriṃ (syā. kaṃ. ka.)] ādāya vanaṃ paviseyya.

正_レ如_レ是_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 有_レ人_レ（為_レ取_レ材_レ） 作_レ七_レ腕_レ尺_レ長_レ之_レ井_レ水_レ管_レ子_レ， 持_レ利_レ斧_レ已_レ而_レ欲_レ進_レ入_レ森_レ林_レ。

So yaṃ yadeva rukkhaṃ kuṭhāripāsenā ākoṭeyya

每_レ當_レ彼_レ以_レ斧_レ背_レ一_レ一_レ一_レ敲_レ打_レ其_レ樹_レ（身_レ）之_レ時_レ，

tattha yāni tāni rukkhaṇi dalhāni sāravantāni tāni kuṭhāripāsenā ākoṭitāni kakkhaḷaṃ paṭinadanti;

於_レ其_レ處_レ， 凡_レ是_レ樹_レ（身_レ）中_レ堅_レ固_レ而_レ結_レ實_レ者_レ， 若_レ被_レ斧_レ背_レ敲_レ打_レ後_レ， 則_レ為_レ堅_レ木_レ之_レ反_レ響_レ；

yāni pana tāni rukkhaṇi antopūtini avassutāni kasambujātāni tāni kuṭhāripāsenā ākoṭitāni daddaraṃ paṭinadanti.

又_レ， 凡_レ樹_レ（身_レ）中_レ由_レ內_レ部_レ已_レ生_レ腐_レ敗_レ而_レ泄_レ漏_レ者_レ， 若_レ被_レ斧_レ背_レ敲_レ打_レ後_レ， 則_レ為_レ騷_レ動_レ之_レ反_レ響_レ。

Tamenaṃ mūle chindati,

立_レ刻_レ！ 切_レ斷_レ樹_レ根_レ；

mūle chinditvā agge chindati,

既_レ切_レ斷_レ樹_レ根_レ已_レ， 又_レ切_レ斷_レ頂_レ端_レ；

agge chinditvā anto suvisodhitaṃ visodheti,

既_レ切_レ斷_レ頂_レ端_レ已_レ， 又_レ完_レ善_レ打_レ掃_レ、 淨_レ化_レ內_レ部_レ；

anto suvisodhitaṃ visodhetvā udapānapanāḷiṃ yojeti.

既_レ完_レ善_レ打_レ掃_レ、 淨_レ化_レ內_レ部_レ已_レ， 又_レ裝_レ上_レ井_レ水_レ管_レ子_レ。

二、 害群之馬

Evamevaṃ kho, bhikkhave, idhekaccassa puggalassa

諸_レ如_レ此_レ類_カ， 諸_レ比_レ丘_ク！ 此_レ處_ニ有_レ一_レ類_カ之_レ人_ノ，

tādisaṃyeva hoti

正_ニ當_ク（ 害_レ群_ノ之_レ馬_ノ） 如_レ此_レ抑_レ制_セ之_レ時_ノ，

abhikkantaṃ paṭikkantaṃ

已_レ前_ニ進_ム、 已_レ返_リ回_ル，

ālokitaṃ vilokitaṃ

已_レ前_ニ視_ブ、 已_レ後_ニ視_ブ，

samiñjitaṃ pasāritaṃ

已_レ彎_ク曲_ム、 已_レ伸_リ直_ス，

saṅghāṭipattacivaradhāraṇaṃ，

著_セ僧_ノ伽_レ梨_カ及_ヒ鉢_ノ衣_一；

seyyathāpi aññesaṃ bhaddakānaṃ bhikkhūnaṃ –

亦_レ類_カ似_ム其_ノ他_ノ真_ニ好_ム之_レ比_レ丘_ク。

yāvassa bhikkhū āpattiṃ na passanti.

直_ニ到_ク（ 其_ノ他_ノ） 比_レ丘_ク未_レ曾_レ發_シ現_ス其_ノ罪_ノ過_セ之_レ前_ニ。

Yato ca khvassa bhikkhū āpattiṃ passanti,

以_レ後_ニ， 若_シ（ 其_ノ他_ノ） 比_レ丘_ク確_ク實_ク曾_レ發_シ現_ス其_ノ罪_ノ過_セ之_レ時_ノ，

tamevaṃ evaṃ jānanti –

立_テ刻_シ！ 當_ク眾_ノ人_ノ如_レ此_レ知_シ道_ノ時_ノ——

‘samaṇadūsivāyaṃ samaṇapālāpo samaṇakāraṇḍavo’ti.

（ 說_セ此_レ類_カ人_ノ） 『 如_レ同_ク——沙_レ門_ノ之_レ污_レ染_ノ敗_レ壞_ノ、
沙_レ門_ノ之_レ無_レ益_ノ穀_ノ殼_ノ、 沙_レ門_ノ之_レ穀_ノ皮_ノ渣_ノ滓_ノ。 』

Tamenam̐ iti vīditvā bahiddhā nāsentī.

當^カ（眾^ム人^ノ）如^ヨ此^カ知^ス道^ノ之^{トキ}時^ニ，則^{シテ}使^ス驅^ク擯^ク於^テ
（僧^ノ團^ノ）之^{トキ}外^ニ。

Tam̐ kissa hetu?

其^ノ何^ニ以^テ故^ニ耶^ニ？

Mā aññe bhaddake bhikkhū dūsesī'ti.

勿^ク令^カ污^ク染^ス其^ノ他^ノ真^ニ好^ク比^ク丘^ノ之^{トキ}故^ニ也^ニ！」

卍 卍 卍

第三章 ☆ 總結

一、 觀察良莠

“Saṃvāsāyaṃ vijānātha,

(世尊偈語)

「 僧眾共住應知人——

pāpiccho kodhano iti;

猶如惡欲易憤怒；

Makkhī thambhī paḷāsī ca,

偽善憍慢懷惡意，

issukī maccharī saṭho.

嫉妒吝嗇又狡詐。

二、 僻處穢行

“Santavāco janavati,

對人冷靜柔和語，

samaṇo viya bhāsati;

一如沙門作言語；

Raho karoti karaṇaṃ,

專於僻處行穢行，

pāpadiṭṭhi anādaro.

惡心邪見不恭敬。

三、 棄絕妄語

“Saṃsappī ca musāvādī,

猶如蛇行說妄語，

taṃ veditvā yathātatham;

根_ク據_ト實_ヲ情_ク既_ト知_ト彼_ヲ；

Sabbe samaggā hutvāna,

一_ニ切_ク僧_ト團_ト和_セ合_セ已_ニ——

abhinibbajjayātha [abhinibbijjayetha (ka.)] naṃ.

應_ト當_カ全_ク面_ヲ棄_ク絕_ト彼_ヲ！

四、 憍慢沙門

“Kāraṇḍavam [karaṇḍavam (ka.) su. ni. 283 passitabbaṃ] niddhamatha,

請_ク擯_ト出_ト沙_ヲ門_ヲ渣_ト滓_ト，

kasambuṃ apakassatha [avakassatha (ka.)];

請_ク除_ト掉_ト沙_ヲ門_ヲ腐_ト敗_ト；

Tato palāpe vāhetha,

由_テ此_ガ導_ク向_ト無_ク利_カ益_ニ——

assamaṇe samaṇamānīne.

憍_ト慢_ト沙_ヲ門_ヲ非_ト沙_ヲ門_ヲ。

五、 滅盡苦邊

“Niddhamitvāna pāpicche,

擯_ト出_ト邪_ト惡_ト之_ト意_ト圖_ト——

pāpaācāragocare;

包_ク藏_ト禍_ト心_ト之_ト行_ト境_ト；

Suddhāsuddhehi saṃvāsaṃ,

依_テ淨_ト者_ト住_ト而_ル清_ク淨_ト，

kappayavho patissatā;

直_ト到_ト意_ト念_ト實_ト清_ク淨_ト；

Tato samaggā nipakā,

由_レ此_ヲ賢_ト智_ト合_セ和_セ僧_ト,

dukkhassantaṃ karissathā'ti.

滅_セ苦_ト邊_ト際_ト當_レ成_ス辦_ス！ 」

dasamaṃ;

沙門之莠經 ～慈品・第十經終

～《增支部經典・八集・初五十經篇・慈品・*Kāraṇḍavasutta* 沙門之莠經》(AN 8.10)

Mettāvaggo paṭhamo.

慈品 ～初五十經篇・第一品終

Tassuddānaṃ –

此品（十經）攝頌曰：

Mettaṃ paññā ca dve piyā,

（一）慈心八德經、（二）慧得八緣，
（三）八不敬愛之一、（四）八不敬愛之二；

dve lokā dve vipattiyo;

（五）八世間法之一、（六）八世間法之二；

Devadatto ca uttaro,

（七）提婆達多、（八）具壽鬱多羅，

nando kāraṇḍavena cāti.

（九）難陀、（十）沙門之莠。



第十品 ☆ 有愛經

Taṇhāsutta (AN 10.62)

【巴利佛經】

2. *Ḍṭaṇhāsuttaṃ*

《有愛經》

☆ 輪迴的因緣 ⇒

- ① 親近惡知識——結交不正直人士；
- ② 聽聞惡法——迷信不道德的偏見；
- ③ 不信——對於佛法僧戒心存懷疑；
- ④ 不如理作意——不正確注意五蓋；
- ⑤ 失念不觀照——對四念住不正知；
- ⑥ 不防護根門——不清淨守護六根；
- ⑦ 三惡行——造作身、語、意惡業；
- ⑧ 五蓋——被五蓋煩惱障礙了智慧；
- ⑨ 無明——不以其智慧洞察四聖諦；
- ⑩ 有愛——渴望再生導致輪迴轉世。

☆ 涅槃的道跡 ⇒

- ① 親近善知識——結交有道德人士；
- ② 聽聞正法——信受佛陀真實教導；
- ③ 有信仰——對於佛法僧戒有信心；
- ④ 如理作意——澈底內觀去除五蓋；
- ⑤ 注意觀照——對四念住正念正知；
- ⑥ 防護根門——清淨守護六根津儀；
- ⑦ 三善行——具足身、語、意功德；
- ⑧ 四念住——由身語意成就四念住；
- ⑨ 七菩提分——依戒定慧覺行圓滿；
- ⑩ 明與解脫——導致涅槃不再流轉。

第一章 ☆ 輪迴本際

62. "Purimā, bhikkhave, koṭi na paññāyati bhavataṇhāya –

(爾時，世尊說：)

「諸比丘！由於『有愛——渴望再生導致輪迴轉世』之本際，不以智慧了知者（，彼邪思惟）：

'īto pubbe bhavataṇhā nāhosi, atha pacchā samabhavī'ti.

『從此之前，曾不存在「有愛」；更於從此之後，隨即自己變成「有愛」！』

Evañcetam, bhikkhave, vuccati,

如此，諸比丘！僅僅可被他欺騙言說。

atha ca pana paññāyati –

與其相反，以智慧了知者（，彼正思惟）：

'idappaccayā bhavataṇhā'ti.

『此是「有愛」之緣所依——必要條件！』

卍 卍 卍

第二章 ☆ 近惡知識

第一節 ♡ 有愛之因

一、無明緣愛

“Bhavataṇhāpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『「有愛」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro bhavataṇhāya?

然而，『有愛』經何者食物之滋養，所以導致輪迴轉世耶？

‘Avijjā’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『無明（——對於「四聖諦」苦、集、滅、道，不以其智慧徹知）！』

二、五蓋緣痴

Avijjampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『「無明」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro avijjāya?

然而，『無明』經何者食物之滋養（，所以導致有愛）耶？

‘Pañca nīvaraṇā’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『五蓋（——愛欲蓋、瞋恚蓋、惛眠蓋、掉悔蓋、疑惑蓋）！』

三、 惡行緣蓋

Pañca nīvaraṇepāhaṃ, bhikkhave, sāhāre vadāmi, no anāhāre.

復次，諸比丘！我必須說：『「五蓋」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro pañcannaṃ nīvaraṇānaṃ?

然而，『五蓋』經何者食物之滋養（，所以導致無明）耶？

‘Tīṇi duccharitānī’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『三惡行（——身惡行、語惡行、意惡行）！』

四、 不護緣惡

Tiṇipāhaṃ, bhikkhave, duccharitāni sāhārāni vadāmi, no anāhārāni.

復次，諸比丘！我必須說：『「三惡行」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro tiṇṇannaṃ duccharitānaṃ?

然而，『三惡行』經何者食物之滋養（，所以導致五蓋）耶？

‘Indriyaasaṃvaro’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『不防護根門（——不守護根門之清淨律儀）！』

五、 邪緣不護

Indriyaasaṃvarampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『「不防護根門」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro indriyaasaṃvarassa?

然^ル而^ル， 『不^ク防^テ護^テ根^ノ門^ヲ』 經^ハ何^レ者^キ食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ
(， 所^レ以^テ導^キ致^ス三^ト惡^キ行^ヲ) 耶^ニ？

'Asatāsampajaññaṃ'tissa vacaniyaṃ.

當^ニ回^シ答^フ彼^ノ： 『失^テ念^ヲ不^ク觀^テ照^ス (——對^シ於^テ「四^ノ念^ヲ住^ス」身^ヲ、受^ヲ、心^ヲ、法^ヲ、不^ク正^シ念^ヲ正^シ知^ス) ！ 』

六、 非理緣邪

Asatāsampajaññaṃpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復^シ次^ニ， 諸^レ比^丘！ 我^ニ必^ズ須^ク說^ス： 『「失^テ念^ヲ不^ク觀^テ照^ス」有^テ食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ， 並^ニ非^ズ無^ク食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ！ 』

Ko cāhāro asatā sampajaññaṃsa?

然^ル而^ル， 『失^テ念^ヲ不^ク觀^テ照^ス』 經^ハ何^レ者^キ食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ
(， 所^レ以^テ導^キ致^ス不^ク防^テ護^テ根^ノ門^ヲ) 耶^ニ？

'Ayonisomanasikāro'tissa vacaniyaṃ.

當^ニ回^シ答^フ彼^ノ： 『不^ク如^ク理^カ作^テ意^ヲ (——對^シ於^テ「五^ノ蓋^ヲ」， 既^ニ不^ク合^シ適^シ， 又^ニ欠^ク思^ム考^ム地^カ關^テ注^ス) ！ 』

七、 疑緣非理

Ayonisomanasikāraṃpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復^シ次^ニ， 諸^レ比^丘！ 我^ニ必^ズ須^ク說^ス： 『「不^ク如^ク理^カ作^テ意^ヲ」有^テ食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ， 並^ニ非^ズ無^ク食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ！ 』

Ko cāhāro ayonisomanasikāraṃsa?

然^ル而^ル， 『不^ク如^ク理^カ作^テ意^ヲ』 經^ハ何^レ者^キ食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^フ
(， 所^レ以^テ導^キ致^ス失^テ念^ヲ不^ク觀^テ照^ス) 耶^ニ？

'Assaddhiyan'tissa vacanīyaṃ.

當^カ回^ク答^ク彼^ク： 『不^ク信^ト（——對^ク於^ク「四^ム預^ム流^カ分^カ」親^ク近^ク善^ク士^ノ、聽^ク聞^ク正^ク法^ノ、如^ク理^ク作^ク意^ノ、法^ノ隨^ク法^ノ行^ト，心^ト存^ク懷^ク疑^ト）！』

八、邪見緣疑

Assaddhiyampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復^ク次^チ，諸^ク比^ク丘^ノ！我^ク必^ク須^ク說^ク：『「不^ク信^ト」有^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト，並^ク非^ク無^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト！』

Ko cāhāro assaddhiyassa?

然^ル而^ル，『不^ク信^ト』經^ク何^ク者^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト（，所^ク以^ク導^ク致^ク不^ク如^ク理^ク作^ク意^ト）耶^セ？

'Assaddhammassavanan'tissa vacanīyaṃ.

當^カ回^ク答^ク彼^ク： 『聽^ク聞^ク惡^ク法^ノ（——因^ク信^ト無^ク道^ノ德^ノ觀^ク念^ク之^ク言^ク論^カ，受^ク其^ク迷^ク惑^ト）！』

九、師緣邪見

Assaddhammassavanampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復^ク次^チ，諸^ク比^ク丘^ノ！我^ク必^ク須^ク說^ク：『「聽^ク聞^ク惡^ク法^ノ」有^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト，並^ク非^ク無^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト！』

Ko cāhāro assaddhammassavanassa?

然^ル而^ル，『聽^ク聞^ク惡^ク法^ノ』經^ク何^ク者^ク食^ノ物^ノ之^ク滋^ク養^ト（，所^ク以^ク導^ク致^ク不^ク信^ト）耶^セ？

'Asappurisasamsevo'tissa vacanīyaṃ.

當^カ回^ク答^ク彼^ク： 『親^ク近^ク惡^ク知^ク識^ノ（——結^ク交^ク背^ク離^ク倫^ク理^ク道^ノ德^ノ之^ク不^ク正^ク人^ノ士^ノ）！』

第二節 邪師惡友

“Iti kho, bhikkhave,

諸比丘！正是如此——

一、師緣邪見

asappurisasamsevo paripūro assaddhammassavanam paripūreti,

(如果) 實踐『親近惡知識』 完成以後，
則使『聽聞惡法』 圓滿；

二、邪見緣疑

assaddhammassavanam paripūram assaddhiyam paripūreti,

(如果) 實踐『聽聞惡法』 完成以後，則使
『不信』 圓滿；

三、疑緣非理

assaddhiyam paripūram ayonisomanasikāram paripūreti,

(如果) 實踐『不信』 完成以後，則使
『不如理作意』 圓滿；

四、非理緣邪

ayonisomanasikāro paripūro asatāsampajaññam paripūreti,

(如果) 實踐『不如理作意』 完成以後，
則使『失念不觀照』 圓滿；

五、邪緣不護

asatāsampajaññam paripūram indriyaasamvaram paripūreti,

(如果) 實踐『失念不觀照』 完成以後，
則使『不防護根門』 圓滿；

六、不護緣惡

indriyaasaṃvaro paripūro tīṇi duccharitāni paripūreti,

(如^果) 實^踐『不^防護^根門』 完^成以^後，
則^使『三^惡行』 圓^滿；

七、惡行緣蓋

tīṇi duccharitāni paripūrāni pañca nīvaraṇe paripūrenti,

(如^果) 實^踐『三^惡行』 完^成以^後， 則^使
『五^蓋』 圓^滿；

八、五蓋緣痴

pañca nīvaraṇā paripūrā avijjaṃ paripūrenti,

(如^果) 實^踐『五^蓋』 完^成以^後， 則^使
『無^明』 圓^滿；

九、無明緣愛

avijjā paripūrā bhavataṇhaṃ paripūreti;

(如^果) 實^踐『無^明』 完^成以^後， 則^使
『有^愛』 圓^滿；

十、有愛因食

evametissā bhavataṇhāya āhāro hoti, evañca pāripūri.

諸^如此^類， 由^於存^在食^物之^滋養[，] 因^此
『有^愛——渴^望再^生導^致輪^迴轉^世』 跟^著發^生。

第三節 惡貫滿盈

“Seyyathāpi, bhikkhave, uparipabbate thullaphusitake deve vassante

猶如，諸比丘！從山上天降傾盆大雨之時——

taṃ udakaṃ yathāninaṃ pavattamānaṃ pabbatakandarapadarasākhā paripūreti,

其水如果先將低窪地區滿溢以後，才使山巖、溪澗成滿；

pabbatakandarapadarasākhā paripūrā kusobbhe paripūrenti,

先將山巖、溪澗滿溢以後，才使小池塘成滿；

kusobbhā paripūrā mahāsoobbhe paripūrenti,

先將小池塘滿溢以後，才使大池塘成滿；

mahāsoobbhā paripūrā kunnadiyo paripūrenti,

先將大池塘滿溢以後，才使小河成滿；

kunnadiyo paripūrā mahānadiyo paripūrenti,

先將小河成滿以後，才使大河成滿；

mahānadiyo paripūrā mahāsamuddaṃ sāgaraṃ paripūrenti;

先將大河成滿以後，才使大海洋成滿；

evametassa mahāsamuddassa sāgarassa āhāro hoti, evañca pāripūri.

諸如此類，由於存在大海洋食物之滋養，因此大海洋跟著出現。

“Evamevaṃ kho, bhikkhave,

諸比丘！正是如此——

一、 師緣邪見

asappurisasamṣevo paripūro assaddhammassavanaṃ paripūreti,
(如^果) 實^踐 『親^近惡^知識^識』 完^成以^後,
則^使 『聽^聞惡^法』 圓^滿;

二、 邪見緣疑

assaddhammassavanaṃ paripūraṃ assaddhiyaṃ paripūreti,
(如^果) 實^踐 『聽^聞惡^法』 完^成以^後, 則^使
『不^信』 圓^滿;

三、 疑緣非理

assaddhiyaṃ paripūraṃ ayonisomanasikāraṃ paripūreti,
(如^果) 實^踐 『不^信』 完^成以^後, 則^使
『不^如理^作意^意』 圓^滿;

四、 非理緣邪

ayonisomanasikāro paripūro asatāsampajaññaṃ paripūreti,
(如^果) 實^踐 『不^如理^作意^意』 完^成以^後,
則^使 『失^念不^觀照^照』 圓^滿;

五、 邪緣不護

asatāsampajaññaṃ paripūraṃ indriyaasaṃvaraṃ paripūreti,
(如^果) 實^踐 『失^念不^觀照^照』 完^成以^後,
則^使 『不^防護^根門^門』 圓^滿;

六、不護緣惡

indriyaasaṃvaro paripūro tiṇi duccharitāni paripūreti,

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ム『不^ク防^グ護^ス根^ノ門^ヲ』 完^ル成^ス以^テ後^ニ,
則^チ使^フ『三^ノ惡^ヲ行^フ』 圓^ク滿^ス;

七、惡行緣蓋

tiṇi duccharitāni paripūrāni pañca nīvaraṇe paripūrenti,

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ム『三^ノ惡^ヲ行^フ』 完^ル成^ス以^テ後^ニ, 則^チ使^フ
『五^ノ蓋^ヲ』 圓^ク滿^ス;

八、五蓋緣痴

pañca nīvaraṇā paripūrā avijjaṃ paripūrenti,

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ム『五^ノ蓋^ヲ』 完^ル成^ス以^テ後^ニ, 則^チ使^フ
『無^ク明^ク』 圓^ク滿^ス;

九、無明緣愛

avijjā paripūrā bhavataṇhaṃ paripūreti;

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ム『無^ク明^ク』 完^ル成^ス以^テ後^ニ, 則^チ使^フ
『有^ク愛^ヲ』 圓^ク滿^ス;

十、有愛因食

evametissā bhavataṇhāya āhāro hoti, evañca pāripūri.

諸^レ如^ク此^ノ類^ノ, 由^テ於^テ存^在食^ノ物^ノ之^ヲ滋^養, 因^テ此^ノ
『有^ク愛^ヲ——渴^ク望^ク再^生導^致輪^迴轉^世』 跟^テ著^キ發^生。

卍 卍 卍

第三章 ☆ 近善知識

第一節 ♡ 有明之因

一、覺支緣悟

“Vijjāvimuttimpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『（漏盡）明與（慧）解脫』有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro vijjāvimuttiyā?

然而，『（漏盡）明與（慧）解脫』經何者食物之滋養（，所以導致離開輪迴轉世）耶？

‘Satta bojjhaṅgā’tissa vacaniyaṃ.

當回答彼：『七菩提分（——念菩提分、擇法菩提分、精進菩提分、喜菩提分、輕安菩提分、定菩提分、捨菩提分）！』

二、念住緣覺

Sattapāhaṃ, bhikkhave, bojjhaṅge sāhāre vadāmi, no anāhāre.

復次，諸比丘！我必須說：『七菩提分』有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro sattannaṃ bojjhaṅgānaṃ?

然而，『七菩提分』經何者食物之滋養（，所以導致漏盡明與慧解脫）耶？

‘Cattāro satipaṭṭhānā’tissa vacanīyaṃ.

當^ク回^ス答^ク彼^ク： 『 四^ム念^ヲ住^ス（ ——身^ヲ念^ヲ住^ス、 受^ヲ念^ヲ住^ス、 心^ヲ念^ヲ住^ス、 法^ヲ念^ヲ住^ス） ！ 』

三、 善行緣念

Cattāropāhaṃ, bhikkhave, satipaṭṭhāne sāhāre vadāmi, no anāhāre.

復^ク次^チ， 諸^ク比^ク丘^ク！ 我^ク必^ク須^ク說^ク： 『 「 四^ム念^ヲ住^ス」 有^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス， 並^ク非^ク無^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス！ 』

Ko cāhāro catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ?

然^ル而^ル， 『 四^ム念^ヲ住^ス』 經^ハ何^レ者^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス（ ， 所^ク以^テ導^キ致^ス圓^ヲ滿^ヲ七^ノ菩^ト提^ヲ分^ヲ） 耶^セ？

‘Tīṇi sucaritāni’tissa vacanīyaṃ.

當^ク回^ス答^ク彼^ク： 『 三^ム善^ヲ行^ス（ ——身^ヲ善^ヲ行^ス、 語^ヲ善^ヲ行^ス、 意^ヲ善^ヲ行^ス） ！ 』

四、 護根緣善

Tīṇipāhaṃ, bhikkhave, sucaritāni sāhārāni vadāmi, no anāhārāni.

復^ク次^チ， 諸^ク比^ク丘^ク！ 我^ク必^ク須^ク說^ク： 『 「 三^ム善^ヲ行^ス」 有^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス， 並^ク非^ク無^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス！ 』

Ko cāhāro tiṇṇannaṃ sucaritānaṃ?

然^ル而^ル， 『 三^ム善^ヲ行^ス』 經^ハ何^レ者^ク食^ヲ物^ノ之^ニ滋^ヲ養^ス（ ， 所^ク以^テ導^キ致^ス圓^ヲ滿^ヲ四^ノ念^ヲ住^ス） 耶^セ？

‘Indriyaṣaṃvaro’tissa vacanīyaṃ.

當^ク回^ス答^ク彼^ク： 『 防^ク護^ク根^ノ門^ヲ（ ——守^ク護^ク根^ノ門^ノ之^ニ清^ク淨^ク律^ヲ儀^ヲ） ！ 』

五、正念緣護

Indriyaṣaṃvarampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『防護根門』有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro indriyaṣaṃvarassa?

然而，『防護根門』經何者食物之滋養（，所以導致三善行）耶？

'Satisampajaññaṃ'tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『注意觀照（——對於「四念住」身、受、心、法，正念正知）！』

六、理緣正念

Satisampajaññaṃpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『注意觀照』有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro satisampajaññaṃ'ssa?

然而，『注意觀照』經何者食物之滋養（，所以導致防護根門）耶？

'Yonisomanasikāro'tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『如理作意（——對於「五蓋」，由完整徹底、明智審慎地內觀而捨離）！』

七、 信緣如理

Yonisomanasikāraṃpāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『「如理作意」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro yonisomanasikāraṃsa?

然而，『如理作意』經何者食物之滋養（，所以導致注意觀照）耶？

‘Saddhā’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『有信仰（——對於「四預流分」親近善士、聽聞正法、如理作意、法隨法行，熱忱淨信）！』

八、 正見緣信

Saddhampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必須說：『「有信仰」有食物之滋養，並非無食物之滋養！』

Ko cāhāro saddhāya?

然而，『有信仰』經何者食物之滋養（，所以導致如理作意）耶？

‘Saddhammassavanan’tissa vacanīyaṃ.

當回答彼：『聽聞正法（——對於佛陀真實之教導，歡喜聽受）！』

九、師緣正見

Saddhammassavanampāhaṃ, bhikkhave, sāhāraṃ vadāmi, no anāhāraṃ.

復次，諸比丘！我必_レ須_レ說_レ：『「聽聞正法」有_レ食_レ物_レ之_レ滋_レ養，並_レ非_レ無_レ食_レ物_レ之_レ滋_レ養！』

Ko cāhāro saddhammassavanassa?

然_レ而_レ，『聽聞正法』經何_レ者_レ食_レ物_レ之_レ滋_レ養（，所_レ以_レ導_レ致_レ有_レ信_レ仰）耶？

'Sappurisasamsevo'tissa vacanīyaṃ.

當_レ回_レ答_レ彼_レ：『親_レ近_レ善_レ知_レ識_レ（——結_レ交_レ具_レ備_レ倫_レ理_レ道_レ德_レ之_レ正_レ直_レ人_レ士_レ）！』

第二節 良師益友

一、師緣正見

"Iti kho, bhikkhave,

諸比丘！正_レ是_レ如_レ此_レ——

sappurisasamsevo paripūro saddhammassavanam paripūreti,

（如_レ果_レ）實_レ踐_レ『親_レ近_レ善_レ知_レ識_レ』完_レ成_レ以_レ後_レ，則_レ使_レ『聽_レ聞_レ正_レ法_レ』圓_レ滿_レ；

二、正見緣信

saddhammassavanam paripūram saddham paripūreti,

（如_レ果_レ）實_レ踐_レ『聽_レ聞_レ正_レ法_レ』完_レ成_レ以_レ後_レ，則_レ使_レ『有_レ信_レ仰』圓_レ滿_レ；

三、 信緣如理

saddhā paripūrā yonisomanasikāraṃ paripūreti,

(如_母果_子) 實_尸踐_尸 『有_文信_上仰_无』 完_多成_上以_一後_反， 則_世使_尸 『如_母理_九作_上意_一』 圓_母滿_母；

四、 理緣正念

yonisomanasikāro paripūro satisampajaññaṃ paripūreti,

(如_母果_子) 實_尸踐_尸 『如_母理_九作_上意_一』 完_多成_上以_一後_反， 則_世使_尸 『注_上意_一觀_上照_上』 圓_母滿_母；

五、 正念緣護

satisampajaññaṃ paripūraṃ indriyaśamvaraṃ paripūreti,

(如_母果_子) 實_尸踐_尸 『注_上意_一觀_上照_上』 完_多成_上以_一後_反， 則_世使_尸 『防_上護_上根_上門_上』 圓_母滿_母；

六、 護根緣善

indriyaśamvaro paripūro tīṇi sucaritāni paripūreti,

(如_母果_子) 實_尸踐_尸 『防_上護_上根_上門_上』 完_多成_上以_一後_反， 則_世使_尸 『三_上善_上行_上』 圓_母滿_母；

七、 善行緣念

tīṇi sucaritāni paripūrāni cattāro satipaṭṭhāne paripūrenti,

(如_母果_子) 實_尸踐_尸 『三_上善_上行_上』 完_多成_上以_一後_反， 則_世使_尸 『四_上念_上住_上』 圓_母滿_母；

八、念住緣覺

cattāro satipaṭṭhānā paripūrā satta bojjhaṅge paripūrenti,

(如_母果_父) 實_尸踐_母 『四_母念_父住_母』 完_母成_父以_母後_父， 則_母使_父
『七_母菩_父提_母分_父』 圓_母滿_父；

九、覺支緣悟

satta bojjhaṅgā paripūrā vijjāvimuttiṃ paripūrenti;

(如_母果_父) 實_尸踐_母 『七_母菩_父提_母分_父』 完_母成_父以_母後_父， 則_母使_父
『(漏_母盡_父) 明_母與_父 (慧_母) 解_母脫_父』 圓_母滿_父；

十、有明因食

evametissā vijjāvimuttiyā āhāro hoti, evañca pāripūri.

諸_母如_母此_母類_父， 由_母於_母存_母在_母食_母物_父之_母滋_母養_父， 因_母此_母
『(漏_母盡_父) 明_母與_父 (慧_母) 解_母脫_父 (——導_母致_母涅_母槃_父
不_母再_母流_母轉_父) 』 跟_母著_母實_母踐_母。

第三節 滿功德海

“Seyyathāpi, bhikkhave, uparipabbate thullaphusitake deve vassante

猶_母如_母， 諸_母比_母丘_父！ 從_母山_母上_母天_母降_母傾_母盆_母大_母雨_母之_母時_母——

taṃ udakaṃ yathāninnaṃ pavattamānaṃ...pe...

其_母水_母如_母果_父先_母將_母低_母窪_母地_母區_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母山_母
巖_母、 溪_母澗_母成_母滿_母；

- 先_母將_母山_母巖_母、 溪_母澗_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母小_母池_母塘_母成_母滿_母；
- 先_母將_母小_母池_母塘_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母大_母池_母塘_母成_母滿_母；
- 先_母將_母大_母池_母塘_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母小_母河_母川_母成_母滿_母；
- 先_母將_母小_母河_母川_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母大_母河_母川_母成_母滿_母；
- 先_母將_母大_母河_母川_母滿_母溢_母以_母後_父， 才_母使_母大_母海_母洋_母成_母滿_母；

evametassa mahāsamuddassa sāgarassa āhāro hoti, evañca pāripūri.

諸如^レ此^カ類^カ，由^レ於^レ存^ス在^ス大^カ海^ノ食^フ物^ノ之^レ滋^ヤ養^ス，因^レ此^カ大^カ海^ノ洋^ノ跟^ス著^シ出^ス現^ス。

Evamevaṃ kho, bhikkhave,

諸^レ比^レ丘^ノ！正^シ是^レ如^レ此^カ——

一、師緣正見

sappurisasamsevo paripūro saddhammassavanaṃ paripūreti

(如^レ果^ク) 實^ス踐^ス『親^ク近^ク善^ク知^ス識^ス』完^シ成^ス以^テ後^ニ，則^シ使^ス『聽^ク聞^ク正^シ法^ヲ』圓^シ滿^ス；

二、正見緣信

...pe...

(如^レ果^ク) 實^ス踐^ス『聽^ク聞^ク正^シ法^ヲ』完^シ成^ス以^テ後^ニ，則^シ使^ス『有^シ信^ヲ仰^ス』圓^シ滿^ス；

三、信緣如理

(如^レ果^ク) 實^ス踐^ス『有^シ信^ヲ仰^ス』完^シ成^ス以^テ後^ニ，則^シ使^ス『如^シ理^カ作^シ意^ヲ』圓^シ滿^ス；

四、理緣正念

(如^レ果^ク) 實^ス踐^ス『如^シ理^カ作^シ意^ヲ』完^シ成^ス以^テ後^ニ，則^シ使^ス『注^シ意^ヲ觀^ス照^ス』圓^シ滿^ス；

五、正念緣護

(如^レ果^ク) 實^ス踐^ス『注^シ意^ヲ觀^ス照^ス』完^シ成^ス以^テ後^ニ，則^シ使^ス『防^シ護^ス根^ノ門^ヲ』圓^シ滿^ス；

六、 護根緣善

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ク『防^ル護^ク根^ノ門^ヲ』完^ル成^ク以^テ後^ニ，則^チ使^ス『三^ノ善^ヲ行^ク』圓^ク滿^ク；

七、 善行緣念

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ク『三^ノ善^ヲ行^ク』完^ル成^ク以^テ後^ニ，則^チ使^ス『四^ノ念^ヲ住^ス』圓^ク滿^ク；

八、 念住緣覺

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ク『四^ノ念^ヲ住^ス』完^ル成^ク以^テ後^ニ，則^チ使^ス『七^ノ菩^ト提^ヲ分^ク』圓^ク滿^ク；

九、 覺支緣悟

(如^レ果^ク) 實^ル踐^ク『七^ノ菩^ト提^ヲ分^ク』完^ル成^ク以^テ後^ニ，則^チ使^ス『(漏^カ盡^ハ) 明^ヲ與^フ(慧^ク) 解^ク脫^ス』圓^ク滿^ク；

十、 有明因食

evametissā vijjāvimuttiyā āhāro hoti, evañca pāripūri^ṅti.

諸^ク如^ク此^ノ類^ノ，由^テ於^テ存^ス在^ス食^ノ物^ノ之^レ滋^ヲ養^ス，因^テ此^ノ『(漏^カ盡^ハ) 明^ヲ與^フ(慧^ク) 解^ク脫^ス(——導^カ致^ス涅^ヲ槃^ス不^レ再^レ流^ス轉^ス)』跟^テ著^シ實^ル踐^ク。」

Dutiyam.

有愛經 ～雙品・第二經終

～《增支部經典・十集・五十經篇之二・雙品・Tanhāsutta 有愛經》(AN 10.62)



第十一品 ☆ 鴉十法經

Kākasutta (AN 10.77)

【巴利佛經】

7. *Kākasuttam*

《鴉十法經》

第一章 ☆ 烏鴉十法

77. "Dasahi, bhikkhave, asaddhammehi samannāgato kāko.

「諸比丘！由於十邪法而變成烏鴉。」

Katamehi dasahi?

以何為十（邪法）耶？

① Dhamṣī ca, ② pagabbho ca, ③ tintiṇo [nillajjo (ka.) tintiṇoti tintiṇaṃ vuccati taṇhā... (sī. syā. aṭṭha.) abhidhamme khuddakavatthuvibhaṅge tintiṇapadaniddese passitabbaṃ] ca, ④ mahagghaso ca, ⑤ luddo ca, ⑥ akāruṇiko ca, ⑦ dubbalo ca, ⑧ oravitā ca, ⑨ mutṭhassati ca, ⑩ necayiko [nerasiko (sī.) tadaṭṭhakathāyaṃ pana "necayiko" tveva dissati] ca –

即：① 厚顏無恥（無遠慮）；② 傲慢（膽大妄為）；③ 貪欲（不知羞恥）；④ 暴飲暴食（多吃）；⑤ 兇殘；⑥ 無憐憫；⑦ 力弱（愚弱）；⑧ 聒噪；⑨ 失念；⑩ 覆藏（偽善、蓄藏）也。

imehi kho, bhikkhave, dasahi asaddhammehi samannāgato kāko.

諸比丘！由此十邪法而變成烏鴉。

卍 卍 卍

第二章 ☆ 惡比丘十法

Evamevaṃ kho, bhikkhave, dasahi asaddhammehi samannāgato pāpabhikkhu.

諸如^レ此^レ類^カ， 諸^レ比^ク丘^ク！ 由^レ此^ガ十^ノ邪^ノ法^ニ而^ル變^ク成^シ惡^セ比^ク丘^ク。

Katamehi dasahi?

以^テ何^ニ為^ス十^ノ (邪^ノ法^ニ) 耶^ニ ?

① Dhamṣī ca, ② pagabbho ca, ③ tintiṇo ca, ④ mahagghaso ca, ⑤ luddo ca, ⑥ akāruṇiko ca, ⑦ dubbalo ca, ⑧ oravitā ca, ⑨ muṭṭhassati ca, ⑩ necayiko ca -

即^レ： ① 厚^ク顏^ヲ無^ク恥^ニ (無^ク遠^ク慮^カ) ； ② 傲^ク慢^ク (膽^カ大^ク妄^ク為^ス) ； ③ 貪^ク欲^ク (不^ク知^シ羞^ニ恥^ニ) ； ④ 暴^ク飲^ク暴^ク食^ク (多^ク吃^ク) ； ⑤ 兇^ク殘^ク； ⑥ 無^ク憐^カ憫^ク； ⑦ 力^カ弱^ク (愚^ク弱^ク) ； ⑧ 聒^ク噪^ク； ⑨ 失^ク念^ク； ⑩ 覆^ク藏^ク (偽^ク善^ク、蓄^ク藏^ク) 也^ニ。

imehi kho, bhikkhave, dasahi asaddhammehi samannāgato pāpabhikkhū”ti.

諸^レ比^ク丘^ク！ 由^レ此^ガ十^ノ邪^ノ法^ニ而^ル變^ク成^シ惡^セ比^ク丘^ク。 」

Sattamaṃ.

鴉十法經 ～願品・第七經終

— 《增支部經典・十集・五十經篇之二・願品・Kākasutta 鴉十法經》 (AN 10.77)



第十二品 ☆ 蛇行法門經

Samsappanīyasutta (AN 10.216)

【巴利佛經】

6. *Samsappanīyasuttam*

《蛇行法門經》

☆ 本經大意 ⇒

佛經顯示，在世尊時代，就有類似馬列邪教——
否定因果真理、喪盡天良、無惡不作的外道。
所有的正信佛教徒，應唾棄階級專政的邪說；
愚人不離蛇行十惡，難逃地獄畜生道的苦果！

☆ 蛇行法門 (*Samsappanīyapariyāyam*) ⇒

白話解釋：巴結奉承、逢迎拍馬、陰險狡詐；
猶如毒蛇，偷偷地向前匍匐爬行的因緣果報。

☆ 有情 (*Sattā*) ⇒

白話解釋：已經執著於有我身見的芸芸衆生。

☆ 靈體 (*Bhūtā*) ⇒

白話解釋：鬼神般超自然的存在體、生命體。
又或譯為：衆生、鬼靈、神靈、生物、萬物。

☆ 二惡趣 ⇒ 也叫做：二惡道。

- ① 地獄道 (*Nirayo*) ；
- ② 畜生道 (*Tiracchānayoṇi*) 。

☆ 二善道 ⇒

- ① 天界 (*Saggā*) ；

② 富貴人家 (*Uccākulāni*) 。

《長部經典·波梨品·第三十三經·合誦經》說示 (八佈施果) ：

☆ 八佈施果 (注生法門) ⇒

① 生大富家、② 生四王天、③ 生忉利天、④ 生夜摩天、⑤ 生兜率天、⑥ 生化樂天、⑦ 生他化自在天、⑧ 生梵身天。

☆ 十惡業道 ⇒ 十惡不赦！

- ① 犯殺生業 (果報：人中短命、多病、二惡趣報) ；
- ② 犯偷盜業 (果報：人中貧窮、破財、二惡趣報) ；
- ③ 犯邪淫業 (果報：人中無妻、不貞、二惡趣報) ；
- ④ 犯妄語業 (果報：人中惡名、受騙、二惡趣報) ；
- ⑤ 犯兩舌業 (果報：人中坐牢、乖離、二惡趣報) ；
- ⑥ 犯惡口業 (果報：人中聾啞、諍訟、二惡趣報) ；
- ⑦ 犯綺語業 (果報：人中諂曲、不實、二惡趣報) ；
- ⑧ 犯貪欲業 (果報：人中嫉妒、不滿、二惡趣報) ；
- ⑨ 犯瞋恚業 (果報：人中怨天、尤人、二惡趣報) ；
- ⑩ 犯邪見業 (果報：人中多疑、不信、二惡趣報) 。

☆ 十善業道 ⇒ 十無學法、聖賢十德！

- ① 離殺生業——正思惟——慈 (果報：人中長壽、健康，天福及證果) ；
- ② 離偷盜業——正精進——義 (果報：人中富貴、圓滿，天福及證果) ；
- ③ 離邪淫業——正見——禮 (果報：人中賢妻、良母，天福及證果) ；
- ④ 離妄語業——正命——信 (果報：人中美名、信譽，天福及證果) ；
- ⑤ 離兩舌業——正語——仁 (果報：人中敦親、睦鄰，天福及證果) ；
- ⑥ 離惡口業——正念——和 (果報：人中心安、理得，天福及證果) ；
- ⑦ 離綺語業——正定——平 (果報：人中正直、誠實，天福及證果) ；
- ⑧ 離貪欲業——正智——廉 (果報：人中謙讓、喜足，天福及證果) ；
- ⑨ 離瞋恚業——正業——愛 (果報：人中仁民、愛物，天福及證果) ；
- ⑩ 離邪見業——正解脫——恥 (果報：人中智慧、淨信，天福及證果) 。

《北傳·因果經》說示（深信因果）：

「善男信女請聽真，聽我誦念因果經。
三世因果非小可，佛言真語莫看輕。
今生做官為何因？三世黃金飾佛身。
前世修來今世受，紫袍金帶皆佛贈。
黃金飾佛飾自己，說蓋如來蓋自身。
莫說做官皆容易，前世不修何處尋。
騎馬坐轎為何因？前世修橋鋪路勤。
福祿俱全為何因？全心全意為眾生。
相貌端莊為何因？採花敬佛一片心。
父母雙全為何因？前世敬重孤獨人。
無父無母為何因？前世凶狠殺飛禽。
養子不成為何因？前世輕女溺女身。
豐衣足食為何因？前世施貧又濟困。
無吃無穿為何因？前世未捨半分文。
今生長命為何因？前世惜物多放生。
今生短命為何因？前世殺人太狠心。
今生無妻為何因？前世劫人妻女淫。
今生守寡為何因？前世輕賤待夫君。
今生瞎眼為何因？故指錯路作弄人。
今生聾啞為何因？前世惡語咒雙親。
今生跛腳為何因？攔路打劫太殘忍。
今生坐牢為何因？前世誣害善良人。
今生為何無好報？前世負義又忘恩。
萬般自作還自受，今生受苦怨何人？
莫道因果無人見，善惡報應從來真。
千秋功罪難說盡，但願驚動眾生魂。
勸君行善多積德，定能修心成真人。」

《增支部經典·十集·五十經篇之二·長老品·拘迦利謗聖經》說示（十地獄）：

☆ 十寒地獄 ⇒

- ① 膿皰地獄（*Abbuda*）指：瘡皰血污之垢濁，
相當： 100 （年） $\times 20 = 2$ 千滿車芝麻的年數，
又作：頰部陀、阿部曇、阿浮陀、阿菩達；
- ② 皰裂地獄（*Nirabbuda*）指：嚴寒逼身，膿瘡破裂，
相當： $2,000 \times 20 = 4$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：尼刺部陀、尼賴浮陀、尼羅浮陀；
- ③ 波波地獄（*Ababa*）指：寒苦增極，舌不能動，
只在唇間波波作聲，有76個零位的數字名，
相當： $40,000 \times 20 = 80$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：阿波波、阿婆婆、呵婆婆、阿拔拔；
- ④ 吒吒地獄（*Aṭaṭa*）指：因恐怖寒冷緊張等，
牙齒發出顫抖聲，已被燒焦、一個大的數字名，
相當： $800,000 \times 20 = 1,600$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：阿吒吒、頰嘶吒、呵羅羅、阿嗒嗒；
- ⑤ 訶訶地獄（*Ahaha*）指：一個很大的數字名，
冰凍咽喉內，振氣而作聲，唉！悲哀的驚呼！
相當： $16,000,000 \times 20 = 3$ 億2,000萬滿車芝麻的年數，
又作：阿訶訶、阿哈哈、臃臃婆、虎虎婆；
- ⑥ 睡蓮地獄（*Kumuda*）指：極大的數字名，
黃蓮、白睡蓮、皮肉潰爛，猶如睡蓮花，
相當： $320,000,000 \times 20 = 64$ 億滿車芝麻的年數，
又作：白睡蓮地獄、拘物頭、俱物頭、拘物陀；
- ⑦ 香蓮地獄（*Sogandhika*）指：芬芳香氣，
好香蓮花、香睡蓮、皮肉潰爛，猶如香蓮花，
相當： $6,400,000,000 \times 20 = 1,280$ 億滿車芝麻的年數，
又作：青睡蓮地獄、須乾提、搔捷提迦；

⑧ 青蓮地獄 (*Uppalaka*) 指：發聲鳴叫，

罪人全身皆為青瘡、皮膚破裂，猶如青蓮花

相當： $128,000,000,000 \times 20 = 2$ 兆 5,600 億滿車芝麻的年數，

又作：青蓮花地獄、優鉢羅、優鉢地獄、黛花地獄；

⑨ 白蓮地獄 (*Puṇḍarīka*) 指：受罪衆生，

寒苦增極，皮肉脫落，骨頭顏色，猶如白蓮花，

相當： $2,560,000,000,000 \times 20 = 51$ 兆 2,000 億滿車芝麻的年數，

又作：白蓮花地獄、芬陀利地獄；

⑩ 紅蓮地獄 (*Paduma*) 指：一個巨大的數位名，

嚴寒逼迫，身變赤紅，皮膚拆裂，猶如紅蓮花，

相當： $51,200,000,000,000 \times 20 = 1,024$ 兆滿車芝麻的年數，

又作：紅蓮花地獄、波頭摩、鉢頭摩、鉢曇摩。

卍 卍 卍

第一章 ☆ 前言

216. "Saṃsappanīyapariyāyaṃ vo, bhikkhave, dhammapariyāyaṃ desessāmi.

(爾時，世尊說：)

「諸比丘！我要對汝等詳細說明『蛇行法門』之教導。」

Taṃ suṇātha, sādhukaṃ manasi karotha; bhāsissāmi"ti.

應諦聽彼，依善作意而請思惟！我將說明。」

"Evaṃ, bhante"ti

「大德！唯然！」

kho te bhikkhū bhagavato paccassosum.

彼等諸比丘很快地奉答世尊。

Bhagavā etadavoca –

世尊即刻如此宣說：

卍 卍 卍

第二章 ☆ 蛇行十惡

“Katamo ca, bhikkhave, saṃsappanīyapariyāyo dhammapariyāyo?”

「又，諸比丘！何者稱爲『蛇行法門』之教導耶？

Kammassakā, bhikkhave, sattā kammadāyādā kammayonī kammabandhū kammapaṭisaraṇā,
諸比丘！已被『我執』所繫縛之有情，擁
有自己之業、繼承於業、由業所生、業爲
親族、業爲歸處——

yaṃ kammaṃ karonti – kalyāṇaṃ vā pāpakaṃ vā – tassa dāyādā bhavanti.

不論彼造何業——或善、或惡（不可避
免），彼需繼承！

第一節 犯殺生業

“Idha, bhikkhave, ekacco pāṇātipātī hoti

此世界上，諸比丘！有某些（人類）曾犯
殺生——

luddo lohitaṇṇi

殘酷兇暴、雙手血腥；

hatapahate nivitṭho,

心已被執著，專門從事於殺害、征服、襲
擊；

adayāpanno sabbapāṇabhūtesu.

對於一切存活之生命，已毫無慈悲心而陷
入犯戒！

一、 蛇行因緣

So saṃsappati kāyena,

(1) 彼^ウ由^マ於^カ以^テ身^ヲ蛇^ニ行^フ——以^テ自^ラ己^ノ身^ヲ體^ト如^ク蛇^ノ爬^ク行^フ；

saṃsappati vācāya,

(2) 由^マ於^カ以^テ語^ヲ蛇^ニ行^フ——以^テ自^ラ己^ノ言^ヲ語^ヲ如^ク蛇^ノ爬^ク行^フ；

saṃsappati manasā.

(3) 由^マ於^カ以^テ意^ヲ蛇^ニ行^フ——以^テ自^ラ己^ノ意^ヲ圖^ク如^ク蛇^ノ爬^ク行^フ；

Tassa jimhaṃ kāyakammaṃ hoti,

(4) 彼^ウ之^ノ身^ヲ業^セ已^シ變^ク成^シ歪^ク邪^ト——彎^ク曲^ク邪^ト行^フ；

jimhaṃ vacīkammaṃ,

(5) 語^ヲ業^セ已^シ (變^ク成^シ) 歪^ク邪^ト——彎^ク曲^ク邪^ト行^フ；

jimhaṃ manokammaṃ,

(6) 意^ヲ業^セ已^シ (變^ク成^シ) 歪^ク邪^ト——彎^ク曲^ク邪^ト行^フ；

jimhā gati,

(7) 投^ク胎^ヲ已^シ (變^ク成^シ) 歪^ク邪^ト——彎^ク曲^ク邪^ト行^フ；

jimhupapatti.

(8) 轉^ク世^ヲ已^シ (變^ク成^シ) 歪^ク邪^ト——彎^ク曲^ク邪^ト行^フ。

二、 蛇行果報

“Jimhagatikassa kho panāhaṃ, bhikkhave, jimhupapattikassa

的_レ確_ク， 諸_レ比_ク丘_ク！ 我_レ又_レ對_ク於_レ已_レ邪_ク行_ク去_レ投_ク胎_ク、
已_レ邪_ク行_ク而_レ轉_ク世_ク者_ク；

dvinnam gatīnaṃ aññataram gatiṃ vadāmi –

已_レ知_ク所_レ有_ク兩_ク種_ク去_レ處_ク， 我_レ說_ク其_レ中_ク一_ク種_ク去_レ處_ク：

ye vā ekantadukkhā nirayā

毫_レ無_ク懷_ク疑_ク： (1) 彼_レ等_ク若_ク非_ク下_ク到_ク極_ク度_ク痛_ク苦_ク之_レ地_ク
獄_ク；

yā vā saṃsappajātikā tiracchānayoṇi.

(2) 即_レ是_ク投_ク生_ク到_ク任_ク何_ク爬_ク蟲_ク類_ク、 畜_ク生_ク類_ク之_レ子_ク宮_ク
也_ク！

Katamā ca sā, bhikkhave, saṃsappajātikā tiracchānayoṇi?

諸_レ比_ク丘_ク！ 何_レ者_ク稱_ク為_ク『投_ク生_ク爬_ク蟲_ク類_ク、 畜_ク生_ク類_ク
之_レ子_ク宮_ク』 耶_ク？

Ahi vicchikā satapadī nakulā biḷārā mūsikā ulūkā,

(即_レ：) 毒_ク蛇_ク、 蝮_ク子_ク、 蜈_ク蚣_ク、 黃_ク鼠_ク狼_ク、 貓_ク
子_ク、 老_ク鼠_ク、 貓_ク頭_ク鷹_ク；

ye vā panaññepi keci tiracchānayoṇikā sattā manusse disvā saṃsappanti.

以_レ及_ク， 彼_レ等_ク或_ク為_ク已_レ被_ク人_ク所_ク知_ク、 所_ク見_ク， 其_レ他_ク
畜_ク生_ク類_ク、 爬_ク蟲_ク類_ク之_レ有_ク情_ク者_ク。

三、 往生法門

Iti kho, bhikkhave, bhūtā bhūtassa upapatti hoti.

的確，諸比丘！眾生靈體之轉世就像如此——

Yaṃ karoti tena upapajjati.

無論彼造作（何業），隨之而有（輪迴）再

Upapannamenam phassā phusanti.

經再後，令其遭受（償還業報之各種觸境）。

Evamaḥaṃ, bhikkhave, 'kammadāyādā sattā'ti vadāmi.

諸比丘！因此我說：『已被我執所繫縛之有情，繼承於業！』

第二節 犯偷盜業

"Idha pana, bhikkhave, ekacco adinnādāyī hoti...pe...

[Adinnādāyī hoti.

此世界上，諸比丘！又有某些（人類）曾犯拿取未給與者——

Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ gāmagataṃ vā araññaṅgataṃ vā,

任何他人存放之財物，無論是在村落、或放在郊外之阿蘭若；

taṃ adinnaṃ theyyasaṅkhātāṃ ādātā hoti.]

彼對於不被給與（之財物）存在盜心，已造作偷盜之行爲。

- (1) 彼_レ由_レ於_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (2) 由_レ於_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (3) 由_レ於_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ歪_レ邪_レ……。

第三節 犯邪婬業

kāmesumicchācārī hoti...

此_レ世_レ界_レ上_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 又_レ有_レ某_レ些_レ（人_レ類_レ）曾_レ犯_レ婬_レ欲_レ邪_レ行_レ——

[Yā tā māturakkhitā

(1) 彼_レ（或_レ交_レ際_レ）任_レ何_レ已_レ有_レ母_レ親_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

piturakkhitā

(2) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ父_レ親_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

mātāpiturakkhitā

(3) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ雙_レ親_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

bhāturakkhitā

(4) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ兄_レ弟_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

bhaginirakkhitā

(5) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ姊_レ妹_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

ñātirakkhitā

(6) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ親_レ族_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

gottarakkhitā

(7) （或_レ交_レ際_レ）已_レ有_レ種_レ姓_レ監_レ護_レ人_レ（之_レ婦_レ女_レ）；

dhammarakkhitā

(8) (或交際) 已有法定監護人 (之婦女) ；

sasāmikā

(9) (或交際) 已有丈夫所有人 (之婦女) ；

saparidaṇḍā

(10) (或交際) 已被免除杖罰 (受法律特別保護之婦女) ；

antamaso mālāguḷaparikkhittāpi,

(11) 乃至或 (交際) 環繞著華鬘串 (已有婚約之婦女) ；

tathārūpāsu cārittaṃ āpajjitā hoti.]

(12) 當彼交際、訪問以後，已陷入與類似之 (婦女違犯邪淫) 。

(1) 彼由於以身蛇行——以自己身體如蛇爬行；

(2) 由於以言語蛇行——以自己言語如蛇爬行；

(3) 由於以意蛇行——以自己意圖如蛇爬行；

(4) 彼之身業已變成歪邪……。

第四節 ❷ 犯妄語業

musāvādī hoti...

此^チ世^セ界^{カイ}上^ノ， 諸^{シヨ}比^ヒ丘^{キウ}！ 又^{マタ}有^ル某^{ナニ}些^カ（人^{ニン}類^{レイ}） 曾^{ソノ}說^セ謊^{コト}話^{ハナシ}——

[Sabhaggato vā

(1) 或^シ來^キ到^ク會^{カイ}議^ギ廳^{テイ}之^ノ後^ノ；

parisaggato vā

(2) 或^シ來^キ到^ク集^{シユ}會^{カイ}處^{トコロ}之^ノ後^ノ；

ñātimajjhagato vā

(3) 或^シ來^キ到^ク親^{シン}里^リ中^ノ之^ノ後^ノ；

pūgamajjhagato vā

(4) 或^シ來^キ到^ク社^{シャ}團^{ダン}中^ノ之^ノ後^ノ；

rājakulamajjhagato vā

(5) 或^シ來^キ到^ク法^フ廷^{テイ}中^ノ之^ノ後^ノ；

abhinīto sakkhipuṭṭho

當^{トキ}目^メ擊^ツ證^シ人^{ニン}已^ニ被^シ帶^シ來^キ訊^シ問^フ， 說^セ：

'ehambho purisa, yaṃ jānāsi taṃ vadehī'ti,

『來^キ！ 善^ニ男^ヲ子^ニ！ 請^ム講^ス說^セ汝^ノ所^ニ發^ス現^ス之^ノ事^ヲ？』

so ajānaṃ vā āha 'jānāmī'ti,

① 當^{トキ}彼^ノ不^ズ知^ス之^ノ時^ニ， 或^シ說^セ： 『我^ニ知^ス道^ヲ！』

jānaṃ vā āha 'na jānāmī'ti,

② 當^{トキ}彼^ノ知^ス道^ヲ之^ノ時^ニ， 或^シ說^セ： 『我^ニ不^ズ知^ス！』

apassaṃ vā āha 'passāmī'ti,

③ 當^{トキ}彼^ノ未^ダ見^ス之^ノ時^ニ， 或^シ說^セ： 『我^ニ看^ス見^ス！』

passaṃ vā āha `na passāmī'ti,

④ 當彼看見之時，或說：『我未見！』

[iti attahetu vā parahetu vā āmisakiñcikkhahetu vā sampajānamusā bhāsītā hoti.]

如此！或因為自己、或因為他人、或因為些許財物之理由，而存在已故意說謊話。

(1) 彼由於以一身蛇行——以自己身軀如蛇爬行；

(2) 由於以語蛇行——以自己言語如蛇爬行；

(3) 由於以意蛇行——以自己意圖如蛇爬行；

(4) 彼之身業已變成歪邪……。

第五節 犯兩舌業

pisuṇavāco hoti...

此世界上，諸比丘！又有某些（人類）曾犯挑撥離間語——

[Ito sutvā amutra akkhātā imesaṃ bhedāya,

從此處聞已，而後告密於彼處，以製造此處諸人之矛盾；

amutra vā sutvā imesaṃ akkhātā amūsaṃ bhedāya.

或從彼處聞已，而後告密於此處，以製造彼處諸人之矛盾。

Iti samaggānaṃ vā bhettā bhinnānaṃ vā anuppadātā vaggārāmo vaggarato vagganandī,

如此，或為和合團結之破壞者、或為矛盾鬥爭之鼓勵者，熱衷於分化團體、分化團體後而歡喜、因團體爭吵分裂而喜悅；

vaggakaraṇiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.]

曾_レ有_レ作_レ過_レ：發_レ表_レ分_レ化_レ團_レ體_レ之_レ言_レ論_レ。

(1) 彼_レ由_レ於_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(2) 由_レ於_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(3) 由_レ於_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ歪_レ邪_レ……。

第六節 犯惡口業

pharusavāco hoti...

此_レ世_レ界_レ上_レ，諸_レ比_レ丘_レ！又_レ有_レ某_レ些_レ（人_レ類_レ）曾_レ犯_レ粗_レ暴_レ語_レ——

[Yā sā vācā aṇḍakā kakkasā parakaṭukā parābhisajjaniṃ kodhasāmantā.

舉_レ凡_レ自_レ己_レ說_レ過_レ激_レ烈_レ、粗_レ暴_レ之_レ語_レ氣_レ，充_レ滿_レ憤_レ怒_レ、害_レ他_レ人_レ痛_レ苦_レ、激_レ怒_レ他_レ人_レ（等_レ言_レ語_レ暴_レ力_レ）；

Asamādhisaṃvattanikā, tathārūpiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.]

曾_レ發_レ表_レ過_レ導_レ致_レ（內_レ心_レ）不_レ平_レ靜_レ之_レ類_レ似_レ言_レ論_レ。

(1) 彼_レ由_レ於_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(2) 由_レ於_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(3) 由_レ於_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ歪_レ邪_レ……。

第七節 犯綺語業

samphappalāpī hoti...

此世界^上，諸比丘[！]！又有^某些^{（人類）}曾^犯雜穢^語——

[akālavādī abhūtavādī anattavādī adhammavādī avinayavādī,

不^適時^溝通[、] 不^說明^真相[、] 不^陳述^道理[、]
弘^揚邪^法、 演^說非^律；

anidhānavatiṃ vācaṃ bhāsītā hoti akālena anapadesaṃ apariyantavatiṃ anattasamhitam.]

曾^發表^過無^價值[、] 不^合時^宜、 不^合理[、] 漫^無
邊^際、 不^帶來^公益^之言^論。

(1) 彼^由於^以身^蛇行^{——}以^自己^身體^如蛇^爬行[；]

(2) 由^於以^語蛇^行——以^自己^言語^如蛇^爬行[；]

(3) 由^於以^意蛇^行——以^自己^意圖^如蛇^爬行[；]

(4) 彼^之身^業已^變成^歪邪^{……}。

第八節 犯貪欲業

abhijjhālu hoti...

此世界^上，諸比丘[！]！又有^某些^{（人類）}貪^愛
羨^求——

[Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ, taṃ abhijjhātā hoti –

彼^既貪^婪於^凡是^他人^存放^在別^處之^財物[、]
彼^又存^在妄^想：

'aho vata, yaṃ parassa taṃ mama assā'ti.]

『噢[！]！但^願凡^是他^人之^事物[、] 都^可以^變成^我
所^有！』

- (1) 彼_レ由_レ於_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (2) 由_レ於_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (3) 由_レ於_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ歪_レ邪_レ……。

第九節 犯瞋恚業

byāpannacitto hoti...

[“Byāpannacitto hoti paduṭṭhamanasaṅkappo –

此_レ世_レ界_レ上_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 又_レ有_レ某_レ些_レ（人_レ類_レ） 由_レ於_レ瞋_レ心_レ以_レ後_レ， 已_レ有_レ作_レ惡_レ事_レ之_レ意_レ圖_レ——

‘ime sattā haññantu vā

（心_レ想_レ：）

『（1）或_レ令_レ諸_レ有_レ情_レ被_レ殺_レ害_レ；

bajjhantu vā

（2）或_レ令_レ其_レ被_レ逮_レ捕_レ、 捕_レ捉_レ（在_レ監_レ獄_レ、 陷_レ阱_レ等_レ中_レ）；

ucchijjantu vā

（3）或_レ令_レ其_レ被_レ消_レ滅_レ（肉_レ體_レ）；

vinassantu vā mā vā ahesun’ti.]

（4）噢_レ！ 我_レ或_レ我_レ等_レ令_レ其_レ被_レ失_レ蹤_レ、 消_レ失_レ（於_レ世_レ間_レ）！』

- (1) 彼_レ由_レ於_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (2) 由_レ於_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (3) 由_レ於_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；
- (4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ歪_レ邪_レ……。

第十節 犯邪見業

micchāditṭhiko hoti viparītadassano –

此^チ世^セ界^{カイ}上^ノ， 諸^{シヨ}比^ヒ丘^{キウ}！ 又^{マタ}有^ル某^{ナニ}些^カ（人^ニ類^ノ） 由^{ヨリ}於^レ有^ル顛^{テン}倒^{トウ}之^ノ見^ミ解^ゲ以^テ後^ニ， 變^カ成^ス邪^{シヤ}見^ミ——

‘natthi dinnam...pe... sayam abhiññā sacchikatvā pavedentī’ti. [‘natthi dinnam,

（心^{シン}想^{ソウ}：）

『（1）無^ム佈^フ施^シ（福^{フク}田^{テン}後^ノ之^ノ功^ク德^{トク}）；

natthi yitṭham,

（2）無^ム供^ク養^{ヤウ}（神^{シン}明^{メイ}後^ノ之^ノ功^ク德^{トク}）；

natthi hutam,

（3）無^ム祭^{サイ}祀^イ（祖^ソ先^{セン}後^ノ之^ノ功^ク德^{トク}）；

natthi sukatadukkaṭānaṃ kammānaṃ phalaṃ vipāko,

（4）無^ム善^{ゼン}惡^{アク}業^{ゴウ}行^{コウ}果^{クワ}報^{ポウ}之^ノ異^イ熟^{ジュク}；

natthi ayam loko,

（5）無^ム此^{コノ}世^セ（善^{ゼン}惡^{アク}業^{ゴウ}行^{コウ}之^ノ果^{クワ}報^{ポウ}）；

natthi paro loko,

（6）無^ム他^{タノ}世^セ（善^{ゼン}惡^{アク}業^{ゴウ}行^{コウ}之^ノ果^{クワ}報^{ポウ}）；

natthi mātā,

（7）無^ム奉^{ホウ}養^{ヤウ}母^ボ親^{シン}（盡^{ジン}孝^{コウ}道^{ダウ}後^ノ之^ノ功^ク德^{トク}）；

natthi pitā,

（8）無^ム奉^{ホウ}養^{ヤウ}父^フ親^{シン}（盡^{ジン}孝^{コウ}道^{ダウ}後^ノ之^ノ功^ク德^{トク}）；

natthi sattā opapātikā,

（9）無^ム化^カ生^{シヨウ}有^ル情^{ジョウ}（證^{シヨウ}不^フ還^{エン}果^{クワ}之^ノ聖^{セイ}者^{シャ}）；

natthi loke samaṇabrāhmaṇā sammaggaṭā sammāpaṭipannā

（10）世^セ界^{カイ}上^ノ無^ム沙^{シャ}門^{モン}、 婆^バ羅^ラ門^{モン}之^ノ真^{シン}正^{テイ}修^{シュ}行^{コウ}者^{シャ}，

已邁向完全聖道跡之路程；

ye imañca lokam parañca lokam

無論此世，或他世（過去或未來）——

sayam abhiññā sacchikatvā pavedentī'ti.]

（皆無聖者）當自身通智，已經圓滿親證以後，正在為他人宣說（佛法）者。』

一、 蛇行因緣

So saṃsappati kāyena,

(1) 彼由於以身蛇行——以自己身體如蛇爬行；

saṃsappati vācāya,

(2) 由於以語蛇行——以自己言語如蛇爬行；

saṃsappati manasā.

(3) 由於以意蛇行——以自己意圖如蛇爬行；

Tassa jimhaṃ kāyakammaṃ hoti,

(4) 彼之身業已變成歪邪——彎曲邪行；

jimhaṃ vacīkammaṃ,

(5) 語業已（變成）歪邪——彎曲邪行；

jimhaṃ manokammaṃ,

(6) 意業已（變成）歪邪——彎曲邪行；

jimhā gati,

(7) 投胎已（變成）歪邪——彎曲邪行；

jimhupapatti.

(8) 轉世已（變成）歪邪——彎曲邪行。

二、 蛇行果報

“Jimhagatikassa kho panāhaṃ, bhikkhave, jimhupapattikassa

的_レ確_ク， 諸_レ比_丘！ 我_レ又_レ對_於已_レ邪_行去_レ投_胎、
已_レ邪_行而_レ轉_世者_レ；

dvinnam gatīnaṃ aññataram gatim vadāmi –

已_レ知_所有_二兩_種去_レ處_一， 我_レ說_其中_一一_種去_レ處_一：

ye vā ekantadukkhā nirayā

毫_レ無_懷疑_一： (1) 彼_レ等_若非_下到_極度_痛苦_之地_獄；

yā vā saṃsappajātikā tiracchānayoṇi.

(2) 即_是投_生到_任何_爬蟲_類、 畜_生類_之子_宮
也_一！

Katamā ca sā, bhikkhave, saṃsappajātikā tiracchānayoṇi?

諸_レ比_丘！ 何_者稱_為『投_生爬_蟲類_、畜_生類_之子_宮』 耶_一？

Ahi vicchikā satapadī nakulā bilārā mūsikā ulūkā,

(即_是：) 毒_蛇、 蝎_子、 蜈_蚣、 黃_鼠、 狼_、 貓_子、
老_鼠、 貓_頭鷹_；

ye vā panaññepi keci tiracchānayoṇikā sattā manusse disvā saṃsappanti.

以_及， 彼_レ等_或為_已被_人所_知、 所_見， 其_他
畜_生類_、 爬_蟲類_之有_情者_一。

三、 往生法門

Iti kho, bhikkhave, bhūtā bhūtassa upapatti hoti,

的確，諸比丘！眾生靈體之轉世就像如此——

yam karoti tena upapajjati.

無論彼造作（何業），隨之而有（輪迴）再生；

Upapannamenam phassā phusanti.

經再生後，令其遭受（償還業報之各種）觸境。

Evamaham, bhikkhave, 'kammadāyādā sattā'ti vadāmi.

諸比丘！因此我說：『已被我執所繫縛之有情，繼承於業！』

卍 卍 卍

第三章 ☆ 聖賢十善

Kammassakā, bhikkhave, sattā kammadāyādā kammayonī kammabandhū kammaṭṭisaraṇā,
 諸比丘！已_レ被_レ『我執』所繫縛之_レ有_レ情，擁_レ
 有_レ自_レ己_レ之_レ業、繼承_レ於_レ業、由_レ業所_レ生、業_レ為_レ
 親_レ族、業_レ為_レ歸_レ處——

yaṃ kammaṃ karonti – kalyāṇaṃ vā pāpakaṃ vā – tassa dāyādā bhavanti.

不_レ論_レ彼_レ造_レ何_レ業——或_レ善、或_レ惡（不_レ可_レ避_レ
 免_レ），彼_レ需_レ繼承_レ！

第一節 ♡ 離殺生業

“Idha, bhikkhave, ekacco pāṇātipātaṃ pahāya pāṇātipātā paṭivirato hoti

此_レ世_レ界_レ上_レ，諸_レ比_レ丘_レ！有_レ某_レ些_レ（人_レ類_レ）已_レ放_レ
 棄_レ殺_レ生、已_レ迴_レ避_レ殺_レ生——

nihitadaṇḍo nihitasattho,

已_レ放_レ下_レ棍_レ棒、已_レ放_レ下_レ刀_レ劍（等_レ兇_レ器_レ）；

lajjī

曾_レ謙_レ卑_レ地_レ本_レ著_レ責_レ任_レ良_レ知_レ，而_レ感_レ到_レ慚_レ恥_レ不_レ安_レ；

dayāpanno

已_レ轉_レ變_レ為_レ有_レ慈_レ悲_レ、憐_レ憫_レ心_レ；

sabbapāṇabhūtahitānukampī viharati.

已_レ利_レ益_レ幫_レ助_レ、同_レ情_レ體_レ恤_レ於_レ一_レ切_レ存_レ活_レ之_レ生_レ命_レ，
 而_レ居_レ住_レ生_レ活_レ。

一、善德因緣

So na saṃsappati kāyena,

(1) 彼由於不以身蛇行——不以自己身體如蛇爬行；

na saṃsappati vācāya,

(2) 由於不以語蛇行——不以自己言語如蛇爬行；

na saṃsappati manasā.

(3) 由於不以意蛇行——不以自己意圖如蛇爬行；

Tassa uju kāyakammaṃ hoti,

(4) 彼之身業已變成正直——質直正行；

uju vacikammaṃ,

(5) 語業已（變成）正直——質直正行；

uju manokammaṃ,

(6) 意業已（變成）正直——質直正行；

uju gati,

(7) 投胎已（變成）正直——質直正行；

ujupapatti.

(8) 轉世已（變成）正直——質直正行。

二、幸福果報

“Ujugatikassa kho panāhaṃ, bhikkhave, ujupapattikassa

的確，諸比丘！我及對於已正行去投胎、已正行而轉世者；

dvinnaṃ gatīnaṃ aññataraṃ gatim vadāmi –

已知所有兩種去處，我說其中一種去處：

ye vā ekantasukhā saggā

毫無懷疑：(1) 彼等或者往生非常快樂之天界；

yāni vā pana tāni uccākulāni

此外或者，彼等(往生為)高貴家庭——

khattiyamahāsālakulāni vā

(2) 若非刹帝利王族之大家富家宅；

brāhmaṇamahāsālakulāni vā

(3) 即是婆羅門之大家富家宅；

gahapatimahāsālakulāni vā

(4) 即是居士(財主、資產家)之大家富家宅；

aḍḍhāni mahaddhanāni mahābhogāni pahūtajātarūparajatāni pahūtavittūpakaraṇāni
pahūtadhanadhaññāni.

擁有大財富、受用大福祿，很多金銀、很多資產、很多財穀者。

三、 往生法門

Iti kho, bhikkhave, bhūtā bhūtassa upapatti hoti.

的確，諸比丘！眾生靈體之轉世就像如此——

Yaṃ karoti tena upapajjati.

無論彼造作（何業），隨之而有（輪迴）再生；

Upapannamenam phassā phusanti.

經再生後，令其遭受（償還業報之各種）觸境。

Evamaham, bhikkhave, 'kammadāyādā sattā'ti vadāmi.

諸比丘！因此我說：『已被我執所繫縛之有情，繼承於業！』

第二節 離偷盜業

“Idha pana, bhikkhave, ekacco adinnādānaṃ pahāya adinnādānā paṭivirato hoti...pe...

此^レ世^ノ界^ノ上^ニ， 諸^レ比^丘！ 又^レ有^レ某^レ些^ノ（人^ノ類^ノ） 已^レ放^棄不^レ與^レ取^ル、 已^レ迴^避不^レ與^レ取^ル——

[Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ gāmagataṃ vā araññagataṃ vā,

任^何他^ノ人^ノ存^放在^別處^ノ之^財物^ノ， 無^論是^放在^村落[、] 或^放在^郊外^ノ之^阿蘭^若；

na taṃ adinnaṃ theyyasaṅkhātāṃ ādātā hoti.]

彼^對於^不被^給與^{（之財物）} 不^存在^盜心[、] 已^不造^作偷^盜之^行為[。]

(1) 彼^由於^不以^身蛇^行——不^以自^己身^體如^蛇爬^行；

(2) 由^於不^以語^蛇行——不^以自^己言^語如^蛇爬^行；

(3) 由^於不^以意^蛇行——不^以自^己意^圖如^蛇爬^行；

(4) 彼^之身^業已^變成^正直^{……。}

第三節 離邪婬業

kāmesumicchācārā paṭivirato hoti...

[“Kāmesumicchācāraṃ pahāya, kāmesumicchācārā paṭivirato hoti.

此^チ世^ノ界^ノ上^ニ， 諸^レ比^レ丘^ノ！ 又^モ有^ル某^レ些^ノ（人^ノ類^カ） 已^ニ放^ス棄^ス婬^ヲ欲^ヲ邪^ノ行^ヲ、 已^ニ迴^シ避^ク婬^ヲ欲^ヲ邪^ノ行^ヲ——

Yā tā māturakkhitā

(1) 彼^ノ（不^ク交^ハ際^ハ） 任^ニ何^レ已^ニ有^ル母^ノ親^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

piturakkhitā

(2) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル父^ノ親^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

mātāpiturakkhitā

(3) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル雙^ノ親^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

bhāturakkhitā

(4) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル兄^ノ弟^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

bhaginirakkhitā

(5) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル姊^ノ妹^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

ñātirakkhitā

(6) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル親^ノ族^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

gottarakkhitā

(7) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル種^ノ姓^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

dhammarakkhitā

(8) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル法^ノ定^ノ監^シ護^ス人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

sasāmikā

(9) （不^ク交^ハ際^ハ） 已^ニ有^ル丈^夫所^有人^ノ（之^ノ婦^ノ女^ノ）；

saparidaṇḍā

(10) (不交際) 已_レ被_レ免_レ除_レ杖_レ罰_レ (受_レ法_レ律_レ特_レ別_レ保_レ護_レ之_レ婦_レ女_レ) ;

antamaso mālāguḷaparikkhittāpi,

(11) 乃_レ至_レ亦_レ (不交際) 環_レ繞_レ著_レ華_レ鬘_レ串_レ (已_レ有_レ婚_レ約_レ之_レ婦_レ女_レ) ;

tathārūpāsu na cārittaṃ āpajjitā hoti.]

(12) 當_レ彼_レ不_レ交_レ際_レ、訪_レ問_レ以_レ後_レ、已_レ迴_レ避_レ與_レ類_レ似_レ之_レ (婦_レ女_レ違_レ犯_レ邪_レ婬_レ) 。

(1) 彼_レ由_レ於_レ不_レ以_レ身_レ蛇_レ行_レ——不_レ以_レ自_レ己_レ身_レ體_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(2) 由_レ於_レ不_レ以_レ語_レ蛇_レ行_レ——不_レ以_レ自_レ己_レ言_レ語_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(3) 由_レ於_レ不_レ以_レ意_レ蛇_レ行_レ——不_レ以_レ自_レ己_レ意_レ圖_レ如_レ蛇_レ爬_レ行_レ；

(4) 彼_レ之_レ身_レ業_レ已_レ變_レ成_レ正_レ直_レ……。

第四節 離妄語業

musāvādaṃ pahāya musāvādā paṭivirato hoti...

此^カ世^ノ界^ノ上^ニ， 諸^ク比^レ丘^ノ！ 又^ニ有^ル某^レ些^ノ（人^ノ類^ノ） 已^ニ放^テ棄^テ謊^ノ話^ヲ、 已^ニ迴^テ避^ク謊^ノ話^ヲ——

[Sabhaggato vā

(1) 或^レ來^カ到^ク會^ノ議^ノ廳^ノ之^ニ後^ニ；

parisaggato vā

(2) 或^レ來^カ到^ク集^ノ會^ノ處^ノ之^ニ後^ニ；

ñātimajjhagato vā

(3) 或^レ來^カ到^ク親^ノ里^ノ中^ノ之^ニ後^ニ；

pūgamajjhagato vā

(4) 或^レ來^カ到^ク社^ノ團^ノ中^ノ之^ニ後^ニ；

rājakulamajjhagato vā

(5) 或^レ來^カ到^ク法^ノ廷^ノ中^ノ之^ニ後^ニ；

abhinīto sakkhipuṭṭho

當^ケ目^ヲ擊^テ證^ス人^ノ已^ニ被^テ帶^テ來^カ訊^ハ問^ス， 說^ス：

'ehambho purisa, yaṃ jānāsi taṃ vadehī'ti,

『來^カ！ 善^ク男^ノ子^ノ！ 請^ム講^シ說^ス汝^ノ所^ニ發^シ現^ス之^ノ事^ヲ？』

so ajānaṃ vā āha 'na jānāmī'ti,

① 當^ケ彼^ノ不^ク知^ス之^ノ時^ノ， 或^レ說^ス： 『我^ノ不^ク知^ス！』

jānaṃ vā āha 'jānāmī'ti,

② 當^ケ彼^ノ知^ス道^ノ之^ノ時^ノ， 或^レ說^ス： 『我^ノ知^ス道^ノ！』

apassaṃ vā āha 'na passāmī'ti,

③ 當^ケ彼^ノ未^ク見^ス之^ノ時^ノ， 或^レ說^ス： 『我^ノ未^ク見^ス！』

passaṃ vā āha `passāmi'ti,

④ 當_カ彼_ク看_マ見_ヒ之_ニ時_ノ， 或_レ說_ク： 『我_ク看_マ見_ヒ！』

iti attahetu vā parahetu vā āmisakiñcikkhahetu vā na sampajānamusā bhāsītā hoti.]

如_ク此_ノ！ 既_レ不_レ因_テ為_シ自_レ己_ノ、 又_レ不_レ因_テ為_シ他_レ人_ノ、 或_レ不_レ因_テ為_シ些_シ許_シ財_ノ物_ノ之_ニ理_カ由_ニ、 不_レ存_テ在_リ已_レ故_ニ意_ニ說_ク謊_ノ話_ノ。

(1) 彼_ク由_テ於_テ不_レ以_テ身_ノ蛇_ノ行_ク——不_レ以_テ自_レ己_ノ身_ノ體_ノ如_ク蛇_ノ爬_ク行_ク；

(2) 由_テ於_テ不_レ以_テ語_ノ蛇_ノ行_ク——不_レ以_テ自_レ己_ノ言_ノ語_ノ如_ク蛇_ノ爬_ク行_ク；

(3) 由_テ於_テ不_レ以_テ意_ノ蛇_ノ行_ク——不_レ以_テ自_レ己_ノ意_ノ圖_ク如_ク蛇_ノ爬_ク行_ク；

(4) 彼_ク之_ニ身_ノ業_ノ已_レ變_テ成_テ正_ノ直_ノ……。

第五節 離兩舌業

pisuṇaṃ vācaṃ pahāya pisuṇāya vācāya paṭivirato hoti...

此_チ世_ノ界_ノ上_ニ， 諸_レ比_レ丘_ノ！ 又_ニ有_レ某_レ些_ノ（人_ノ類_ノ）已_ニ放_レ棄_レ挑_レ撥_レ語_ヲ、 已_ニ迴_レ避_レ離_レ間_ノ語_ヲ——

[na ito sutvā amutra akkhātā imesaṃ bhedāya,

不_レ從_レ此_ノ處_ニ聞_ク已_ニ， 而_レ後_ニ告_レ密_ヲ於_レ彼_ノ處_ニ， 以_テ製_シ造_ス此_ノ處_ニ諸_レ人_ノ之_レ矛_ノ盾_ヲ；

amutra vā sutvā na imesaṃ akkhātā amūsaṃ bhedāya.

亦_レ不_レ從_レ彼_ノ處_ニ聞_ク已_ニ， 而_レ後_ニ告_レ密_ヲ於_レ此_ノ處_ニ， 以_テ製_シ造_ス彼_ノ處_ニ諸_レ人_ノ之_レ矛_ノ盾_ヲ。

Iti bhinnānaṃ vā sandhātā sahitānaṃ vā anuppadātā samaggārāmo samaggarato samagganandiṃ,

如_レ此_ノ， 或_レ為_レ被_レ破_レ壞_レ後_ノ之_レ調_レ停_レ者_ノ、 或_レ為_レ融_レ合_レ一_レ致_レ之_レ鼓_レ勵_レ者_ノ， 熱_レ衷_レ於_レ和_レ合_レ團_ノ結_ヲ、 和_レ合_レ團_ノ結_ヲ後_ニ而_レ歡_レ喜_ト、 因_レ團_ノ體_ノ和_レ合_レ團_ノ結_ヲ而_レ喜_ト悅_ト；

samaggakaraṇiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.]

曾_レ有_レ作_レ過_レ： 發_レ表_レ調_レ解_レ團_ノ體_ノ分_レ裂_ヲ、 和_レ合_レ團_ノ結_ヲ之_レ言_ヲ論_ヲ。

(1) 彼_ノ由_レ於_レ不_レ以_レ身_ノ蛇_ノ行_ト——不_レ以_レ自_ノ己_ノ身_ノ體_ノ如_レ蛇_ノ爬_レ行_ト；

(2) 由_レ於_レ不_レ以_レ語_ノ蛇_ノ行_ト——不_レ以_レ自_ノ己_ノ言_ヲ語_ヲ如_レ蛇_ノ爬_レ行_ト；

(3) 由_レ於_レ不_レ以_レ意_ノ蛇_ノ行_ト——不_レ以_レ自_ノ己_ノ意_ノ圖_ヲ如_レ蛇_ノ爬_レ行_ト；

(4) 彼_ノ之_レ身_ノ業_ヲ已_ニ變_レ成_レ正_ノ直_ノ……。

第六節 離惡口業

pharusam vācam pahāya pharusāya vācāya paṭivirato hoti...

此^レ世^ノ界^ノ上^ニ， 諸^レ比^丘！ 又^レ有^レ某^レ些^ノ（人^ノ類^ノ） 已^レ放^棄粗^暴語^ヲ、 已^レ迴^避粗^暴語^ヲ——

[Yā sā vācā nelā kaṇṇasukhā pemaṇiyā hadayaṅgamā porī

舉^凡自^己說^過柔^和無^瑕、 優^雅悅^耳、 和^藹可^親、 愜^意迷^人、 彬^彬有^禮（等^言語^ヲ） ；

bahujanakantā bahujanamanāpā, tathārūpiṃ vācam bhāsītā hoti.]

曾^發表^過讓^眾人^愉快[、] 讓^眾人^悅意^之類^似言^論。

(1) 彼^由於^不以^身蛇^行——不^以自^己身^體如^蛇爬^行；

(2) 由^於不^以語^蛇行^{——}不^以自^己言^語如^蛇爬^行；

(3) 由^於不^以意^蛇行^{——}不^以自^己意^圖如^蛇爬^行；

(4) 彼^之身^業已^變成^正直^{……}。

第七節 離綺語業

samhappalāpaṃ pahāya samhappalāpā paṭivirato hoti...

此^チ世^セ界^{カイ}上^ノ， 諸^{シヨ}比^ヒ丘^{キウ}！ 又^{マタ}有^ル某^{ナニ}些^カ（人^ニ類^ノ） 已^ニ放^ス棄^ス雜^ノ穢^ノ語^ヲ、 已^ニ迴^シ避^ク雜^ノ穢^ノ語^ヲ——

[kālavādī bhūtavādī atthavādī dhammavādī vinayavādī,

適^ニ時^ニ溝^ト通^ス、 說^ク明^ク真^ノ相^ヲ， 陳^シ述^ス道^ノ理^ヲ、 弘^ク揚^ス正^ノ法^ヲ、 演^シ說^ス聖^ノ律^ヲ；

nidhānavatīṃ vācaṃ bhāsītā hoti kālena sāpadesaṃ pariyaṇṭavatiṃ atthasaṃhitāṃ.]

曾^ニ發^ス表^ス過^ク有^ル價^ノ值^ヲ、 及^シ時^ニ、 合^シ理^ヲ、 有^ル根^ノ據^ヲ、 帶^シ來^シ公^ノ益^ヲ之^ノ言^ヲ論^ス。

(1) 彼^ノ由^テ於^テ不^レ以^テ身^ヲ蛇^ノ行^ト——不^レ以^テ自^ノ己^ノ身^ヲ體^ト如^ク蛇^ノ爬^ク行^ト；

(2) 由^テ於^テ不^レ以^テ語^ヲ蛇^ノ行^ト——不^レ以^テ自^ノ己^ノ言^ヲ語^ト如^ク蛇^ノ爬^ク行^ト；

(3) 由^テ於^テ不^レ以^テ意^ヲ蛇^ノ行^ト——不^レ以^テ自^ノ己^ノ意^ヲ圖^ト如^ク蛇^ノ爬^ク行^ト；

(4) 彼^ノ之^ノ身^ヲ業^ヲ已^ニ變^シ成^シ正^ノ直^ト……。

第八節 離貪欲業

anabhijjhālu hoti...

此^レ世^ノ界^ノ上^ニ， 諸^レ比^丘！ 又^レ有^レ某^レ些^ノ（人^ノ類^ノ）不^レ貪^テ愛^テ羨^テ求^ム——

[Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ taṃ anabhijjhātā hoti –

彼^レ既^レ不^レ貪^テ婪^テ於^レ凡^ノ是^ノ他^ノ人^ノ存^テ放^テ在^レ別^ノ處^ノ之^ノ財^ノ物^ノ， 彼^レ又^レ不^レ存^テ在^レ妄^ノ想^ノ：

‘aho vata, yaṃ parassa taṃ mamassā’ti.]

『噢^ス！ 但^レ願^ム凡^ノ是^ノ他^ノ人^ノ之^ノ事^ノ物^ノ， 都^レ可^レ以^レ變^テ成^テ我^ノ所^レ有^ノ！ 』

(1) 彼^レ由^レ於^レ不^レ以^レ身^ノ蛇^ノ行^テ——不^レ以^レ自^ノ己^ノ身^ノ體^ノ如^レ蛇^ノ爬^テ行^テ；

(2) 由^レ於^レ不^レ以^レ語^ノ蛇^ノ行^テ——不^レ以^レ自^ノ己^ノ言^ノ語^ノ如^レ蛇^ノ爬^テ行^テ；

(3) 由^レ於^レ不^レ以^レ意^ノ蛇^ノ行^テ——不^レ以^レ自^ノ己^ノ意^ノ圖^ノ如^レ蛇^ノ爬^テ行^テ；

(4) 彼^レ之^ノ身^ノ業^ノ已^レ變^テ成^テ正^ノ直^ノ……。

第九節 離瞋恚業

abyāpannacitto hoti...

[“Abyāpannacitto hoti appaduṭṭhamanasāṅkappo –

此世界^上，諸^比丘[！]！又有^某些^{（人}類[）]由^於離^瞋心^以後[，]已^無作^惡事^之意^圖——

‘ime sattā averā hontu abyāpajjā anīghā, sukhī attānaṃ pariharantū’ti.]

（心想[：]）

『當^令諸^有情[，]仁^慈祥^和、離^瞋無^惱、離^苦得^樂，由^於自^己（和^法之^皈依[）]而^獲得^濟度[！]』

(1) 彼^由於^不以^身蛇^行——不^以自^己身^體如^蛇爬^行；

(2) 由^於不^以語^蛇行^{——}不^以自^己言^語如^蛇爬^行；

(3) 由^於不^以意^蛇行^{——}不^以自^己意^圖如^蛇爬^行；

(4) 彼^之身^業已^變成^正直^{……}。

第十節 離邪見業

sammāditṭhiko hoti aviparītadassano –

此^チ世^セ界^カ上^ノ， 諸^レ比^ヒ丘^ノ！ 又^モ有^ル某^レ些^ノ（人^ノ類^ノ） 由^リ於^テ無^ク顛^カ倒^カ之^レ見^ル解^ス以^テ後^ニ， 成^ス就^シ正^シ見^ル——

`atthi dinnam...pe...

[atthi dinnam,

（心^ノ想^ノ：）

『（1）有^ル佈^ス施^ス（福^ノ田^ノ後^ノ之^レ功^ノ德^ノ）；

atthi yitṭham,

（2）有^ル供^ス養^ス（神^ノ明^ノ後^ノ之^レ功^ノ德^ノ）；

atthi hutam,

（3）有^ル祭^ス祀^ス（祖^ノ先^ノ後^ノ之^レ功^ノ德^ノ）；

atthi sukata dukkaṭānaṃ kammānaṃ phalaṃ vipāko,

（4）有^ル善^ノ惡^ノ業^ノ行^ノ果^ノ報^ノ之^レ異^ノ熟^ノ；

atthi ayam loko,

（5）有^ル此^ノ世^ノ（善^ノ惡^ノ業^ノ行^ノ之^レ果^ノ報^ノ）；

atthi paro loko,

（6）有^ル他^ノ世^ノ（善^ノ惡^ノ業^ノ行^ノ之^レ果^ノ報^ノ）；

atthi mātā,

（7）有^ル奉^ス養^ス母^ノ親^ノ（盡^シ孝^ノ道^ノ後^ノ之^レ功^ノ德^ノ）；

atthi pitā,

（8）有^ル奉^ス養^ス父^ノ親^ノ（盡^シ孝^ノ道^ノ後^ノ之^レ功^ノ德^ノ）；

atthi sattā opapātikā,

（9）有^ル化^ス生^ス有^ル情^ノ（證^ス不^レ還^ス果^ノ之^レ聖^ノ者^ノ）；

atthi loke samaṇabrāhmaṇā sammaggaṭā sammāpaṭipannā]

(10) 世^ア界^ハ上^ニ有^ス沙^門、 婆^羅門^ノ之^ニ真^正修^行者^ニ、
已^ニ邁^向完^全聖^道跡^ノ之^ニ路^程；

ye imañca lokam parañca lokam

無^ク論^ズ此^ノ世^ヲ、 或^シ他^ノ世^ヲ (過^去或^シ未^來) ——

sayam abhiññā sacchikatvā pavedentīti.

(皆^ニ有^ス聖^者) 當^レ自^レ身^ヲ通^ズ智^ヲ、 已^ニ經^ニ圓^滿親^レ證^ス
以^テ後^ニ、 正^ニ在^リ為^ス他^ノ人^ニ宣^ス說^ス (佛^法) 者^ニ。 』

一、 善德因緣

So na saṃsappati kāyena,

(1) 彼^ノ由^テ於^テ不^レ以^テ身^ヲ蛇^ニ行^フ——不^レ以^テ自^レ己^ノ身^ヲ體^ト如^ク蛇^ニ爬^ク行^フ；

na saṃsappati vācāya,

(2) 由^テ於^テ不^レ以^テ語^ヲ蛇^ニ行^フ——不^レ以^テ自^レ己^ノ言^ヲ語^ヲ如^ク蛇^ニ爬^ク行^フ；

na saṃsappati manasā.

(3) 由^テ於^テ不^レ以^テ意^ヲ蛇^ニ行^フ——不^レ以^テ自^レ己^ノ意^ヲ圖^ク如^ク蛇^ニ爬^ク行^フ；

Tassa uju kāyakammaṃ hoti,

(4) 彼^ノ之^ノ身^ノ業^ニ已^ニ變^ニ成^ス正^直——質^ニ直^ニ正^ニ行^フ；

uju vacīkammaṃ,

(5) 語^ノ業^ニ已^ニ (變^ニ成^ス) 正^直——質^ニ直^ニ正^ニ行^フ；

uju manokammaṃ,

(6) 意^ノ業^ニ已^ニ (變^ニ成^ス) 正^直——質^ニ直^ニ正^ニ行^フ；

uju gati,

(7) 投胎已 (變成) 正直——質直正行；

ujupapatti.

(8) 轉世已 (變成) 正直——質直正行。

二、幸福果報

“Ujugatikassa kho pana ahaṃ, bhikkhave, ujupapattikassa

的確，諸比丘！我又對於已正行去投胎、已正行而轉世者；

dvinnam gatīnaṃ aññataraṃ gatim vadāmi –

已知所有兩種去處，我說其中一種去處：

ye vā ekantasukhā saggā

毫無懷疑：(1) 彼等或者往生非常快樂之天界；

yāni vā pana tāni uccākulāni

此外或者，彼等 (往生為) 高貴家庭——

khattiyamahāsālakulāni vā

(2) 若非刹帝利王之大家宅；

brāhmaṇamahāsālakulāni vā

(3) 即是婆羅門之大家宅；

gahapatimahāsālakulāni vā

(4) 即是居士 (財主、資產家) 之大家宅；

aḍḍhāni mahaddhanāni mahābhogāni pahūtajātarūparajatāni pahūtavittūpakaraṇāni
pahūtadhanadhaññāni.

擁有大財富、受用大福祿，很多金銀、很多資產、很多財穀者。

三、 往生法門

Iti kho, bhikkhave, bhūtā bhūtassa upapatti hoti.

的^カ確^ク， 諸^ス比^ヒ丘^ク！ 眾^ス生^ム靈^カ體^ノ之^ニ轉^ス世^ニ就^シ像^ノ如^ク此^ガ——

Yaṃ karoti tena upapajjati.

無^ク論^カ彼^ノ造^ル作^ル（何^レ業^ニ）， 隨^フ之^ニ而^ル有^ル（輪^ラ迴^ル）
再^リ生^ス；

Upapannamenam phassā phusanti.

經^シ再^リ生^ス後^ニ， 令^フ其^ノ遭^ル受^ル（償^ハ還^ル業^ニ報^ル之^ニ各^々種^々）
觸^ル境^ニ。

Evamaḥam, bhikkhave, 'kammadāyādā sattā'ti vadāmi.

諸^ス比^ヒ丘^ク！ 因^リ此^ガ我^ニ說^ス： 『已^ニ被^ル我^ニ執^ル所^ニ繫^ル縛^ル之^ニ
有^ル情^ニ， 繼^リ承^ル於^ル業^ニ！ 』

卍 卍 卍

第四章 ☆ 結語

“Kammassakā, bhikkhave, sattā kammadāyādā kammayonī kammabandhū kammaṭṭisaraṇā,

諸比丘！已『被執』所繫縛之有情，擁
有自己之業、繼承於業、由業所生、業為
親族、業為歸處——

yaṃ kammaṃ karonti – kalyāṇaṃ vā pāpakaṃ vā – tassa dāyādā bhavanti.

不論彼造何業——或善、或惡（不可避
免） ， 彼需繼承！

Ayaṃ kho so, bhikkhave, saṃsappanīyapariyāyo dhammapariyāyo”ti.

諸比丘！此者稱為『蛇行法門』之教導。」

Chaṭṭham.

蛇行法門經 ～業所生身品・第六經終

～《增支部經典・十集・五十經篇之五・業所生身品・Samsappanīyasutta 蛇行法門經》(AN 10.216)



第十三品 ☆ 故思業之一經

Paṭhamasañcetanikasutta (AN 10.217)

【 巴 利 佛 經 】

7. *Paṭhamasañcetanikasuttaṃ*

《 故 思 業 之 一 經 》

☆ 本經大意 ⇒

凡正信佛教徒，應唾棄階級鬥爭、階級專政的邪說；
不離階級鬥爭、顛倒邪見的愚人，絕難逃自食惡果！

☆ 故思業 (*Sañcetanikānaṃ kammānaṃ*) ⇒

解說：故，是故意；思，認識和意圖；業，是行為；
根據有意圖的善惡業動機，所造成的身語意之行為。
業和果不同！業是身語意三種行為，果是行為結果。

☆ 十惡業道 ⇒ 十惡不赦！

- ① 犯殺生業 (果報：人中短命、多病、二惡趣報) ；
- ② 犯偷盜業 (果報：人中貧窮、破財、二惡趣報) ；
- ③ 犯邪淫業 (果報：人中無妻、不貞、二惡趣報) ；
- ④ 犯妄語業 (果報：人中惡名、受騙、二惡趣報) ；
- ⑤ 犯兩舌業 (果報：人中坐牢、乖離、二惡趣報) ；
- ⑥ 犯惡口業 (果報：人中聾啞、諍訟、二惡趣報) ；
- ⑦ 犯綺語業 (果報：人中諂曲、不實、二惡趣報) ；
- ⑧ 犯貪欲業 (果報：人中嫉妒、不滿、二惡趣報) ；
- ⑨ 犯瞋恚業 (果報：人中怨天、尤人、二惡趣報) ；
- ⑩ 犯邪見業 (果報：人中多疑、不信、二惡趣報) 。

《長部經典·波梨品·第三十三經·合誦經》說示（五趣）：

☆ 五趣生死輪迴（*Pañca gatiyo*）⇒

「五趣」也叫做：五道。

① 地獄（*Nirayo*）☞

又或譯為：奈落、那落迦、捺落迦。

② 畜生（*Tiracchānayo*）☞

又或譯為：傍生、傍行的衆生。

③ 餓鬼（*Pettivisayo*）☞

又或譯為：鬼道、陰界、祖靈。

④ 人類（*Manussā*）☞

又或譯為：人道、人界、人趣。

⑤ 天界（*Devā*）☞

又或譯為：天道、天界、天趣。

☆ 二惡趣 ⇒ 也叫做：二惡道。

① 地獄道（*Nirayo*）；

② 畜生道（*Tiracchānayo*）。

《長部經典·波梨品·第三十三經·合誦經》說示（九無暇）：

☆ 九無暇難住梵行 ⇒

① 生於地獄（痛苦當中）；

② 生於傍生（畜生傍行）；

③ 生於鬼道（陰界祖靈）；

④ 阿修羅身（瞋痴墮處）；

⑤ 長壽天衆（如無想天）；

⑥ 邊地無知（蠻族無智）；

- ⑦ 邪見顛倒（不信三寶）；
- ⑧ 痴呆聾啞（不解善說）；
- ⑨ 佛前佛後（沒有正法）。

《增支部經典·十集·五十經篇之二·長老品·拘迦利謗聖經》說示（十地獄）：

☆ 十寒地獄 ⇒

- ① 膿皰地獄（*Abbuda*）指：瘡皰血污之垢濁，
相當： $100（年）\times 20 = 2$ 千滿車芝麻的年數，
又作：頰部陀、阿部曇、阿浮陀、阿菩達；
- ② 皰裂地獄（*Nirabbuda*）指：嚴寒逼身，膿瘡破裂，
相當： $2,000\times 20 = 4$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：尼刺部陀、尼賴浮陀、尼羅浮陀；
- ③ 波波地獄（*Ababa*）指：寒苦增極，舌不能動，
只在唇間波波作聲，有76個零位的數字名，
相當： $40,000\times 20 = 80$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：阿波波、阿婆婆、呵婆婆、阿拔拔；
- ④ 吒吒地獄（*Atata*）指：因恐怖寒冷緊張等，
牙齒發出顫抖聲，已被燒焦、一個大的數字名，
相當： $800,000\times 20 = 1,600$ 萬滿車芝麻的年數，
又作：阿吒吒、頰嘶吒、呵羅羅、阿嗒嗒；
- ⑤ 訶訶地獄（*Ahaha*）指：一個很大的數字名，
冰凍咽喉內，振氣而作聲，唉！悲哀的驚呼！
相當： $16,000,000\times 20 = 3$ 億2,000萬滿車芝麻的年數，
又作：阿訶訶、阿哈哈、臃臃婆、虎虎婆；
- ⑥ 睡蓮地獄（*Kumuda*）指：極大的數字名，
黃蓮、白睡蓮、皮肉潰爛，猶如睡蓮花，
相當： $320,000,000\times 20 = 64$ 億滿車芝麻的年數，
又作：白睡蓮地獄、拘物頭、俱物頭、拘物陀；
- ⑦ 香蓮地獄（*Sogandhika*）指：芬芳香氣，
好香蓮花、香睡蓮、皮肉潰爛，猶如香蓮花，

相當： $6,400,000,000 \times 20 = 1,280$ 億滿車芝麻的年數，

又作：青睡蓮地獄、須乾提、搔捷提迦；

⑧ 青蓮地獄 (*Uppalaka*) 指：發聲鳴叫，

罪人全身皆為青瘀、皮膚破裂，猶如青蓮花

相當： $128,000,000,000 \times 20 = 2$ 兆 $5,600$ 億滿車芝麻的年數，

又作：青蓮花地獄、優鉢羅、優鉢地獄、黛花地獄；

⑨ 白蓮地獄 (*Puṇḍarīka*) 指：受罪衆生，

寒苦增極，皮肉脫落，骨頭顏色，猶如白蓮花，

相當： $2,560,000,000,000 \times 20 = 51$ 兆 $2,000$ 億滿車芝麻的年數，

又作：白蓮花地獄、芬陀利地獄；

⑩ 紅蓮地獄 (*Paduma*) 指：一個巨大的數位名，

嚴寒逼迫，身變赤紅，皮膚拆裂，猶如紅蓮花，

相當： $51,200,000,000,000 \times 20 = 1,024$ 兆滿車芝麻的年數，

又作：紅蓮花地獄、波頭摩、鉢頭摩、鉢曇摩。

卍 卍 卍

第一章 ☆ 思業前言

217. "Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā [appaṭisaṃveditvā (sī. syā. pī.)] byantībhāvaṃ vadāmi.

「諸比丘！我不曾說：『已_レ被_レ故_レ思_レ業_レ（認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ）所_レ累_レ積_レ之_レ惡_レ行_レ，若_レ非_レ已_レ被_レ受_レ報_レ，而_レ會_レ消_レ滅_レ！』

Tañca kho diṭṭheva dhamme upapajje vā [upapajjaṃ vā (ka.) a. ni. 6.63 passitabbaṃ, upapajja vā (ma. ni. 3.303)] apare vā pariyāye.

應_レ當_レ發_レ現_レ：無_レ論_レ根_レ據_レ現_レ在_レ（所_レ說_レ）往_レ生_レ法_レ門_レ之_レ教_レ導_レ，或_レ者_レ根_レ據_レ未_レ來_レ（所_レ說_レ）往_レ生_レ法_レ門_レ之_レ教_レ導_レ，都_レ是_レ如_レ此_レ！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi.

正_レ是_レ如_レ此_レ，諸_レ比_レ丘_レ！我_レ不_レ曾_レ說_レ：『已_レ被_レ故_レ思_レ業_レ（認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ）所_レ累_レ積_レ之_レ惡_レ行_レ，若_レ非_レ已_レ被_レ受_レ報_レ，而_レ能_レ夠_レ作_レ苦_レ之_レ邊_レ際_レ！』

卍 卍 卍

第二章 ☆ 十惡思業

第一節 🌸 惡業概說

“Tatra, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā [akusalamañ sañcetanikañ dukkhudrayañ dukkhavipākañ (ka.)] hoti;

(1) 於此，諸比丘！有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『身業』過失，而招感不幸之苦果；

catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti;

(2) 有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『語業』過失，而招感不幸之苦果；

tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

(3) 有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『意業』過失，而招感不幸之苦果。

第二節 🌸 身業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti?

又，諸比丘！如何稱之為：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之身業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯殺生業

Idha, bhikkhave, ekacco pañātipātī hoti

此世界上，諸比丘！有某些（人類）曾犯殺生——

luddo lohitapāṇi

殘_{ㄉㄨㄛˊ}酷_{ㄎㄨˋ}兇_{ㄩㄥ}暴_{ㄅㄠˋ}、 雙_{ㄕㄨㄤ}手_{ㄕㄨㄛˊ}血_{ㄒㄩㄝˊ}腥_{ㄒㄩㄥ}；

hatapahate nivitṭho

心_{ㄒㄩㄥ}已_ㄩ被_{ㄅㄟ}執_ㄓ著_ㄓ， 專_{ㄕㄨㄤ}門_{ㄇㄨㄣˊ}從_ㄘ事_ㄕ於_ㄩ殺_ㄕ害_ㄕ、 征_ㄕ服_ㄕ、 襲_ㄩ擊_ㄕ；

adayāpanno sabbapāṇabhūtesu.

對_ㄉ於_ㄩ一_ㄩ切_ㄕ存_ㄘ活_ㄕ之_ㄩ生_ㄕ命_ㄕ， 已_ㄩ毫_ㄕ無_ㄕ慈_ㄕ悲_ㄕ心_ㄕ而_ㄩ陷_ㄕ入_ㄕ犯_ㄕ戒_ㄕ！

二、 犯偷盜業

“Adinnādāyī hoti.

曾_ㄘ犯_ㄕ拿_ㄕ起_ㄕ未_ㄕ被_ㄕ給_ㄕ與_ㄕ者_ㄕ——

Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ gāmagataṃ vā araññagataṃ vā,

任_ㄕ何_ㄕ他_ㄕ人_ㄕ存_ㄕ放_ㄕ在_ㄕ別_ㄕ處_ㄕ之_ㄕ財_ㄕ物_ㄕ， 無_ㄕ論_ㄕ是_ㄕ放_ㄕ在_ㄕ村_ㄕ落_ㄕ、 或_ㄕ放_ㄕ在_ㄕ郊_ㄕ外_ㄕ之_ㄕ阿_ㄕ蘭_ㄕ若_ㄕ；

taṃ adinnaṃ theyyasaṅkhātāṃ ādātā hoti.

彼_ㄕ對_ㄕ於_ㄕ不_ㄕ被_ㄕ給_ㄕ與_ㄕ（ 之_ㄕ財_ㄕ物_ㄕ） 存_ㄕ在_ㄕ盜_ㄕ心_ㄕ， 已_ㄕ造_ㄕ作_ㄕ偷_ㄕ盜_ㄕ之_ㄕ行_ㄕ為_ㄕ。

三、 犯邪婬業

“Kāmesumicchācārī hoti.

曾_ㄘ犯_ㄕ婬_ㄕ欲_ㄕ邪_ㄕ行_ㄕ——

Yā tā māturakkhitā...pe... antamaso mālāguḷaparikkhittāpi, tathārūpāsu cārittaṃ āpajjitā hoti.

[Yā tā māturakkhitā

(1) 彼_ㄕ（ 或_ㄕ交_ㄕ際_ㄕ） 任_ㄕ何_ㄕ已_ㄕ有_ㄕ母_ㄕ親_ㄕ監_ㄕ護_ㄕ人_ㄕ（ 之_ㄕ婦_ㄕ女_ㄕ） ；

piturakkhitā

(2) (或交際) 已^一有^二父^三親^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

mātāpiturakkhitā

(3) (或交際) 已^一有^二雙^三親^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

bhāturakkhitā

(4) (或交際) 已^一有^二兄^三弟^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

bhaginirakkhitā

(5) (或交際) 已^一有^二姊^三妹^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

ñātirakkhitā

(6) (或交際) 已^一有^二親^三族^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

gottarakkhitā

(7) (或交際) 已^一有^二種^三姓^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

dhammarakkhitā

(8) (或交際) 已^一有^二法^三定^四監^五護^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

sasāmikā

(9) (或交際) 已^一有^二丈^三夫^四所^五有^六人^七 (之^八婦^九女^十) ;

saparidaṇḍā

(10) (或交際) 已^一被^二免^三除^四杖^五罰^六 (受^七法^八律^九特^十別^{十一}保^{十二}護^{十三}之^{十四}婦^{十五}女^{十六}) ;

antamaso mālāguḷaparikkhittāpi,

(11) 乃^一至^二或^三 (交^四際^五) 環^六繞^七著^八華^九鬘^十串^{十一} (已^一有^二婚^三約^四之^五婦^六女^七) ;

tathārūpāsu cārittaṃ āpajjitā hoti.]

(12) 當^一彼^二交^三際^四、 訪^五問^六以^七後^八、 已^一陷^二入^三與^四類^五似^六之^七 (婦^八女^九違^十犯^{十一}邪^{十二}淫^{十三}) 。

Evaṃ kho, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱爲：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之身業過失，而招感不幸之苦果！』

第三節 語業四種

“Kathañca, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti?”

又，諸比丘！如何稱爲：『有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之語業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯妄語業

Idha, bhikkhave, ekacco musāvādī hoti.

此世界上，諸比丘！有某些（人類）曾說謊話——

Sabhaggato vā

(1) 或來到會議廳之後；

parisaggato vā

(2) 或來到集會處之後；

ñātimajjhagato vā

(3) 或來到親里中之後；

pūgamajjhagato vā

(4) 或來到社團中之後；

rājakulamajjhagato vā

(5) 或來到法廷中之後；

abhinīto sakkhiputt̥ho

當目擊證人已被帶來訊問，說：

'ehambho purisa, yaṃ jānāsi taṃ vadehī'ti,

『來！善男子！請講說汝所發現之事？』

so ajānaṃ vā āha 'jānāmī'ti,

① 當彼不知之時，或說：『我知！』

jānaṃ vā āha 'na jānāmī'ti,

② 當彼知時，或說：『我不知！』

apassaṃ vā āha 'passāmī'ti,

③ 當彼未見之時，或說：『我看見！』

passaṃ vā āha 'na passāmī'ti,

④ 當彼看見之時，或說：『我未見！』

iti attahetu vā parahetu vā āmisakiñcikkhahetu vā sampajānamusā bhāsītā hoti.

如此！或因為自己、或因為他人、或因為這些許財物之理由，而存在已故意說謊話。

二、犯兩舌業

"Pisuṇāvāco hoti.

曾犯挑撥離間語——

Ito sutvā amutra akkhātā imesaṃ bhedāya,

從此處聞已，而後告密於彼處，以製造此處諸人之矛盾；

amutra vā sutvā imesaṃ akkhātā amūsaṃ bhedāya.

或從彼處聞已，而後告密於此處，以製造彼處諸人之矛盾。

Iti samaggānaṃ vā bheṭṭā bhinnānaṃ vā anuppadātā vaggārāmo vaggarato vagganandī,
 如此，或為和合團結之破壞者、或為矛盾
 鬥爭之鼓勵者，熱衷於分化團體、分化團
 體後而歡喜、因團體爭吵分裂而喜悅；

vaggakaraṇiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.

曾有作過：發表分化團體之言論。

三、犯惡口業

“Pharusavāco hoti.

曾犯粗暴語——

Yā sā vācā aṇḍakā kakkasā parakaṭukā parābhisajjanī kodhasāmantā.

舉凡自己說過激烈、粗暴之語氣，充滿憤
 怒、害他人痛苦、激怒他人（等言語暴力）；

Asamādhisaṃvattanikā, tathārūpiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.

曾發表過導致（內心）不平靜之類似言論。

四、犯綺語業

“Samphappalāpī hoti

曾犯雜穢語——

akālavādī abhūtavādī anattavādī adhammavādī avinayavādī,

不適時溝通、不說明真相，不陳述道理、
 弘揚邪法、演說非律；

anidhānavatiṃ vācaṃ bhāsītā hoti akālena anapadesaṃ apariyantavatiṃ anattasaṃhitam.

曾發表過無價值、不合時宜、不合理、漫
 無邊際、不帶來公益之言論。

Evaṃ kho, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱爲：『有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之語業過失，而招感不幸之苦果！』

第四節 意業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti?”

又，諸比丘！如何稱爲：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯貪欲業

Idha, bhikkhave, ekacco abhijjhālu hoti.

此世界上，諸比丘！有某些（人類）貪愛羨求——

Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ, taṃ abhijjhātā hoti –

彼既貪婪於凡是他人存放在別處之財物，彼又存放在妄想：

‘aho vata, yaṃ parassa taṃ mama assā’ti.

『噢！但願凡是他人之事物，都可變成我所所有！』

二、犯瞋恚業

“Byāpannacitto hoti paduṭṭhamanasāṅkappo –

由於瞋心以後，已有作惡事之意圖——

`ime sattā haññantu vā

(心^ㄊ想^ㄩ：)

『 (1) 或^ㄉ令^ㄌ諸^ㄗ有^ㄨ情^ㄗ被^ㄨ殺^ㄩ害^ㄩ；

bajjhantu vā

(2) 或^ㄉ令^ㄌ其^ㄗ被^ㄨ逮^ㄩ捕^ㄩ、 捕^ㄩ捉^ㄨ (在^ㄉ監^ㄩ獄^ㄨ、 陷^ㄩ阱^ㄨ等^ㄗ中^ㄨ) ；

ucchijjantu vā

(3) 或^ㄉ令^ㄌ其^ㄗ被^ㄨ消^ㄩ滅^ㄨ (肉^ㄨ體^ㄨ) ；

vinassantu vā mā vā ahesun'ti.

(4) 噢^ㄨ！ 我^ㄨ或^ㄉ我^ㄨ等^ㄗ令^ㄌ其^ㄗ被^ㄨ失^ㄩ蹤^ㄨ、 消^ㄩ失^ㄨ (於^ㄨ世^ㄨ間^ㄨ) ！ 』

三、 犯邪見業

Micchādittṭhiko hoti viparītadassano –

由^ㄨ於^ㄨ有^ㄨ顛^ㄨ倒^ㄨ之^ㄨ見^ㄨ解^ㄨ以^ㄨ後^ㄨ， 變^ㄨ成^ㄨ邪^ㄨ見^ㄨ——

`natthi dinnam...pe. ... ye imañca lokaṃ parañca lokaṃ sayam abhiññā sacchikatvā pavedentī'ti.

[`natthi dinnam,

(心^ㄊ想^ㄩ：)

『 (1) 無^ㄨ佈^ㄨ施^ㄨ (福^ㄨ田^ㄨ後^ㄨ之^ㄨ功^ㄨ德^ㄨ) ；

natthi yiṭṭham,

(2) 無^ㄨ供^ㄨ養^ㄨ (神^ㄨ明^ㄨ後^ㄨ之^ㄨ功^ㄨ德^ㄨ) ；

natthi hutam,

(3) 無^ㄨ祭^ㄨ祀^ㄨ (祖^ㄨ先^ㄨ後^ㄨ之^ㄨ功^ㄨ德^ㄨ) ；

natthi sukatadukkaṭānaṃ kammānaṃ phalaṃ vipāko,

(4) 無^ㄨ善^ㄨ惡^ㄨ業^ㄨ行^ㄨ果^ㄨ報^ㄨ之^ㄨ異^ㄨ熟^ㄨ；

natthi ayam loko,

(5) 無×此^チ世^ア (善^ハ惡^シ業^セ行^フ之^ノ果^ハ報^ハ) ;

natthi paro loko,

(6) 無×他^タ世^ア (善^ハ惡^シ業^セ行^フ之^ノ果^ハ報^ハ) ;

natthi mātā,

(7) 無×奉^フ養^フ母^ノ親^ニ (盡^ス孝^ノ道^ノ後^ノ之^ノ功^ハ德^ハ) ;

natthi pitā,

(8) 無×奉^フ養^フ父^ノ親^ニ (盡^ス孝^ノ道^ノ後^ノ之^ノ功^ハ德^ハ) ;

natthi sattā opapātikā,

(9) 無×化^ス生^ル有^ス情^ノ (證^ス不^レ還^ル果^ノ之^ノ聖^ノ者^ニ) ;

natthi loke samaṇabrāhmaṇā sammaggatā sammāpaṭipannā

(10) 世^ノ界^ノ上^ニ無^ク沙^ノ門^ノ、 婆^ノ羅^ノ門^ノ之^ノ真^ノ正^ノ修^ノ行^ノ者^ニ、
已^レ邁^リ向^テ完^ル全^ノ聖^ノ道^ノ跡^ノ之^ノ路^ノ程^ニ ;

ye imaṅca lokam paraṅca lokam

無^ク論^ハ此^ノ世^ノ、 或^シ他^ノ世^ノ (過^ク去^ル或^シ未^ク來^ル) ——

sayam abhiññā sacchikatvā pavedentī'ti.]

(皆^ク無^ク聖^ノ者^ニ) 當^テ自^ラ身^ヲ通^ジ智^ニ、 已^レ經^テ圓^ク滿^ク親^ク證^ス
以^テ後^ニ、 正^シ在^リ為^ス他^ノ人^ノ宣^ス說^ス (佛^ノ法^ヲ) 者^ニ。 』

Evam kho, bhikkhave, tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸^ク比^シ丘^ノ ! 如^ク此^ノ稱^ス為^ス : 『 有^ス三^ノ種^ノ有^ス害^ノ之^ノ認^ル識^ヲ
和^シ意^ノ圖^ヲ、 由^テ於^テ自^ラ犯^ス惡^シ意^ノ之^ノ意^ノ業^ヲ過^ク失^フ、 而^シ招^ク
感^ス不^レ幸^ノ之^ノ苦^ノ果^ニ ! 』

第五節 十惡果報

一、地獄譬喻

“Tividha kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu [... sañcetanikāhetu (ka.)] vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti;

(1) 諸比丘！依三種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『身業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄；

catubbidhavacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti;

(2) 諸比丘！依四種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『語業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄；

tividhamanokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti.

(3) 諸比丘！依三種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『意業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄。

“Seyyathāpi, bhikkhave, apaṇṇako maṇi uddhamkhitto

諸比丘！（真如）好似圓滿無瑕之摩尼珠，當被向上投擲以後——

yena yeneva patiṭṭhāti

無論其正（墜落）於何處而停止？

suppatiṭṭhitamyeva patiṭṭhāti;

恰隨其所停止之處，已安穩停留！

二、自食惡果

evamevaṃ kho, bhikkhave, tividhakāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti;

(1) 諸如_レ此_ノ類_カ，當_レ然_ル！諸_レ比_レ丘_ノ！依_レ三_ノ種_ノ有_レ害_ノ認_レ識_ノ和_レ意_ノ圖_レ之_ノ因_レ緣_ノ，由_レ於_レ自_ノ犯_レ惡_ノ意_ノ之_ノ『身_ノ業_ノ』過_レ失_ル，有_レ情_ノ身_ノ壞_ノ命_ノ終_ノ以_レ後_ノ，或_レ投_レ生_レ於_レ不_レ幸_ノ福_ノ之_ノ惡_ノ道_ノ（傍_ノ生_レ），或_レ受_レ苦_ノ難_ノ於_レ（十_ノ寒_ノ）地_ノ獄_ノ；

catubbidhavaçikammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti;

(2) 依_レ四_ノ種_ノ有_レ害_ノ認_レ識_ノ和_レ意_ノ圖_レ之_ノ因_レ緣_ノ，由_レ於_レ自_ノ犯_レ惡_ノ意_ノ之_ノ『語_ノ業_ノ』過_レ失_ル，有_レ情_ノ身_ノ壞_ノ命_ノ終_ノ以_レ後_ノ，或_レ投_レ生_レ於_レ不_レ幸_ノ福_ノ之_ノ惡_ノ道_ノ（傍_ノ生_レ），或_レ受_レ苦_ノ難_ノ於_レ（十_ノ寒_ノ）地_ノ獄_ノ；

tividhamanokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjantīti.

(3) 依_レ三_ノ種_ノ有_レ害_ノ認_レ識_ノ和_レ意_ノ圖_レ之_ノ因_レ緣_ノ，由_レ於_レ自_ノ犯_レ惡_ノ意_ノ之_ノ『意_ノ業_ノ』過_レ失_ル，有_レ情_ノ身_ノ壞_ノ命_ノ終_ノ以_レ後_ノ，或_レ投_レ生_レ於_レ不_レ幸_ノ福_ノ之_ノ惡_ノ道_ノ（傍_ノ生_レ），或_レ受_レ苦_ノ難_ノ於_レ（十_ノ寒_ノ）地_ノ獄_ノ。

“Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā byantībhāvaṃ vadāmi,

諸_レ比_レ丘_ノ！我_レ不_レ曾_レ說_レ：『已_レ被_レ故_ノ思_レ業_ノ（認_レ識_ノ和_レ意_ノ圖_レ）所_レ累_レ積_レ之_ノ惡_ノ行_ノ，若_レ非_レ已_レ被_レ受_レ報_ノ，而_レ會_レ消_レ滅_レ！』

tañca kho ditṭheva dhamme upapajje vā apare vā pariyāye.

應_レ當_レ發_レ現_ノ：無_レ論_ノ根_ノ據_ノ出_レ現_ノ在_ノ（所_レ說_レ）往_レ生_レ法_ノ門_ノ之_ノ教_ノ導_ノ，或_レ者_レ根_ノ據_ノ未_レ來_ノ（所_レ說_レ）往_レ生_レ法_ノ門_ノ之_ノ教_ノ導_ノ，都_レ是_レ如_レ此_ノ！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ
appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi.

正_レ是_レ如_レ此_ガ， 諸_レ比_ク丘_ノ！ 我_レ不_レ曾_レ說_ス： 『 已_レ被_レ故_ク、
思_ム業_ヲ（ 認_ル識_ヲ和_シ意_ヲ圖_ク） 所_レ累_ク積_ム之_ノ惡_ム行_ヲ， 若_シ非_レ
已_レ被_レ受_ル報_ヲ， 而_ル能_ク夠_ク作_ス苦_ヲ之_ノ邊_ノ際_ニ！ 』

卍 卍 卍

第三章 ☆ 十善思業

第一節 ♡ 善業概說

"Tatra, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti;

(1) 於此，諸比丘！有三種美德之認識和意圖，由於成就快樂之『身業』財富，而招感幸福之樂果；

catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti;

(2) 有四種美德之認識和意圖，由於成就快樂之『語業』財富，而招感幸福之樂果；

tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

(3) 有三種美德之認識和意圖，由於成就快樂之『意業』財富，而招感幸福之樂果。

第二節 ♡ 身業三種

"Kathañca, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti?"

又，諸比丘！如何稱為：『有三種美德之認識和意圖，由於成就快樂之身業財富，而招感幸福之樂果』耶？

一、離殺生業

Idha, bhikkhave, ekacco paṇātipātāṃ pahāya paṇātipātā paṭivirato hoti

此世界上，諸比丘！有某些（人類）已放棄殺生、已迴避殺生——

nihitadaṇḍo nihitasattho

已放下棍棒、已放下刀劍（等兇器）；

lajjī

曾謙卑地本著責任良知，而感得到慚恥不安；

dayāpanno,

已轉變為有慈悲、憐憫心；

sabbapāṇabhūtahitānukampī viharati...pe....

已利益幫助、同情體恤於一切存活之生命，而居住生活。

二、離偷盜業

“Adinnādānaṃ pahāya, adinnādānā paṭivirato hoti.

已放棄不與取、已迴避不與取——

Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ gāmagataṃ vā araññagataṃ vā,

任何他人存放在別處之財物，無論是在村落、或放在郊外之阿蘭若；

na taṃ adinnaṃ theyyasaṅkhātāṃ ādātā hoti.

彼對於不被給與（之財物）不存放在盜心、已不造作偷盜之行爲。

三、離邪淫業

“Kāmesumicchācāraṃ pahāya, kāmesumicchācārā paṭivirato hoti.

已放棄淫欲邪行、已迴避淫欲邪行——

Yā tā māturakkhitā ...pe... antamaso mālāguḷaparikkhittāpi, tathārūpāsu na cārittaṃ āpajjitā hoti.

[Yā tā māturakkhitā

(1) 彼（不交際）任何已有母親監護人（之婦女）；

piturakkhitā

(2) （不交際）已有父親監護人（之婦女）；

mātāpiturakkhitā

(3) (不交際) 已^レ有^二雙親^一監護人^レ (之^レ婦女)

bhāturakkhitā

(4) (不交際) 已^レ有^二兄弟^一監護人^レ (之^レ婦女)

bhaginirakkhitā

(5) (不交際) 已^レ有^二姊妹^一監護人^レ (之^レ婦女)

ñātirakkhitā

(6) (不交際) 已^レ有^二親族^一監護人^レ (之^レ婦女)

gottarakkhitā

(7) (不交際) 已^レ有^二種姓^一監護人^レ (之^レ婦女)

dhammarakkhitā

(8) (不交際) 已^レ有^二法定^一監護人^レ (之^レ婦女)

sasāmikā

(9) (不交際) 已^レ有^二丈夫^一所有^レ人^レ (之^レ婦女)

saparidaṇḍā

(10) (不交際) 已^レ被^レ免除^レ杖罰 (受^レ法律^レ特別^レ保護^レ之^レ婦女) ；

antamaso mālāguḷaparikkhittāpi,

(11) 乃^レ至^レ亦^レ (不交際) 環繞^レ著^レ華鬘^レ串 (已^レ有^レ婚約^レ之^レ婦女) ；

tathārūpāsu na cārittaṃ āpajjitā hoti.]

(12) 當^レ彼^レ不^レ交^レ際、 訪^レ問^レ以^レ後、 已^レ迴^レ避^レ與^レ類^レ似^レ之^レ (婦女^レ違^レ犯^レ邪^レ淫) 。

Evam kho, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸^レ比^レ丘^レ ! 如^レ此^レ稱^レ為^レ : 『 有^レ三^レ種^レ美^レ德^レ之^レ認^レ識^レ 』

和_レ意_一圖_々， 由_一於_レ成_レ就_レ快_々樂_々之_レ身_レ業_レ財_レ富_レ， 而_レ招_々感_々幸_レ福_レ之_レ樂_々果_々！』

第三節 語業四種

“Kathañca, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti?”

又_一， 諸_々比_レ丘_々！ 如_レ何_レ稱_レ為_レ： 『有_一四_レ種_々美_レ德_々之_レ認_レ識_レ和_レ意_一圖_々， 由_一於_レ成_レ就_レ快_々樂_々之_レ語_レ業_レ財_レ富_レ， 而_レ招_々感_々幸_レ福_レ之_レ樂_々果_々』 耶_一？

一、 離妄語業

Idha, bhikkhave, ekacco musāvādaṃ pahāya musāvādā paṭivirato hoti.

此_レ世_レ界_レ上_レ， 諸_々比_レ丘_々！ 有_一某_レ些_レ（人_レ類_レ）已_一放_レ棄_レ謊_レ話_レ、 已_一迴_レ避_レ謊_レ話_レ——

Sabhaggato vā

(1) 或_レ來_レ到_レ會_レ議_レ廳_レ之_レ後_レ；

parisaggato vā

(2) 或_レ來_レ到_レ集_レ會_レ處_レ之_レ後_レ；

ñātimajjhagato vā

(3) 或_レ來_レ到_レ親_レ里_レ中_レ之_レ後_レ；

pūgamajjhagato vā

(4) 或_レ來_レ到_レ社_レ團_レ中_レ之_レ後_レ；

rājakulamajjhagato vā

(5) 或_レ來_レ到_レ法_レ廷_レ中_レ之_レ後_レ；

abhinīto sakkhipuṭṭho

當_レ目_レ擊_レ證_レ人_レ已_一被_レ帶_レ來_レ訊_レ問_レ， 說_レ：

'ehambho purisa, yaṃ jānāsi taṃ vadehī'ti,

『來！善男子！請講說汝所發現之事？』

so ajānaṃ vā āha 'na jānāmī'ti,

① 當彼不知之時，或說：『我不知！』

jānaṃ vā āha 'jānāmī'ti,

② 當彼知道之時，或說：『我知道！』

apassaṃ vā āha 'na passāmī'ti,

③ 當彼未見之時，或說：『我未見！』

passaṃ vā āha 'passāmī'ti,

④ 當彼看見之時，或說：『我看見！』

iti attahetu vā parahetu vā āmisakiñcikkhahetu vā na sampajānamusā bhāsītā hoti.

如此！既不因爲自己、又不因爲他人、或不因爲此許財物之理由，不存已故意說謊話。

二、離兩舌業

"Pisuṇaṃ vācaṃ pahāya, pisuṇāya vācāya paṭivirato hoti –

已放棄挑撥語、已迴避離間語——

na ito sutvā amutra akkhātā imesaṃ bhedāya,

不從此處聞已，而後告密於彼處，以製造此處諸人之矛盾；

amutra vā sutvā na imesaṃ akkhātā amūsaṃ bhedāya.

亦不從彼處聞已，而後告密於此處，以製造彼處諸人之矛盾。

Iti bhinnānaṃ vā sandhātā sahitānaṃ vā anuppadātā samaggārāmo samaggarato samagganandiṃ,

如此，或爲被破壞後之調停者、或爲融合

一一致之鼓勵者，熱衷於和合團結、和合團結後而歡喜、因團體和合團結而喜悅；

samaggakaraṇiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.

曾有作過：發表調解團體分裂、和合團結之言論。

三、離惡口業

“Pharusam vācaṃ pahāya, pharusāya vācāya paṭivirato hoti.

已放棄粗暴語、已迴避粗暴語——

Yā sā vācā nelā kaṇṇasukhā pemaṇiyā hadayaṅgamā porī

舉凡自己說過柔和無瑕、優雅悅耳、和藹可亲、愜意迷人、彬彬有禮（等言語）；

bahujanakantā bahunamanāpā, tathārūpiṃ vācaṃ bhāsītā hoti.

曾發表過讓眾人愉快、讓眾人悅意之類似言論。

四、離綺語業

“Samphappalāpaṃ pahāya, samphappalāpā paṭivirato hoti

已放棄雜穢語、已迴避雜穢語——

kālavādī bhūtavādī atthavādī dhammavādī vinayavādī,

適時溝通、說明真相，陳述道理、弘揚正法、演說聖律；

nidhānavatiṃ vācaṃ bhāsītā hoti kālena sāpadesaṃ pariyantavatiṃ atthasaṃhitam.

曾發表過有價值、及時、合理、有根據、帶來公益之言論。

Evam kho, bhikkhave, catubbidhā vacikammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱為：『有四種美德之認識』

和_レ意_一圖_支， 由_一於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ語_レ業_レ財_レ富_レ， 而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ！ 』

第四節 意業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti?”

又_一， 諸_レ比_レ丘_レ！ 如_レ何_レ稱_レ為_レ： 『 有_一三_レ種_レ美_レ德_レ之_レ認_レ識_レ和_レ意_レ圖_支， 由_一於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ意_レ業_レ財_レ富_レ， 而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ』 耶_レ？

一、 離貪欲業

Idha, bhikkhave, ekacco anabhijjhālu hoti.

此_レ世_レ界_レ上_レ， 諸_レ比_レ丘_レ！ 有_一某_レ些_レ（ 人_レ類_レ） 不_レ貪_レ愛_レ羨_レ求_レ——

Yaṃ taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ taṃ anabhijjhātā hoti –

彼_レ既_レ不_レ貪_レ婪_レ於_レ凡_レ是_レ他_レ人_レ存_レ放_レ在_レ別_レ處_レ之_レ財_レ物_レ， 彼_レ又_レ不_レ存_レ在_レ妄_レ想_レ：

‘aho vata, yaṃ parassa taṃ mamassā’ti.

『 噢_レ！ 但_レ願_レ凡_レ是_レ他_レ人_レ之_レ事_レ物_レ， 都_レ可_レ以_レ變_レ成_レ我_レ所_レ有_レ！ 』

二、 離瞋恚業

“Abyāpannacitto hoti appaduṭṭhamanasañkappo –

由_一於_レ離_レ瞋_レ心_レ以_レ後_レ， 已_レ無_レ作_レ惡_レ事_レ之_レ意_レ圖_支——

‘ime sattā averā hontu abyāpajjā anīghā, sukhī attānaṃ pariharantū’ti.

（ 心_レ想_レ： ） 『 當_レ令_レ諸_レ有_レ情_レ， 仁_レ慈_レ祥_レ和_レ、 離_レ瞋_レ無_レ惱_レ、 離_レ苦_レ得_レ樂_レ， 由_一於_レ自_レ己_レ（ 和_レ法_レ之_レ皈_レ依_レ） 而_レ獲_レ得_レ濟_レ度_レ！ 』

三、離邪見業

“Sammāditṭhiko hoti aviparītadassano –

由_又於_口無_×顛_カ倒_ク之_也見_見解_見以_一後_又， 成_成就_又正_也見_見——

‘atthi dinnam, atthi yitṭham...pe... ye imañca lokam parañca lokam sayam abhiññā
sacchikatvā pavedentī’ti.

[atthi dinnam,

(心_心想_心：) 『 (1) 有_又佈_又施_又 (福_又田_又後_又之_也功_也德_也) ；

atthi yitṭham,

(2) 有_又供_也養_也 (神_又明_也後_又之_也功_也德_也) ；

atthi hutam,

(3) 有_又祭_也祀_也 (祖_又先_也後_又之_也功_也德_也) ；

atthi sukata dukkaṭānaṃ kammānaṃ phalaṃ vipāko,

(4) 有_又善_也惡_也業_也行_也果_也報_也之_也異_也熟_也；

atthi ayam loko,

(5) 有_又此_也世_也 (善_也惡_也業_也行_也之_也果_也報_也) ；

atthi paro loko,

(6) 有_又他_也世_也 (善_也惡_也業_也行_也之_也果_也報_也) ；

atthi mātā,

(7) 有_又奉_也養_也母_也親_也 (盡_也孝_也道_也後_又之_也功_也德_也) ；

atthi pitā,

(8) 有_又奉_也養_也父_也親_也 (盡_也孝_也道_也後_又之_也功_也德_也) ；

atthi sattā opapātikā,

(9) 有_又化_也生_也有_又情_也 (證_也不_也還_也果_也之_也聖_也者_也) ；

atthi loke samaṇabrāhmaṇā sammaggatā sammāpaṭipannā

(10) 世_也界_也上_也有_又沙_也門_也、 婆_也羅_也門_也之_也真_也正_也修_也行_也者_也，
已_一邁_也向_也完_也全_也聖_也道_也跡_也之_也路_也程_也；

ye imañca lokam parañca lokam

無^レ論^カ此^カ世^ノ， 或^シ他^ノ世^ノ（ 過^ク去^ク或^シ未^ク來^カ） ——

sayaṃ abhiññā sacchikatvā pavedentī'ti.]

（ 皆^ハ有^ス聖^ノ者^ト） 當^レ自^ラ身^ヲ通^ズ智^ヲ， 已^ニ經^テ圓^ク滿^ク親^ク證^ス以^テ後^ニ， 正^シ在^リ為^ス他^ノ人^ニ宣^ス說^ス（ 佛^ノ法^ヲ） 者^ト。 』

Evam kho, bhikkhave, tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸^レ比^ク丘^ノ！ 如^ク此^ガ稱^ム為^ス： 『 有^ス三^ト種^ノ美^ク德^ノ之^レ認^ル識^ヲ和^シ意^ヲ圖^ク， 由^テ於^テ成^ズ就^ス快^ク樂^ノ之^レ意^ヲ業^ヲ財^ヲ富^ム， 而^シ招^ク感^ス幸^ク福^ノ之^レ樂^ノ果^ト！ 』

第五節 十善果報

一、 天堂譬喻

“Tividhakāyakammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti;

(1) 諸^レ比^ク丘^ノ！ 依^テ三^ト種^ノ美^ク德^ノ認^ル識^ヲ和^シ意^ヲ圖^ク之^レ因^ヲ緣^ト， 由^テ於^テ成^ズ就^ス快^ク樂^ノ之^レ『 身^ノ業^ヲ』 財^ヲ富^ム， 有^ス情^ノ身^ヲ壞^ス命^ヲ終^ニ以^テ後^ニ， 或^シ投^テ生^ル於^テ（ 人^ノ類^ノ） 幸^ク福^ノ之^レ善^ノ道^ト， 或^シ天^ノ界^ノ之^レ極^ノ樂^ノ國^ノ土^ト；

catubbidhavacīkammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti;

(2) 諸^レ比^ク丘^ノ！ 依^テ四^ト種^ノ美^ク德^ノ認^ル識^ヲ和^シ意^ヲ圖^ク之^レ因^ヲ緣^ト， 由^テ於^テ成^ズ就^ス快^ク樂^ノ之^レ『 語^ノ業^ヲ』 財^ヲ富^ム， 有^ス情^ノ身^ヲ壞^ス命^ヲ終^ニ以^テ後^ニ， 或^シ投^テ生^ル於^テ（ 人^ノ類^ノ） 幸^ク福^ノ之^レ善^ノ道^ト， 或^シ天^ノ界^ノ之^レ極^ノ樂^ノ國^ノ土^ト；

tividhamanokammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ marañā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti.

(3) 諸^レ比^ク丘^ノ！ 依^テ三^ト種^ノ美^ク德^ノ認^ル識^ヲ和^シ意^ヲ圖^ク之^レ因^ヲ緣^ト， 由^テ於^テ成^ズ就^ス快^ク樂^ノ之^レ『 意^ノ業^ヲ』 財^ヲ富^ム， 有^ス情^ノ身^ヲ壞^ス

命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土。

“Seyyathāpi, bhikkhave, apaṇṇako maṇi uddhamkhitto

諸比丘！（真如）好似圓滿無瑕之摩尼珠，當被向上投擲以後——

yena yeneva patitṭhāti

無論其正（墜落）於何處而停止？

suppatitṭhitamyeva patitṭhāti;

恰隨其所停止之處，已安穩停留！

二、功不唐捐

evamevaṃ kho, bhikkhave, tividhakāyakammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ maraṇā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti;

(1) 諸如此類，當然！諸比丘！依三種美德認識和意圖之因緣，由於成就快樂之『身業』財富，有情身壞命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土；

catubbidhavaṃcikkammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ maraṇā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti;

(2) 依四種美德認識和意圖之因緣，由於成就快樂之『語業』財富，有情身壞命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土；

tividhamanokammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā sattā kāyassa bhedaṃ paraṃ maraṇā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti.

(3) 依三種美德認識和意圖之因緣，由於成就快樂之『意業』財富，有情身壞命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土。

Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā byantībhāvaṃ vadāmi.

諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而會消滅！』

Tañca kho diṭṭheva dhamme upapajje vā apare vā pariyāye.

應當發現：無論根據現在（所說）往生法門之教導，或者根據未來（所說）往生法門之教導，都是如此！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi^{ti}.

正是如此，諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而能夠作苦之邊際！』」

Sattamaṃ. [aṭṭhakathāyaṃ pana aṭṭhamasuttampi ettheva pariyāpannaṃ viya saṃvaṇṇanā dissati]

故思業之一經 ～業所生身品・第七經終

— 《增支部經典・十集・五十經篇之五・業所生身品・Paṭhamasañcetanikasutta 故思業之一經》 (AN 10.217)



第十四品 ☆ 故思業之二經

Dutiyasañcetanikasutta (AN 10.218)

【 巴 利 佛 經 】

8. *Dutiyasañcetanikasuttaṃ*

《 故 思 業 之 二 經 》

☆ 十惡業道 ⇒ 十惡不赦！

- ① 犯殺生業（果報：人中短命、多病、二惡趣報）；
- ② 犯偷盜業（果報：人中貧窮、破財、二惡趣報）；
- ③ 犯邪姪業（果報：人中無妻、不貞、二惡趣報）；
- ④ 犯妄語業（果報：人中惡名、受騙、二惡趣報）；
- ⑤ 犯兩舌業（果報：人中坐牢、乖離、二惡趣報）；
- ⑥ 犯惡口業（果報：人中聾啞、諍訟、二惡趣報）；
- ⑦ 犯綺語業（果報：人中諂曲、不實、二惡趣報）；
- ⑧ 犯貪欲業（果報：人中嫉妒、不滿、二惡趣報）；
- ⑨ 犯瞋恚業（果報：人中怨天、尤人、二惡趣報）；
- ⑩ 犯邪見業（果報：人中多疑、不信、二惡趣報）。

卍 卍 卍

第一章 ☆ 思業前言

218. "Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā byantībhāvaṃ vadāmi,

「諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而會消滅！』」

tañca kho diṭṭheva dhamme upapajje vā apare vā pariyāye.

應當發現：無論根據出現在（所說）往生法門之教導，或者根據未來（所說）往生法門之教導，都是如此！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi.

正是如此，諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而能夠作苦之邊際！』」

卍 卍 卍

第二章 ☆ 十惡思業

第一節 惡業概說

“Tatra, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti;

(1) 於此，諸比丘！有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『身業』過失，而招感不幸之苦果；

catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti;

(2) 有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『語業』過失，而招感不幸之苦果；

tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

(3) 有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之『意業』過失，而招感不幸之苦果。

第二節 身業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti

又，諸比丘！如何稱之為：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之身業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯殺生業

...pe...

此世界上，諸比丘！有某些（人類）曾犯殺生——

殘酷兇暴、雙手血腥；

心^ㄊ已^ㄩ被^ㄉ執^ㄉ著^ㄊ， 專^ㄊ門^ㄊ從^ㄉ事^ㄆ於^ㄊ殺^ㄆ害^ㄆ、 征^ㄊ服^ㄆ、 襲^ㄊ擊^ㄆ；

對^ㄉ於^ㄊ一^ㄩ切^ㄊ存^ㄉ活^ㄆ之^ㄊ生^ㄆ命^ㄊ， 已^ㄩ毫^ㄉ無^ㄉ慈^ㄉ悲^ㄉ心^ㄊ而^ㄊ陷^ㄊ入^ㄊ犯^ㄆ戒^ㄆ！

二、 犯偷盜業

曾^ㄆ犯^ㄆ拿^ㄆ起^ㄆ未^ㄉ被^ㄉ給^ㄆ與^ㄊ者^ㄊ——

任^ㄊ何^ㄆ他^ㄆ人^ㄊ存^ㄉ放^ㄆ在^ㄆ別^ㄊ處^ㄆ之^ㄊ財^ㄆ物^ㄆ， 無^ㄉ論^ㄆ是^ㄆ放^ㄆ在^ㄆ村^ㄆ落^ㄆ、 或^ㄆ放^ㄆ在^ㄆ郊^ㄆ外^ㄆ之^ㄊ阿^ㄆ蘭^ㄆ若^ㄆ；

彼^ㄉ對^ㄉ於^ㄊ不^ㄉ被^ㄉ給^ㄆ與^ㄊ（ 之^ㄊ財^ㄆ物^ㄆ） 存^ㄉ在^ㄆ盜^ㄆ心^ㄊ， 已^ㄩ造^ㄆ作^ㄆ偷^ㄆ盜^ㄆ之^ㄊ行^ㄆ為^ㄆ。

三、 犯邪婬業

曾^ㄆ犯^ㄆ婬^ㄆ欲^ㄊ邪^ㄊ行^ㄆ——

(1) 彼^ㄉ（ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 任^ㄊ何^ㄆ已^ㄩ有^ㄆ母^ㄆ親^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(2) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ父^ㄆ親^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(3) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ雙^ㄆ親^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(4) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ兄^ㄆ弟^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(5) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ姊^ㄆ妹^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(6) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ親^ㄆ族^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(7) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ種^ㄆ姓^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(8) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ法^ㄆ定^ㄆ監^ㄆ護^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(9) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ有^ㄆ丈^ㄆ夫^ㄆ所^ㄆ有^ㄆ人^ㄊ（ 之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(10) （ 或^ㄆ交^ㄆ際^ㄆ） 已^ㄩ被^ㄉ免^ㄆ除^ㄆ杖^ㄆ罰^ㄆ（ 受^ㄆ法^ㄆ律^ㄆ特^ㄆ別^ㄆ保^ㄆ護^ㄆ之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(11) 乃^ㄆ至^ㄆ或^ㄆ（ 交^ㄆ際^ㄆ） 環^ㄆ繞^ㄆ著^ㄆ華^ㄆ鬢^ㄆ串^ㄆ（ 已^ㄩ有^ㄆ婚^ㄆ約^ㄆ之^ㄊ婦^ㄆ女^ㄆ） ；

(12) 當彼交際之際、訪問以後、已陷入與類似之(婦女違犯邪淫)。

evaṃ kho, bhikkhave, tividhā kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱爲：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之身業過失，而招感不幸之苦果！』

第三節 語業四種

“Kathañca, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti

又，諸比丘！如何稱爲：『有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之語業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯妄語業

...pe...

此世界上，諸比丘！有某些(人類)曾說謊話——

- (1) 或來到會議廳之後；
- (2) 或來到集會處之後；
- (3) 或來到親里中之後；
- (4) 或來到社團中之後；
- (5) 或來到法廷中之後；

當目擊證人已帶來訊問，說：

『來！善男子！請講說汝所發現之事？』

- ① 當彼不知之時，或說：『我知！』
- ② 當彼知時，或說：『我不知！』
- ③ 當彼未見之時，或說：『我看見！』

④ 當彼看見之時，或說：『我未見！』
如此！或因為自己、或因為他人、或因為這些許財物之理由，而存在已故意說謊話。

二、犯兩舌業

曾犯挑撥離間語——

從此處聞已，而後告密於彼處，以製造此處諸人之矛盾；

或從彼處聞已，而後告密於此處，以製造彼處諸人之矛盾。

如此，或為和合團結之破壞者、或為矛盾鬥爭之鼓勵者，熱衷於分化團體、分化團體後而歡喜、因團體爭吵分裂而喜悅；

曾有作過：發表分化團體之言論。

三、犯惡口業

曾犯粗暴語——

舉凡自己說過激烈、粗暴之語氣，充滿憤怒、害他人痛苦、激怒他人（等言語暴力）；

曾發表過導致（內心）不平靜之類似言論。

四、犯綺語業

曾犯雜穢語——

不適時溝通、不說明真相，不陳述道理、弘揚邪法、演說非律；

曾發表過無價值、不合時宜、不合理、漫無邊際、不帶來公益之言論。

evaṃ kho, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱爲：『有四種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之語業過失，而招感不幸之苦果！』

第四節 意業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti

又，諸比丘！如何稱爲：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之意業過失，而招感不幸之苦果』耶？

一、犯貪欲業

...pe...

此世界上，諸比丘！有某些（人類）貪愛羨求——

彼既貪婪於凡是他人存放之財物，彼又存在妄想：

『噢！但願凡是他人之事物，都皆可變成我所擁有！』

二、犯瞋恚業

由於瞋心以後，已有作惡事之意圖——

（心想：）

『(1) 或令諸有情被殺害；

(2) 或令其被逮捕、捕捉（在監獄、陷阱等中）；

(3) 或令其被消滅（肉體）；

(4) 噢！我或我等令其被失蹤、消失（於世間）！』

三、 犯邪見業

由於有顛倒之見解以後，變成邪見——
（心想：）

- 『 (1) 無佈施（福田後之功德）；
 (2) 無供養（神明後之功德）；
 (3) 無祭祀（祖先後之功德）；
 (4) 無善惡業行果報之異熟；
 (5) 無此世（善惡業行之果報）；
 (6) 無他世（善惡業行之果報）；
 (7) 無奉養母親（盡孝道後之功德）；
 (8) 無奉養父親（盡孝道後之功德）；
 (9) 無化生有情（證不還果之聖者）；
 (10) 世界上無沙門、婆羅門之真正修行者，
 已邁向完全聖道之路程；

無論此世，或他世（過去或未來）——
 （皆無聖者）當自身通智，已經圓滿親證
 以後，正在為他人宣說（佛法）者。』

evaṃ kho, bhikkhave, tividhā manokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱為：『有三種有害之認識和意圖，由於自犯惡意之意業過失，而招感不幸之苦果！』

第五節 十惡果報

“Tividha kāyakammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti,

(1) 諸比丘！依三種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『身業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄；

catubbidhavadakkammanta...pe...

(2) 諸比丘！依四種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『語業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄；

tividhamanokammantasandosabyāpatti akusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti.

(3) 諸比丘！依三種有害認識和意圖之因緣，由於自犯惡意之『意業』過失，有情身壞命終以後，或投生於不幸福之惡道（傍生），或受苦難於（十寒）地獄。

“Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā byantībhāvaṃ vadāmi,

諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而會消滅！』

tañca kho ditṭheva dhamme upapajje vā apare vā pariyāye.

應當發現：無論根據現在（所說）往生法門之教導，或者根據未來（所說）往生法門之教導，都是如此！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ
appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi.

正_レ是_レ如_レ此_{ナリ}， 諸_レ比_ク丘_ク！ 我_レ不_レ曾_レ說_ス： 『 已_レ被_レ故_ク
思_ム業_セ（ 認_ル識_ヲ和_シ意_ヲ圖_ク） 所_レ累_カ積_ム之_レ惡_セ行_フ， 若_ク非_レ
已_レ被_レ受_ル報_ク， 而_レ能_ズ夠_ク作_ス苦_ク之_レ邊_{ナリ}際_{ナリ}！ 』

卍 卍 卍

第三章 ☆ 十善思業

第一節 🍀 善業概說

“Tatra kho, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti;

(1) 但_レ是_レ，諸_レ比_レ丘_レ！於_レ此_レ有_レ三_レ種_レ美_レ德_レ之_レ認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ，由_レ於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ『身_レ業_レ』財_レ富_レ，而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ；

catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti;

(2) 有_レ四_レ種_レ美_レ德_レ之_レ認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ，由_レ於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ『語_レ業_レ』財_レ富_レ，而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ；

tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

(3) 有_レ三_レ種_レ美_レ德_レ之_レ認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ，由_レ於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ『意_レ業_レ』財_レ富_レ，而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ。

第二節 🍀 身業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti

又_レ，諸_レ比_レ丘_レ！如_レ何_レ稱_レ為_レ：『有_レ三_レ種_レ美_レ德_レ之_レ認_レ識_レ和_レ意_レ圖_レ，由_レ於_レ成_レ就_レ快_レ樂_レ之_レ身_レ業_レ財_レ富_レ，而_レ招_レ感_レ幸_レ福_レ之_レ樂_レ果_レ』耶_レ？

一、離殺生業

...pe...

此_レ世_レ界_レ上_レ，諸_レ比_レ丘_レ！有_レ某_レ些_レ（人_レ類_レ）已_レ放_レ棄_レ殺_レ生_レ、已_レ迴_レ避_レ殺_レ生_レ——

已_レ放_レ下_レ棍_レ棒_レ、已_レ放_レ下_レ刀_レ劍_レ（等_レ兇_レ器_レ）；

曾謙卑地本著責任良知，而感得到慚恥不安；
已轉變為有慈悲、憐憫心；
已利益幫助、同情體恤於一切存活之生命，
而居住生活。

二、離偷盜業

已放棄不與取、已迴避不與取——
任何他人存放之財物，無論是在
村落、或放在郊外之阿蘭若；
彼對於不被給與（之財物）不存盜心，
已不造作偷盜之行。

三、離邪淫業

已放棄淫欲邪行、已迴避淫欲邪行——
(1) 彼（不交際）任何已有母親監護人（之婦女）；
(2) （不交際）已有父親監護人（之婦女）；
(3) （不交際）已有雙親監護人（之婦女）；
(4) （不交際）已有兄弟監護人（之婦女）；
(5) （不交際）已有姊妹監護人（之婦女）；
(6) （不交際）已有親族監護人（之婦女）；
(7) （不交際）已有種姓監護人（之婦女）；
(8) （不交際）已有法定監護人（之婦女）；
(9) （不交際）已有丈夫所有人（之婦女）；
(10) （不交際）已被免除杖罰（受法律特別保護之婦女）；
(11) 乃至亦（不交際）環繞著華鬘串（已有婚約之婦女）；

(12) 當彼不交際之際、訪問以後、已迴避與類似之（婦女違犯邪淫）。

evaṃ kho, bhikkhave, tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱爲：『有三種美德之認識和意圖，由於成就快樂之身業財富，而招感幸福之樂果！』

第三節 語業四種

“Kathañca, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti

又，諸比丘！如何稱爲：『有四種美德之認識和意圖，由於成就快樂之語業財富，而招感幸福之樂果』耶？

一、離妄語業

...pe...

此世界上，諸比丘！有某些（人類）已放棄謊話、已迴避謊話——

- (1) 或來到會議廳之後；
- (2) 或來到集會處之後；
- (3) 或來到親里中之後；
- (4) 或來到社團中之後；
- (5) 或來到法廷中之後；

當目擊證人已帶來訊問，說：

『來！善男子！請講說汝所發現之事？』

- ① 當彼不知之時，或說：『我不知！』
- ② 當彼知道之時，或說：『我知道！』
- ③ 當彼未見之時，或說：『我未見！』

④ 當彼看見之時，或說：『我看見！』
如此！既不因為自己，又不因為他人，或不
因為些許財物之理由，不存己意說
謊話。

二、離兩舌業

已放棄挑撥語、已迴避離間語——
不從此處聞已，而後告密於彼處，以製造
此處諸人之矛盾；

亦不從彼處聞已，而後告密於此處，以製
造彼處諸人之矛盾。

如此，或為被破壞後之調停者、或為融
合一致之鼓勵者，熱衷於和合團結、和合團
結後而歡喜、因團體和合團結而喜悅；

曾有作過：發表調解團體分裂、和合團
結之言論。

三、離惡口業

已放棄粗暴語、已迴避粗暴語——
舉凡自己說過柔和無瑕、優雅悅耳、和藹
可親、愜意迷人、彬彬有禮（等言語）；

曾發表過讓眾人愉快、讓眾人悅意之類
言論。

四、離綺語業

已放棄雜穢語、已迴避雜穢語——
適時溝通、說明真相，陳述道理、弘揚正
法、演說聖律；

曾發表過有價值、及時、合理、有根據、帶來公益之言論。

evam kho, bhikkhave, catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸比丘！如此稱為：『有四種美德之認識和意圖，由於成就快樂之語業財富，而招感幸福之樂果！』

第四節 意業三種

“Kathañca, bhikkhave, tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti

又，諸比丘！如何稱為：『有三種美德之認識和意圖，由於成就快樂之意業財富，而招感幸福之樂果』耶？

一、離貪欲業

...pe...

此世界上，諸比丘！有某些（人類）不貪愛羨求——

彼既不貪婪於凡是他人存放在別處之財物，彼又不存在妄想：

『噢！但願凡是他人之事務，都可變成為我所擁有！』

二、離瞋恚業

由於離瞋心以後，已無作惡事之意圖——

（心想：）『當令諸有情，仁慈祥和、離瞋無惱、離苦得樂，由於自己（和法之皈依）而獲得濟度！』

三、離邪見業

由_一於_一無_一顛_一倒_一之_一見_一解_一以_一後_一， 成_一就_一正_一見_一——

(心_一想_一：) 『 (1) 有_一佈_一施_一 (福_一田_一後_一之_一功_一德_一) ；

(2) 有_一供_一養_一 (神_一明_一後_一之_一功_一德_一) ；

(3) 有_一祭_一祀_一 (祖_一先_一後_一之_一功_一德_一) ；

(4) 有_一善_一惡_一業_一行_一果_一報_一之_一異_一熟_一；

(5) 有_一此_一世_一 (善_一惡_一業_一行_一之_一果_一報_一) ；

(6) 有_一他_一世_一 (善_一惡_一業_一行_一之_一果_一報_一) ；

(7) 有_一奉_一養_一母_一親_一 (盡_一孝_一道_一後_一之_一功_一德_一) ；

(8) 有_一奉_一養_一父_一親_一 (盡_一孝_一道_一後_一之_一功_一德_一) ；

(9) 有_一化_一生_一有_一情_一 (證_一不_一還_一果_一之_一聖_一者_一) ；

(10) 世_一界_一上_一有_一沙_一門_一、 婆_一羅_一門_一之_一真_一正_一修_一行_一者_一，
已_一邁_一向_一完_一全_一聖_一道_一跡_一之_一路_一程_一；

無_一論_一此_一世_一， 或_一他_一世_一 (過_一去_一或_一未_一來_一) ——

(皆_一有_一聖_一者_一) 當_一自_一身_一通_一智_一， 已_一經_一圓_一滿_一親_一證_一以_一後_一， 正_一在_一為_一他_一人_一宣_一說_一 (佛_一法_一) 者_一。 』

evaṃ kho, bhikkhave, tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti.

諸_一比_一丘_一！ 如_一此_一稱_一為_一： 『 有_一三_一種_一美_一德_一之_一認_一識_一和_一意_一圖_一， 由_一於_一成_一就_一快_一樂_一之_一意_一業_一財_一富_一， 而_一招_一感_一幸_一福_一之_一樂_一果_一！ 』

第五節 十善果報

“Tividhakāyakammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bheda param maraṇā sugatiṃ saggaṃ lokaṃ upapajjanti;

(1) 諸_一比_一丘_一！ 依_一三_一種_一美_一德_一認_一識_一和_一意_一圖_一之_一因_一緣_一， 由_一於_一成_一就_一快_一樂_一之_一『 身_一業_一』 財_一富_一， 有_一情_一身_一壞_一命_一終_一以_一後_一， 或_一投_一生_一於_一 (人_一類_一) 幸_一福_一之_一善_一道_一， 或_一天_一界_一之_一極_一樂_一國_一土_一；

catubbidhavacīkammantasampatti...pe...

(2) 諸比丘！依四種美德認識和意圖之因緣，由於成就快樂之『語業』財富，有情身壞命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土；

tividhamanokammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā, bhikkhave, sattā kāyassa bhedā param maraṇā sugatiṃ saggam lokam upapajjanti

(3) 諸比丘！依三種美德認識和意圖之因緣，由於成就快樂之『意業』財富，有情身壞命終以後，或投生於（人類）幸福之善道，或天界之極樂國土。

...pe.... [upapajjanti. (syā. ka.) tathā sati "nāhaṃ bhikkhave sañcetanikāna" miccādinā vuccamānavacanena saha ekasuttanti gahetabbaṃ. peyyālena pana purimasutte viya nigamanam dassitam]

諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而會消滅！』

應當發現：無論根據現在（所說）往生法門之教導，或者根據未來（所說）往生法門之教導，都是如此！

正是如此，諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而能夠作苦之邊際！』」

Aṭṭhamam.

故思業之二經 ～業所生身品・第八經終

～《增支部經典・十集・五十經篇之五・業所生身品・Dutiyasañcetanikasutta 故思業之二經》(AN 10.218)



第十五品 ☆ 業所生身經

Karajakāyasutta (AN 10.219)

【巴利佛經】

9. *Karajakāyasuttaṃ*

《業所生身經》

☆ 業所生身 (*Karajakāyena*) ⇒

字義叫做：由於造業所結生的生命形態；

又或譯為：業報身、業生身。

☆ 故思業 (*Sañcetanikānaṃ kammānaṃ*) ⇒

解說：故，是故意；思，認識和意圖；業，是行為；

根據有意圖的善惡業動機，所造成的身語意之行為。

業和果不同！業是身語意三種行為，果是行為結果。

☆ 四無量心解脫 ⇒

① 慈心解脫 (仁者不憂：有慈心的人不會憂愁) ；

② 悲心解脫 (勇者不懼：有悲心的人不會恐懼) ；

③ 喜心解脫 (知足常樂：有喜心的人圓滿自足) ；

④ 捨心解脫 (智者不惑：有智慧的人不會迷惑) 。

《論語·憲問》「子曰：『君子道者三，我無能焉：仁者不憂，知者不惑，勇者不懼。』」

《長部經典·波梨品·第三十三經·合誦經》說示 (六出離界) ：

☆ 六出離界 (*Cha nissaraṇiyā dhātuyo*) ⇒

① 慈心解脫 ☞ 出離瞋恚；

② 悲心解脫 ☞ 出離傷害；

③ 喜心解脫 ☞ 出離不滿；

④ 捨心解脫 ☞ 出離貪染；

- ⑤ 無相心解脫 ☞ 出離色想；
- ⑥ 遠離我慢 ☞ 出離身見疑惑。

第一章 ☆ 業報總說

219. "Nāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā byantībhāvaṃ vadāmi,

(爾時，世尊說：)

「諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而會消滅！』」

tañca kho diṭṭheva dhamme upapajje vā apare vā pariyāye.

應當發現：無論根據現在（所說）往生法門之教導，或者根據未來（所說）往生法門之教導，都是如此！

Na tvevāhaṃ, bhikkhave, sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃveditvā dukkhassantakiriyaṃ vadāmi.

正是如此，諸比丘！我不曾說：『已被故思業（認識和意圖）所累積之惡行，若非已被受報，而能夠作苦之邊際！』」

卍 卍 卍

第二章 ☆ 解脫業報

“Sa kho so, bhikkhave, ariyasāvako evaṃ

如^レ此^ガ， 諸^ク比^ク丘^ノ！ 聖^ノ弟^ノ子^ニ 確^ク實^ニ以^テ自^レ己^ノ之^レ 行^ハ方^式（ 修^ス行^ハ方^式） ——

第一節 ♪ 慈心解脫

vigatābhijjho vigatabyāpādo asammūlho sampajāno paṭissato mettāsahagatena cetasā

經^ハ過^ク伴^ニ隨^フ心^ニ中^ニ慈^メ意^ノ之^レ加^フ行^ハ， 已^ニ離^レ貪^ヲ愛^ヲ羨^ヲ求^ム、
已^ニ離^レ瞋^ヲ恚^ヲ惡^ヲ意^ノ、 已^ニ統^メ一^ニ不^レ散^ル亂^ル（ 於^テ思^ム想^ス） 、
已^ニ洞^ク察^ス於^テ正^ニ知^ル、 已^ニ進^ム入^リ深^ク切^ク之^レ憶^ス念^ス；

ekaṃ disaṃ pharitvā viharati tathā dutiyaṃ tathā tatiyaṃ tathā catutthaṃ [catutthiṃ (?)].

如^レ此^ガ遍^ク布^ク充^メ滿^ク（ 慈^メ心^ニ） 於^テ某^ノ一^ノ方^ニ向^ス以^テ後^ニ、
以^テ此^ガ類^ヲ推^テ於^テ第^ニ二^ノ方^ニ向^ス、 第^ニ三^ノ方^ニ向^ス、 第^ニ四^ノ方^ニ向^ス、
皆^ク以^テ其^ノ方^ニ式^ニ而^テ居^リ住^ス生^ス活^ス。

Iti uddhamadho tiriyaṃ sabbadhi sabbattatāya sabbāvantaṃ lokaṃ

諸^ク如^レ此^ガ類^カ！ 彼^ノ依^テ上^ニ下^ニ、 橫^ニ遍^ク、 一^ニ切^ク處^ニ、 全^ク
世^ノ界^ニ、

mettāsahagatena cetasā vipulena mahaggatena appamāṇena averena abyāpajjena pharitvā viharati.

經^ハ過^ク伴^ニ隨^フ心^ニ中^ニ慈^メ意^ノ之^レ加^フ行^ハ， 遍^ク布^ク充^メ滿^ク以^テ後^ニ、
皆^ク以^テ開^ク闊^ク高^ク廣^ク、 無^ク量^ク無^ク邊^ク、 仁^ニ慈^ニ祥^ニ和^ニ、 離^レ
瞋^ヲ無^ク惱^ヲ之^レ（ 慈^メ心^ニ） ， 而^テ居^リ住^ス生^ス活^ス。

“So evaṃ pajānāti –

彼^ノ以^テ智^ク慧^ク如^レ此^ガ了^ク知^ル：

'pubbe kho me idaṃ cittaṃ parittaṃ ahosi abhāvitam,

『由於從前我確實未修習此心，因此曾經（心量）狹小；

etarahi pana me idaṃ cittaṃ appamāṇaṃ subhāvitam.

然而，現今我更加善修習此心，因此（心量）無限寬廣。

Yaṃ kho pana kiñci pamāṇakataṃ kammaṃ,

又但願，無論任何（所剩下）之大小業行——

na taṃ tatrāvasissati

彼於其處，或許將不會被保留下來；

na taṃ tatrāvatiṭṭhati'ti.

彼於其處，或許非持續堅固存在也！』

"Taṃ kiṃ maññatha, bhikkhave,

諸比丘！汝當對其如何評價耶？

daharatagge ce so ayaṃ [ce ayaṃ (syā.)] kumāro mettaṃ cetovimuttiṃ bhāveyya, api nu kho [api nu so (?)] pāpakammaṃ kareyyā'ti?

若初學者，從幼年開始，有可能修習慈心解脫；即便如此！彼是又能否不造作惡業耶？」

"No hetam, bhante".

「的確不然，大德！」

"Akarontaṃ kho pana pāpakammaṃ api nu kho dukkhaṃ phuseyyā'ti?

「復次，若無造作惡業（因緣），而能夠招感苦（果）耶？」

"No hetam, bhante.

「的確不然，大德！」

Akarontañhi, bhante, pāpakammaṃ kuto dukkhaṃ phusissatī"ti!

因_レ為_ス，大_ク德_キ！若_シ無_ク造_ス作_ス惡_ム業_セ（因_レ緣_ハ），從_テ何_レ處_ニ而_ル能_ク夠_ク招_ク感_ク苦_ヲ（果_ニ）耶_セ？」

"Bhāvetabbā kho panāyaṃ, bhikkhave, mettācetovimutti itthiyā vā purisena vā.

「復_シ次_カ，諸_ク比_ク丘_ニ！（無_ク論_カ男_ヲ女_ヲ——）此_カ慈_カ心_ヲ解_キ脫_セ，應_ニ能_ク被_ク（任_ク何_レ之_ニ）男_ヲ子_ヲ或_シ婦_ヲ女_ヲ所_ク修_ス習_ス。

Itthiyā vā, bhikkhave, purisassa vā nāyaṃ kāyo ādāya gamaniyo.

諸_ク比_ク丘_ニ！修_ス身_ヲ之_ニ正_ニ確_ニ方_ニ式_ヲ，被_ク男_ヲ子_ヲ或_シ婦_ヲ女_ヲ接_シ受_ス信_ヲ仰_テ以_テ後_ニ，將_ニ能_ク夠_ク被_ク奉_テ行_ス實_ヲ踐_ス。

Cittantaro ayaṃ, bhikkhave, macco.

諸_ク比_ク丘_ニ！超_テ越_テ此_カ心_ヲ中_ニ之_ニ死_ム魔_ヲ！

So evaṃ pajānāti –

彼_ヲ以_テ智_ヲ慧_ヲ如_ク此_カ了_シ知_ス：

'yaṃ kho me idaṃ kiñci pubbe iminā karajakāyena pāpakammaṃ kataṃ,

『無_ク論_カ如_ク何_レ！我_ニ確_ニ實_ヲ因_レ為_ス此_カ業_セ報_ク身_ヲ——不_レ道_ノ德_ノ之_ニ身_ヲ體_ヲ，過_シ去_シ已_ニ造_ス作_ス怎_ニ樣_ノ之_ニ惡_ム業_セ！

sabbaṃ taṃ idha vedaniyaṃ;

一_レ切_ク之_ニ彼_ヲ（業_セ），將_ニ會_ス被_ク受_ス報_ク於_レ此_カ世_ニ；

na taṃ anugaṃ bhavissatī"ti.

彼_ヲ（業_セ）將_ニ不_レ會_ス再_レ有_ス後_ニ續_ク之_ニ生_ム命_ノ形_ノ態_ヲ。』

Evaṃ bhāvitā kho, bhikkhave, mettā cetovimutti anāgāmitāya saṃvattati,

當_レ然_ト，諸_ク比_ク丘_ニ！比_ク丘_ニ如_ク此_カ修_ス習_ス慈_カ心_ヲ解_キ脫_セ已_ニ，能_ク導_ク致_ク不_レ還_ス果_ノ位_ニ——不_レ來_ス結_ス生_ム之_ニ生_ム命_ノ形_ノ態_ヲ；

idha paññassa bhikkhuno uttari [uttariṃ (sī. syā. pī.)] vimuttiṃ appaṭivijjhato.

於_レ此_カ世_ノ間_ニ，未_レ有_ス更_ク超_テ出_テ於_レ比_ク丘_ニ智_ヲ慧_ヲ之_ニ上_ニ，更_ク通_ス達_ス照_シ見_ス之_ニ解_キ脫_セ。

第二節 悲心解脫

“Karuṇāsahagatena cetasā...

經過伴隨心中悲意之加行，已離貪愛羨求、
已離瞋恚惡意、已統一不散亂（於思想）、
已洞察於正知、已進入深切之憶念；

如此遍布充滿（悲心）於某一方以後，
以此類推於第二方向、第三方向、第四方向，
皆以其方式而居住生活。

諸如此類！彼依上、下、橫、遍、一切處、全世界……。

第三節 喜心解脫

muditāsahagatena cetasā...

經過伴隨心中喜意之加行，已離貪愛羨求、
已離瞋恚惡意、已統一不散亂（於思想）、
已洞察於正知、已進入深切之憶念；

如此遍布充滿（喜心）於某一方以後，
以此類推於第二方向、第三方向、第四方向，
皆以其方式而居住生活。

諸如此類！彼依上、下、橫、遍、一切處、全世界……。

第四節 捨心解脫

upekkhāsahagatena cetasā

經過伴隨心中捨意之加行，已離貪愛羨求、
已離瞋恚惡意、已統一不散亂（於思想）、
已洞察於正知、已進入深切之憶念；

ekam disaṃ pharivā viharati tathā dutiyaṃ tathā tatiyaṃ tathā catutthaṃ.

如^母此^母遍^母布^母充^母滿^母（捨^母心^母）於^母某^母一^母方^母向^母以^母後^母，
以^母此^母類^母推^母於^母第^母二^母方^母向^母、第^母三^母方^母向^母、第^母四^母方^母向^母，
皆^母以^母其^母方^母式^母而^母居^母住^母生^母活^母。

Iti uddhamadho tiriyaṃ sabbadhi sabbattāya sabbāvantaṃ lokaṃ

諸^母如^母此^母類^母！彼^母依^母上^母下^母、橫^母遍^母、一^母切^母處^母、全^母
世^母界^母。

upekkhāsahagatena cetasā vipulena mahaggatena appamāṇena averena abyāpajjena
pharivā viharati.

經^母過^母伴^母隨^母心^母中^母捨^母意^母之^母加^母行^母，遍^母布^母充^母滿^母以^母後^母，
皆^母以^母開^母闊^母高^母廣^母、無^母量^母無^母邊^母、仁^母慈^母祥^母和^母、離^母
瞋^母無^母惱^母之^母（捨^母心^母），而^母居^母住^母生^母活^母。

“So evaṃ pajānāti –

彼^母以^母智^母慧^母如^母此^母了^母知^母：

‘pubbe kho me idaṃ cittaṃ parittaṃ ahosi abhāviṃ,

『由^母於^母從^母前^母我^母確^母實^母未^母修^母習^母此^母心^母，因^母此^母曾^母經^母
（心^母量^母）狹^母小^母；

etarahi pana me idaṃ cittaṃ appamāṇaṃ subhāviṃ.

然^母而^母，現^母今^母我^母更^母加^母善^母修^母習^母此^母心^母，因^母此^母（心^母
量^母）無^母限^母寬^母廣^母。

Yaṃ kho pana kiñci pamāṇakataṃ kammaṃ,

又^母但^母願^母，無^母論^母任^母何^母（所^母剩^母下^母）之^母大^母小^母業^母行^母——

na taṃ tatrāvasissati

彼^母於^母其^母處^母，或^母許^母將^母不^母會^母被^母保^母留^母下^母來^母；

na taṃ tatrāvatiṭṭhatīti.

彼^母於^母其^母處^母，或^母許^母非^母持^母續^母堅^母固^母存^母在^母也^母！』

“Taṃ kiṃ maññatha, bhikkhave,

諸比丘！汝當對其如何評價耶？

daharatagge ce so ayaṃ kumāro upekkhaṃ cetovimuttiṃ bhāveyya, api nu kho pāpakammaṃ kareyyā”ti?

若初學者，從幼年開始，有可能修習捨心解脫；即便如此！彼是又能否不造作惡業耶？」

“No hetam, bhante”.

「的確不然，大德！」

“Akarontaṃ kho pana pāpakammaṃ api nu kho dukkhaṃ phuseyyā”ti?

「復次，若無造作惡業（因緣），而能夠招感苦（果）耶？」

“No hetam, bhante.

「的確不然，大德！」

Akarontañhi, bhante, pāpakammaṃ kuto dukkhaṃ phusissatī”ti!

因為，大德！若無造作惡業（因緣），從何處而能夠招感苦（果）耶？」

“Bhāvetabbā kho panāyaṃ, bhikkhave, upekkhā cetovimutti itthiyā vā purisena vā.

「復次，諸比丘！（無論男女——）此捨心解脫，應能被（任何之）男子或婦女所修習。

Itthiyā vā, bhikkhave, purisassa vā nāyaṃ kāyo ādāya gamanīyo.

諸比丘！修身之正確方式，被男子或婦女接受信仰以後，將能夠被奉行實踐。

Cittantaro ayaṃ, bhikkhave, macco.

諸比丘！超越此心中之死魔！

So evaṃ pajānāti –

彼^ハ以^テ智^ク慧^ク如^ク此^ガ了^カ知^ス：

'yaṃ kho me idaṃ kiñci pubbe iminā karajakāyena pāpakammaṃ kataṃ,

『無^ク論^ラ如^ク何^カ！我^ハ確^ク實^ニ因^テ為^ス此^ガ業^ニ報^ク身^ニ——不^レ道^ク德^ク之^ニ身^ニ體^ニ，過^ク去^ク已^ニ造^ス作^ス怎^ニ樣^ニ之^ニ惡^ク業^ニ！

sabbaṃ taṃ idha vedanīyaṃ;

一^ニ切^ク之^ニ彼^ハ（業^ニ），將^テ會^ス被^ク受^ク報^ク於^テ此^ガ世^ニ；

na taṃ anugaṃ bhavissatī'ti.

彼^ハ（業^ニ）將^テ不^レ會^ス再^レ有^ス後^ニ續^ク之^ニ生^ル命^ノ形^ノ態^ナ。』

Evaṃ bhāvitā kho, bhikkhave, upekkhā cetovimutti anāgāmitāya saṃvattati,

當^テ然^ル，諸^ハ比^ク丘^ノ！比^ク丘^ノ如^ク此^ガ修^ス習^ス捨^ク心^ヲ解^ク脫^ス已^ニ，能^ク導^ク致^ク不^レ還^ス果^ニ位^ニ——不^レ來^ス結^ス生^ル之^ニ生^ル命^ノ形^ノ態^ナ；

idha paññassa bhikkhuno uttari vimuttiṃ appaṭivijjhato'ti.

於^テ此^ガ世^ノ間^ニ，未^レ有^ス更^ク超^ス出^ス於^テ比^ク丘^ノ智^ク慧^ク之^ニ上^ニ，更^ク通^ク達^ク照^ク見^ク之^ニ解^ク脫^ス。』

Navamaṃ.

業所生身經 ～業所生身品・第九經終

～ 《增支部經典・十集・五十經篇之五・業所生身品・Karajakāyasutta 業所生身經》 (AN 10.219)



第三篇 法句經選讀

Dhammapadapāli / The Path of Dhamma

第一品 ☆ 惡有惡報經

Ajagarapetavatthu (Dhp 10.6, 136)

【巴利佛經】

136.

(一三六偈：)

《惡有惡報經》

Atha pāpāni kammāni,

「惡人作惡業 (當造作許多缺德事時) ,

karam bālo na bujjhati;

愚者無明行 (愚人卻不覺知是愚行) ;

Sehi kammehi dummedho,

眾生感業苦 (他們隨即因自己愚蠢) ,

aggidaddhova tappati.

如火自焚身 (如同被火燒炙而懊惱) 。



(※ 法句經故事：惡有惡報 ～☺)

有一次，大目犍連尊者與勒叉那尊者一起下山時，看見一隻人面蛇身餓鬼；

大目犍連尊者以微笑表示他親眼看見這奇怪的眾生。

回到祇樹給孤獨園時，大目犍連尊者當著佛陀的面……

向勒叉那說有那麼一隻長長的、全身都在撻撻的人面蛇身餓鬼。

佛陀也說他成爲佛陀當天，也親眼看見這隻人面蛇身餓鬼。

佛陀說很久很久以前迦葉佛在世時，這隻餓鬼是個殘忍的小偷：幾次放火燒燬一位富人的房子。

甚至還趁迦葉佛外出化緣時，放火燒掉這位富人捐獻給迦葉佛的精舍。

由於這些惡業，他必須長久受報。

佛陀說：「愚痴的人造惡業時，不知正在造惡業，但無法逃避業報。」

惡有惡報經 ～刀杖品·第六經終

～ 《法句經·刀杖品·*Ajagarapetavatthu* 惡有惡報經》 (*Dhp 10.6, 136*)





☸ 我心清淨恆念四不壞信皈依處——

Three Precious Ones and Buddha's Commandments as my Refuge -

南無佛！南無法！南無僧！南無戒！

Namo Buddha! Namo Dhamma! Namo Sangha! Namo Sikkhapada!

☸ 迴向法界——

Love and blessings...

願以此功德，迴向雙親眷；

Willing to take the merit, bless to parents and family;

普及於一切，苦海常作舟。

Dedicated to all beings, dukkha-sea often for the boat.

善哉！善哉！善哉！

Good! Good! Good!



聖典凡例 *Text's Introduction*

一、編輯宗旨

☆ 自洲、法洲 —> 自燈明，法燈明！

～《長部經典·Mahāparinibbānasutta 大般涅槃經》(DN 16, 165)

“Ye hi keci, ānanda, etarahi vā mama vā accayena attadīpā viharissanti attasaraṇā anaññasaraṇā, dhammadīpā dhammasaraṇā anaññasaraṇā, tamatagge me te, ānanda, bhikkhū bhavissanti ye keci sikkhākāma”ti.

「阿難！於現在，或我滅後，若有天人『以自燈明，隨時自歸依，不歸依他人；以法燈明，隨時法歸依，不歸依他人』者——阿難！彼等，於我比丘眾中，將在最高境地，必定樂於修學。」

何為「法燈明、法歸依」？

原始的佛陀教法——「法與律」，應以「四聖諦」為依歸：

(1) *Yo vo, ānanda, mayā dhammo ca vinayo ca desito paññatto, so vo mamaccayena satthā.*

「阿難！依我為汝等，所說之『法與律』，於我滅後，當為汝等之大師。」
～《大般涅槃經》(DN 16, 216)

(2) 「苦諦實苦，不可令樂；集真是因，更無異因；苦若滅者，即是因滅，因滅故果滅；滅苦之道，實是真道，更無餘道。」
～《佛遺教經》

(3) 有關部派思想，與「四聖諦」不相應，不予收錄者，如下：

「① *Abhidhamma* 論藏、② *Therāpadānapāli* 長老譬喻、③ *Therīapadānapāli* 長老尼譬喻、④ *Buddhavaṃsapāli* 佛種姓、⑤ *Cariyāpīṭakapāli* 行藏、⑥ *Jātakapāli* 本生經。」

二、原典說明

(1) 《巴利原典》主要採用內觀研究所 (*Vipassana Research Institute, VRI*) 根據緬甸仰光第六次集結版。

以下縮寫，用於代表《巴利原典》的不同版本：

sī. = *Sri Lankan* 斯里蘭卡

syā. = *Thai* 泰國

pī. = *Pali Text Society* 巴利聖典協會 (PTS)

kaṃ. / ka. = *Cambodian* 柬埔寨

以下縮寫用於變體閱讀中，代指根本典籍或註釋書：

a. = *aṅguttaranikāyapāli* 增支部經典

aṭṭha. = *aṭṭhakathā* 義註

cūḷani. = *cūḷaniddesapāli* 小義釋
dī. = *dīghanikāyapāli* 長部經典
itivu. = *itivuttakapāli* 如是語經
jā. = *jātakapāli* 〈偽〉本生經
khu. = *khuddakanikāyapāli* 小部經典
ma. = *majjhimanikāyapāli* 中部經典
mahāni. = *mahāniddesapāli* 大義釋
mahāva. = *mahāvamsa* 大史
moga. / *moggallānabyākaraṇaṃ* = 目犍連文法
pa. = *paṭisambhidāmaggapāli* / *paṭṭhānapāli* 無礙解道、發趣論
pe. = *petavatthupāli* / *peṭakopadesapāli* / *peyyāla* 餓鬼事、三藏知津、省略語句
pu. = *puggalapaññattipāli* 人施設論
pāci. = *pācittiyapāli* 單墮篇
pārā. = *pārājikakaṇḍapāli* 驅擯篇
saṃ. = *saṃyuttanikāyapāli* 相應部經典
su. = *suttapiṭaka* / *suttaṃ* 經藏、戒經
theragā. = *theragāthāpāli* 長老偈
udā. = *udānapāli* 自說經
vi. = *vimānavatthupāli* 天宮事
visuddhi. = *visuddhimagga* 清淨道論
ṭī. / *ṭīkā* = 複註

在下面的例子中，斯里蘭卡，泰國和 PTS 版本都是 “*vāssa*”，而不是 “*vā assa*” ——

'Atthi me attā'ti vā assa [vāssa (sī. syā. pī.)] saccato thetato diṭṭhi uppajjati;

或譯者註，他_生起_常見_見，當_作真_理：「有_一個_真我_！」

(2) 【巴利聖典】略縮寫 ⇒ ① *DA* 法藏、*DN* 長部、*MN* 中部、*SN* 相應部、*AN* 增支部、*KN* 小部、*Khp* 小誦經、*Dhp* 法句經、*Ud* 自說經、*Iti* 如是語、*Snp* 經集、*Viv* 天宮事、*Pev* 餓鬼事、*Thag* 長老偈、*Thig* 長老尼偈、*Mnd* 大義釋、*Cnd* 小義釋、*Ps* 無礙解道、*Ne* 導論、*Pe* 三藏知津、*Miln* 彌蘭王問經、② *VA* 津藏、*BV* 比丘類、*NV* 比丘尼類、*MV* 津藏大品、*CV* 津藏小品、*PV* 津藏附隨、*DV* 戒本與目錄。

三、書籤提要

以下範例，為書籤提要，取代註解、說明——

☆ *kāya-anu-passī* 詳細 (*anu*) 觀看 (*passī* 發現) 身 (*kāya*) ⇒ *kāye kāyānupassī* 在身體中，詳細觀看、發現身體。

四、助印須知

本次結集，保留《巴利原典》，並除去一切註解、說明，原因有四：

(1) 一篇完善的翻譯，應是：「所_レ見_レ，即_レ所_レ得_レ！」。不應，再增加註解、說明……，以致干擾《巴利原典》的對讀！

(2) 即使，再完善的翻譯文字，其內涵、其價值……，皆無法與《巴利原典》，相提並論！

更何況，翻譯錯誤、不精確等……時常發生！

有鑑於疏漏情況，在所難免，保留《巴利原典》，這意味著——保留日後修正、校對的可能性！

(3) 佛陀是最好的心靈良醫：

「我_レ如_レ良_レ醫_レ，知_レ病_レ說_レ藥_レ，服_レ與_レ不_レ服_レ，非_レ醫_レ咎_レ也_レ。又_レ如_レ善_レ導_レ，導_レ人_レ善_レ道_レ，聞_レ之_レ不_レ行_レ，非_レ導_レ過_レ也_レ！」 ~《佛遺教經》

不論，這藥方是——巴利語轉寫、英文、還是漢文？若真想，了脫生死、苦海得渡……，皆當勉勵學之！

(4) 因為，佛法出現於世，實是稀有、難得呀！不是嗎……？

所以，真學佛人，應該培養：「以_レ翻_レ譯_レ，為_レ輔_レ助_レ工_レ具_レ，多_レ多_レ閱_レ讀_レ《巴_レ利_レ原_レ典_レ》的好_レ習_レ慣_レ。」才是明智之舉！

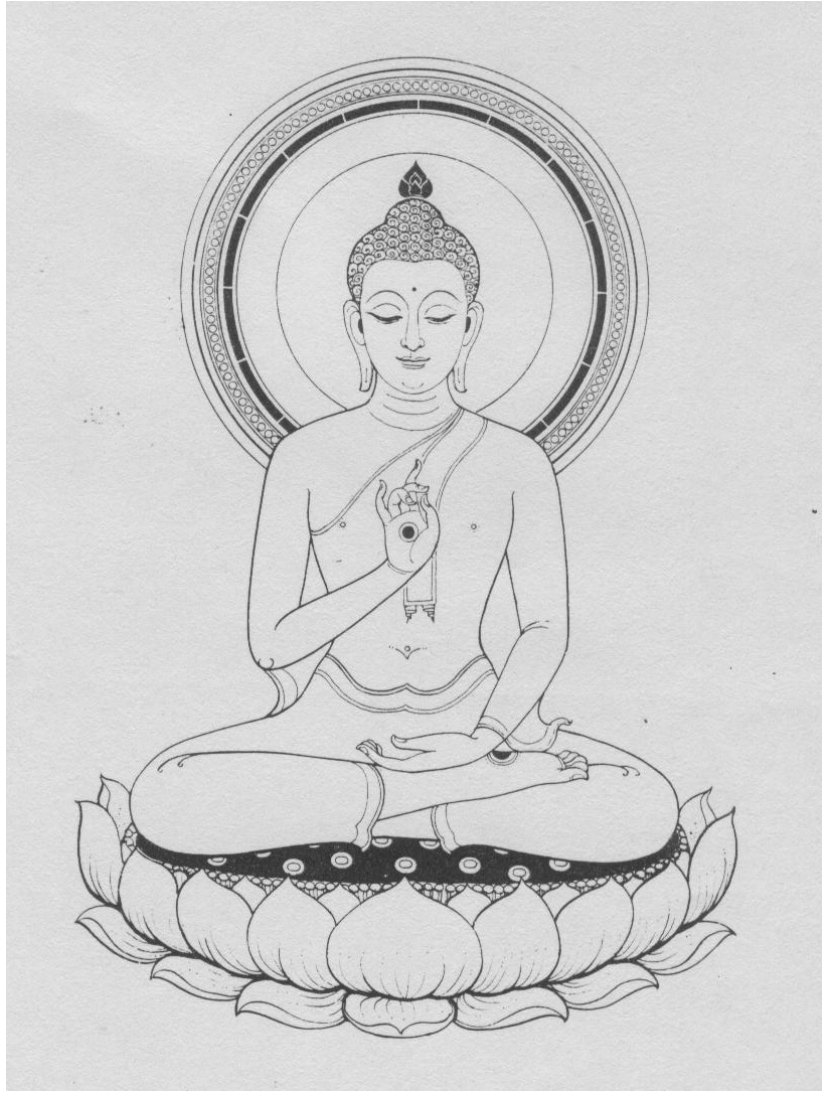
菩提僧團 心法師

謹誌於高雄【翠峰精舍】

佛曆 2557 (西曆 2014) 年 4 月 20 日

CSCD 參考網站：<https://www.tipitaka.org>

最後更新日期：佛曆 2565.4.21 (四)



免_カ費_マ流_カ通_マ，歡_カ迎_マ助_マ印_マ！
Free circulation, welcomed posted!

★ 菩提僧團所譯的經典，以及巴利佛經，除了幫助他人學習戒律、定力和智慧外，不應該用於其他目的！並請保留：完整的經文內容和參考說明，非常感謝！ ★

The scriptures translated by the Bodhi Sangha, as well as the Pali Buddhist scriptures, should not be used for other purposes except to help others learn precepts, concentration and wisdom! And please keep: the complete of scripture content and reference description, thank you very much!

(請_カ注_マ意_マ裝_カ訂_マ邊_マ， 雙_カ數_マ頁_マ在_カ左_マ側_マ。)
Please note that the binding edge, double the number of pages on the left.

- ◎ 結集者： 菩提僧團 Ven. Devacitta 佛曆 2562. 6. 7 初稿
- ◎ 出版者： 菩提僧團 <https://fuzi.nidbox.com>
- ◎ 倡印者： 翠峰精舍 palitxt@yahoo.com ㄣ
- ◎ 印贈處：
- ◎ 助印者：

